

# 言語習得研究と英語教育の新展開 (下)

— 「時制」「相」の思考実験を指導に生かす

New Development of English Teaching and Language Acquisition  
through Thought Experiment of TENSE and ASPECT (2)

寺島 隆吉 (岐阜大学)

TERASIMA Takayosi

後藤 幸子 (岩野田中学校)

GOTOH Sachiko

- 4 東濃高等学校での調査
  - 4-1 調査の概要と調査用紙
  - 4-2 A表の集計を終えて
    - 4-2-1 誤答例と誤答数
    - 4-2-2 間違いが多い順
    - 4-2-3 無回答について
    - 4-2-4 習得順序の比較 (東濃高校生版)
  - 4-3 B表の集計を終えて
    - 4-3-1 誤答者数①・②
    - 4-3-2 誤答例と誤答数
- 5 郡上高等学校での調査結果
  - 5-1 調査の概要と調査用紙
  - 5-2 A表の集計を終えて
    - 5-2-1 誤答者数①②
    - 5-2-2 誤答例と誤答数
    - 5-2-3 誤答の順位 (多い順)
  - 5-3 習得順序の比較 (郡上高校生版)
  - 5-4 B表の集計を終えて
    - 5-4-1 集計結果 (誤答人数)
    - 5-4-2 誤答例と誤答数
  - 5-5 間違いが多い順
- 6 高等学校での調査のまとめ
  - 6-1 高校生A表の結果
    - 6-1-1 A表回答欄の番号付け
    - 6-1-2 誤答者数
    - 6-1-3 誤答例と誤答数
    - 6-1-4 完了進行形について
    - 6-1-5 A表のまとめ
  - 6-2 高校生B表の結果
    - 6-2-1 誤答数と誤答率
    - 6-2-2 誤答例と誤答数の考察
    - 6-2-3 B表のまとめ
- 7 中学生と高校生のまとめ
  - 7-1 A表の結果
    - 7-1-1 A表の回答欄の番号
    - 7-1-2 誤答数と誤答率
    - 7-1-3 誤答例のまとめ
  - 7-2 B表の結果
    - 7-2-1 B表の回答欄の番号
    - 7-2-2 誤答人数と誤答率
    - 7-2-3 誤答例のまとめ
  - 7-3 習得順序の比較
    - 7-3-1 誤答の平均率と間違いが多い順位
    - 7-3-2 習得順序をめぐる若干の考察
  - 7-4 中間総括—この調査研究を教育にどう生かすか

おわりに  
参考文献

以下は (上) の目次である。

はじめに

- 1 研究の動機と概要
- 2 中学校での概要
- 3 中間総括

4 東濃高等学校での調査

4-1 調査の概要と調査用紙

中学生での調査結果を見て、同じ調査を高校生でも採って見たら結果はどうなるのだろうか、と思った。高校は学力やコースによって英語の授業時数が違っていたり、使用している教科書が違っていたりするが、普通科の高校で調査してみようと考えた。

岐阜県立東濃高等学校には普通科があり、東濃高等学校に調査を依頼したところ引き受けていただいた。ただし1年生はまだ全ての文法を学習していないため、1年生は中学生と同じ調査用紙で行った。調査の概要は次のとおりである。

<岐阜県立東濃高校で実施>

時間	英語の授業
実施人数	1年生32人, 3年生27人
内容	<A表> 1年生は中学3年生と同じ17番(下図参照)までのプリントを使用した。3年生は35番(下図参照)までのプリントを使用した。 <B表> 1・3年生とも、中学3年生と同じプリントを使用した。
採点方法	<A表> 大文字・小文字の間違ひも○, ピリオド・クエスチョンマークがなくても○, 「～」等で省略して全文を書いていないものは× <B表> スペルミス×
調査用紙	下記のように1年生用と3年生用の2種類

A表 (1年生用)

問題: He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。

未来形 will+原型  
 進行形 be動詞+ing形  
 完了形 have(has)+過去分詞形

原形	過去形	過去分詞形	ing形
play	played	played	playing

		肯定(ピリオドで終わる文)	否定(notがある文)	疑問(文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
完了形	現在			

Class No. Name \_\_\_\_\_

A表 (3年生用)

問題: He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。

未来形 will+原型  
 進行形 be動詞+ing形  
 完了形 have(has)+過去分詞形

原形	過去形	過去分詞形	ing形
play	played	played	playing

		肯定(ピリオドで終わる文)	否定(notがある文)	疑問(文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
	未来			
完了形	現在			
	過去			
	未来			

完了進行形	現在			
	過去			
	未来			
Class No. Name _____				

1年生は下図の解答欄の番号で、中学生と同じ1～17までを、3年生には全て（1～35）を解答させたので、解答欄を下図のように番号をつけ、中学校の集計結果と比較しやすくした。1年生用も3年生用も同じ解答欄は同じ番号である。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis.	1	2
	過去	3	4	5
	未来	6	7	8
進行形	現在	9	10	11
	過去	12	13	14
	未来	24	25	26
完了形	現在	15	16	17
	過去	18	19	20
	未来	21	22	23
完了進行形	現在	27	28	29
	過去	30	31	32
	未来	33	34	35

#### 4-2 A表の集計を終えて

問題1～17は全生徒が実施し、18～35は3年生のみが実施した。次の集計はその結果であり、表①と表②はそれぞれ視点を変えてまとめてみたものである。

<誤答者数①>

			番号	1年	3年	合計
単純形	現在	否 疑	1	15	8	23
			2	12	5	17
			3	5	2	7
	過去	肯 否 疑	4	14	6	20
			5	13	7	20
			6	2	3	5
	未来	肯 否 疑	7	5	3	8
			8	4	5	9
9			3	2	5	
進行形	現在	肯 否 疑	10	7	5	12
			11	8	6	14
			12	7	1	8
	過去	肯 否 疑	13	9	5	14
			14	11	6	17
			24		9	9
	未来	肯 否 疑	25		18	18
			26		19	19
			15	7	6	13
完了形	現在	肯 否 疑	16	10	8	18
			17	13	12	25
			18		1	1
	過去	肯 否 疑	19		5	5
			20		8	8
			21		8	8
	未来	肯 否 疑	22		13	13
			23		21	21
			27		25	25
完了進行形	現在	肯 否 疑	28		25	25
			29		27	27
			30		25	25
	過去	肯 否 疑	31		25	25
			32		27	27
			33		23	23
	未来	肯 否 疑	34		23	23
			35		25	25

<誤答者数②>

合計	単純形									進行形						完了形		
	現在			過去			未来			現在			過去			現在		
	肯	否	疑	肯	否	疑	肯	否	疑	肯	否	疑	肯	否	疑	肯	否	疑
1年 32人	0	5	12	5	14	13	2	5	4	3	7	8	7	9	11	7	10	13
3年 27人	0	8	5	2	6	7	3	3	5	2	5	6	1	5	6	6	8	12
合計 59人	0	3	17	7	20	20	5	8	9	5	12	14	8	14	17	13	18	25

中学校と同じように、それぞれの誤答者数から順位を出してみた。まず1年生と3年生で結果を別々に集計した。以下はその詳細である。

間違いが多い順① (1~17)

単純形	現在	肯定		否定		疑問	
		φ	位	23人	2位	17人	6位
	過去	7人	15位	20	3位	20	3位
	未来	5	16位	8	13位	9	12位
進行形	現在	5	16位	12	11位	14	8位
	過去	8	13位	14	8位	17	6位
完了形	現在	13	10位	19	5位	25	1位

間違いが多い順② (1~35)

単純形	現在	肯定		否定		疑問	
		φ	位	23人	9位	17人	18位
	過去	7人	31位	20	13位	20	13位
	未来	5	32位	8	27位	9	25位
進行形	現在	5	32位	12	24位	14	20位
	過去	8	27位	14	20位	17	18位
	未来	9	25位	18	17位	19	15位
完了形	現在	13	22位	19	15位	25	3位
	過去	1	35位	5	32位	8	27位
	未来	8	27位	13	22位	21	12位
完了進行形	現在	25	3位	25	3位	27	1位
	過去	25	3位	25	3位	27	1位
	未来	23	9位	23	9位	25	3位

4-2-1 誤答例と誤答数

誤答例と誤答数を問題別書き出してみたのが次の表である。中学校の時と同じように若干の考察をメモ風に書き留めておく。

1) 単純形

(1) 単純形・現在

項目	現在	番	誤答	1年	3年	合計
単純形	現在	1 否定	He isn't play tennis.	2	2	4
			He not plays tennis.	6	1	7
			He doesn't plays tennis.	1	1	2
			He not play tennis.	3	1	4
			He don't plays tennis.	1	1	2
			He don't play tennis.	1	2	3
			He plays not tennis.	1	0	1
			無回答	0	0	0
			合計	15	8	23
		2 疑問	Is he play tennis?	4	0	4
			He plays tennis?	1	0	1
			Does you play tennis?	1	0	1
			Does he plays tennis?	1	2	3
			Is he plays tennis?	3	1	4
			Do he play tennis?	1	0	1
			Do he plays tennis?	1	0	1
			Does he play tennis?	0	1	1
Do you play tennis?	0		1	1		
無回答	0	0	0			
合計	12	5	17			

現在形は中学生で最初に習うはずである。doesn'tを書いたのにplaysと三単現をつけたままにしてしまう間違いが一番多いと思っていたが、He not plays tennis. のように、doesだけでなくdoさえも書けない生徒が多いことに驚かされた。

BE動詞を「左半丸」の記号として使い、それを文頭に出して疑問文にし、その後に否定辞NOTをおいて否定文にする技術は、実際に母語話者もAIN'Tという形で使っている。「ain'tってなんですか」という質問に対して、インターネットでも次のような解説が載っていたので、参考のために引用しておく。(http://oshietel.goo.ne.jp/ga149715.html)

「ain't」に一番近いのは「are not」ですが、これはもうスラングで、人称にはあまり関係なく使われています。

- (1) I'm not /He isn't/You aren't.
- (2) I don't/He doesn't/We didn't.
- (3) I havn't seen it./ He hasn't done it.

などの否定をすべて一つにしたものがain'tです。あまり上品とは言えない表現で使える感じはしませんが力強さを誇示するような局面ではよく見ます。

- (4) I ain't got nobody that I can depend on.= haven't (俺には頼りにできる奴がいねー)
- (5) You ain't seen nothing yet.= haven't (お前はまだ何も見てない。お楽しみはこれからだぜ)
- (6) You ain't nothing but a hound dog. = aren't (おまえは女たらしのチンピラだ)

[ ain't + no ] は学校で学習する二重否定ではなく、ain't + noで「本当に全くない」の強否定になりますから注意が必要です。まあ、あまり上品な言葉ではないけれど、ブロードウェイミュージカルの巨匠リチャード・ロジャーズ&オスカー・ハマージェタインの名コンビが作った「オクラホマ」「回転木馬」「南太平洋」「王様と私」など数々の名作の中の歌詞には、この「ain't」がとても沢山出てきて、それなりにローカルカラーとか 階層といったものを巧く表現していますので、知っておいてもいいと思います。

(2) 単純形・過去

項目	過去	番	誤答	1年	3年	合計	
単純形	3 肯定		He was plays tennis.	1	0	1	
			He was play tennis.	2	1	3	
			He plaied tennis. (スペリングミス)	1	0	1	
			He did play tennis.	0	1	1	
			無回答	1	0	1	
			合計	5	2	7	
		4 否定		He doesn't play tennis.	2	0	2
				He doesn't played tennis.	1	0	1
				He not played tennis.	4	3	7
				He wasn't plays tennis.	1	0	1
				He wasn't play tennis.	2	1	3
				He wasn't played tennis.	1	0	1
				He played not tennis.	1	0	1
				He is not played tennis.	0	1	1
				He didn't played tennis.	0	1	1
			無回答	2	0	2	
		合計	14	6	20		
	5 疑問		Does he play tennis?	2	0	2	
			Did you play tennis?	1	1	2	
			Does he played tennis?	3	2	5	
			Was he play tennis?	3	0	3	
			Was he plays tennis?	1	0	1	
			Do he played tennis?	1	0	1	
			Is he played tennis?	0	1	1	
			Did he played tennis?	0	2	2	
			Dib (スペルミス) he play tennis?	0	1	1	
			無回答	2	0	2	
		合計	13	7	20		

一番多い間違いはHe didn't played tennis.ではないかと思っていたが、この間違いは1人しかいなかった。否定形で一番多い間違いがHe not played tennis.であるが、現在形でもHe not plays tennis.という間違いが多かったことから、do, does, didが正しく書けないことが分かる。

また、wasやisを使ってしまったbe動詞の間違いが6人いて、間違い全体のおよそ3分の1である。BE動詞と一般動詞の2つの動詞が1つの文章にあってはいけないことは中学校で習うが、多くの文法を習ううちに基本が薄れてしまったのだろうか。

しかし、AIN'Tが母語話者でも多く使われ、十分に通用していることを知って、左半丸を多様に使い分けるよりも、この方が簡便で合理的ではないかと思えてきた。本動詞の前にNOTを置いて否定にすることも、英語史を知ってみると「正しい間違い」であり、「個体発生は系統発生を繰り返す」という言葉を改めて思い出した。

### (3) 単純形・未来

項目	番	誤答	1年	3年	合計
単純形 未来	6 肯定	Will he play tennis.	1	0	1
		He plays tennis.	1	0	1
		He playing tennis.	0	1	1
		He will plays tennis.	0	2	2
		無回答	0	0	0
		合計	2	3	5
	7 否定	Will doesn't play tennis.	1	0	1
		He won't plays tennis.	1	0	1
		He not will play tennis?	1	0	1
		He not playing tennis.	0	1	1
		He willn't (スペルミス) plays tennis.	0	1	1
		He is not going to tennis.	0	1	1
		無回答	2	0	2
	合計	5	3	8	
	8 疑問	Does will play tennis?	1	0	1
		Will he plays tennis?	1	2	3
		Does he playing (スペルミス) tennis?	0	1	1
		Will you play tennis?	0	1	1
		無回答	2	1	3
	合計	4	5	9	

単純形で一番間違いが多いだろうと思っていたのは未来形である。しかし、結果はその反対で、未来形が一番間違いが少なかった。

しかし考えてみればそれも当然で、肯定文では「左半丸」として最初からWILLが存在するのだから、それを前に出せば疑問文になり、その後にNOTを置けば否定文になるのだから、これほど簡単な作業はない。

それに比べると現在や過去は、肯定文では存在しなかったDO (ES) やDIDを魔法のように作りださなければならぬのだから、これほど難しい作業はない。「無」から「有」をつくり出すのだから、まるで手品師である。

2) 進行形

(1) 進行形・現在

項目	番	誤答	1年	3年	合計
進行形 現在	9肯定	He playing tennis.	3	2	5
		無回答	0	0	0
		合計	3	2	5
	10否定	He isn't play tennis.	1	1	2
		He don't playing tennis.	1	1	2
		He not playing tennis.	2	1	3
		He doesn't playing tennis.	1	1	2
		He is notting play tennis.	0	1	1
		無回答	2	0	2
	合計	7	5	12	
	11疑問	Do he playing tennis?	1	0	1
		Is he not playing tennis?	1	0	1
		Does he playing tennis?	2	3	5
		Does he playing tennis?	0	2	2
		Is he play tennis?	0	1	1
		無回答	4	0	4
	合計	8	6	14	

接尾辞～ingを使っていない間違いは、現在形の全てのなかで3人である。～ingをつける語やつけ方が間違っているものもあるが、「進行形は～ingをつけなければならない」ということはとてもよく定着しているようだ。

しかし中学校の項でも述べたことだが、「進行形＝BE動詞＋現在分詞～ing」という「形式」が定着しているわけでない。定着しているのは～ingという形だけである。「肯定文」でも、BE動詞の欠けたHe playing tennis.という誤文が最も多いことが、何よりもそのことを示している。

また上記の表を見れば、疑問文でも、左半丸としてBE動詞ではなくDOやDOESを使う誤答が大多数を占めていることも、「進行形＝BE動詞＋現在分詞」という公式が定着していないことを何よりもよく示している。

(2) 進行形・過去

項目	番	誤答	1年	3年	合計
進行形 過去	12肯定	He played tennis.	2	1	3
		He be playing tennis.	1	0	1
		無回答	4	0	4
		合計	7	1	8
	13否定	He wasn't play tennis.	2	0	2
		He doesn't play tennis.	1	0	1
		He not playing tennis.	1	0	1
		He doesn't played tennis.	0	1	1
		He didn't playing tennis.	0	1	1
		He wan't (スペルミス) playing tennis.	0	1	1
		He was not playing (スペルミス) tennis.	0	1	1
		He was notting play tennis.	0	1	1
		無回答	5	0	5
	合計	9	5	14	
	14疑問	Was he play tennis?	2	2	4
		Does he play tennis?	1	0	1
		Was he playingのみ	1	0	1
		Was he not playing tennis?	1	0	1
		Did he playing tennis?	1	3	4
		Does he played tennis?	0	1	1
		無回答	5	0	5
合計	11	6	17		

間違いの中に「左半丸」として、was, does, didを使う誤答が混在している。進行形を「過去」にするには、BE動詞なのか、一般動詞なのか、迷っている生徒がいることがわかる。



つまり何度も言っているように、「進行形」が言語習得順で最初の方に来るということは、根本的に吟味し直す必要があるのである。

また、上記の誤答の中でも、Was he play tennis?とDid he playing tennis?が、間違いの中でも一番多い(同数で4例ある)ということは、「進行形=BE動詞+現在分詞」という公式どころか、「進行形は～ingをつけなければならない」という認識すら、本当に定着しているのかと怪しまれるほどである。

### 3) 完了形

#### (1) 完了形・現在

項目	番	誤答	1年	3年	合計
完了形 現在	15肯定	He have to play tennis.	1	0	1
		He has play tennis.	3	0	3
		He will have been playing tennis.	1	0	1
		He have played tennis.	2	5	7
		He has been played tennis.	0	1	1
		無回答	0	0	0
		合計	7	6	13
	16否定	He have not(haven't)played tennis.	2	4	6
		He doesn't have play tennis.	1	0	1
		He hasn't play tennis.	4	2	6
		He will have been playing tennis.	1	0	1
		He haven't play tennis.	1	0	1
		He not have played tennis.	0	1	1
		He have doesn't played tennis.	0	1	1
		無回答	1	0	1
	合計	10	8	18	
	17疑問	Have he played tennis?	2	4	6
		Has he play tennis?	4	1	5
		Have he play tennis?	1	0	1
		Will he have been playing tennis?	1	0	1
		Has he playing tennis?	1	0	1
		Has he not played tennis?	1	0	1
		Does he have played tennis?	0	2	2
		Did he play tennis?	0	1	1
		Has not he played tennis?	0	1	1
		無回答	3	3	6
	合計	13	12	25	

いわゆる「三単現」問題，すなちhaveをhasにできていない誤答が最も多い。しかし，これは完了形の公式「HAVE動詞+過去分詞～ed」が理解されているわけだから，間違いとしては小さな部類に入る。

深刻なのは，公式「HAVE動詞+過去分詞～ed」が与えられているにもかかわらず，He hasn't play tennis.やHave he play tennis?のように，playをplayedにできていない間違いが，「三単現」の間違いと同じくらい目立つことである。

これは何度も言っているように「眼の力」「識形力」の問題である。このような「見えない学力」をどう鍛えるかが真剣に検討されねばならないゆえんである。またこの完了形・現在形までが中学校で習う文法の範囲であるが，早くも疑問形で無回答が6人いることも気になる点だ。

以上が1・3年生の共通問題であった。以下「完了形・過去」「完了形・未来」「進行形・未来」「完了進行形」は3年生のみの調査である。



（2）完了形・過去

項目	番	誤答	1年	3年	合計	
完了形 過去	18肯定	He had done play tennis.		1	1	
		無回答		0	0	
		合計		1	1	
	19否定	He had not play tennis.			2	2
		He not had played tennis.			1	1
		He had played tennis.			1	1
		He have didn't played tennis.			1	1
		無回答			0	0
		合計			5	5
	20疑問	Does he had played tennis?			1	1
		Have he played tennis?			1	1
		Did he played tennis?			1	1
		Had not he played tennis?			1	1
		Did he have played tennis?			1	1
		無回答			3	3
		合計			8	8

完了形・過去であるが、完了形・現在よりも間違いが少ない。これは「三単現」の問題にわずらわされないからであろう。HAVE動詞の現在形はhave, hasの二とおりがあるが、過去形はhadのみだからである。

しかし疑問文をつくる時、Does he had played tennis? Did he played tennis? Did he have played tennis?のように、DoesやDidを文頭に出す誤答が目立つ。これは「疑問文では左半丸を文頭に出す」という原則を、「記号づけ」で教えておけば簡単に回避できる間違いである。

それにしても、He not had played tennis.やHad not he played tennis?のような誤答がなぜ生まれるのかを考えることは、人間の脳の働きを考えるうえで、何か貴重なヒントを与えてくれそうな気がするが、どうだろうか。

（3）完了形・未来

項目	番	誤答	1年	3年	合計	
完了形 未来	21肯定	He have will played tennis.		1	1	
		He will have play tennis.		1	1	
		He will		2	2	
		He had playing tennis.		1	1	
		He will has played tennis.		2	2	
		He having played tennis.		1	1	
		合計			8	8
	22否定	He have not will played tennis.			1	1
		He won't have play tennis.			1	1
		He will haven't played tennis.			3	3
		He			1	1
		He not had playing tennis.			1	1
		He will has not played tennis.			1	1
		He will have not play tennis.			1	1
		He willn't have played tennis.			1	1
		He having not played tennis.			1	1
		He will not has played tennis.			1	1
		無回答			1	1
		合計			13	13
		23疑問	Does he have will played tennis?			1
	Will he have play tennis?				1	1
	Will have he played tennis?				2	2
	Will have				1	1
	Will he have play tennis?				2	2
	Did he playing tennis?				1	1
	Will has he played tennis?				1	1
	Have he will played tennis?				2	2
	Have will he played tennis?				1	1
	Having he played tennis?				1	1
	Will he				1	1
	Have he will play tennis?				1	1
	無回答				6	6
	合計				21	21

否定文から誤答の内容がさまざまになってきた。それだけこの文型があやふやな理解であることがうかがえる。というよりも、完了形・未来の場合、「WILL+動詞原形」「HAVE+過去分詞」という二つの公式を「足し算」した「2重の複合形」をつくる作業の難しさを、上記の誤答は教えてくれる。

つまり「WILL+HAVE」としたうえで、さらに「HAVE+～ed」をその上に重ね合わせる作業ができなければならない。そのうえで「否定」の場合、NOTをどこにおくかという問題が生じる。つまり、ここでは助動詞として使われているWILLの後か、それともHAVEの後かで迷うわけである。

このような問題も「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文、最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように、「記号づけ」を使って視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば、Will have he played tennis? Will has he played tennis? Have he will played tennis? Have will he played tennis?といった誤答は大幅に減ったはずである。

次に扱うのは「未来進行形」である。「現在進行形」「過去進行形」は中学校で学習済みだが、「進行形」を「未来時」で使うのは高校に入ってからである。しかし、このような「未来進行形」「複合形」をつくる演習は意味を問題にしているのではなく、単に形として「複合形」をつくる演習であり、数学の計算と何ら変わらない。したがって以下では、この調査だけを高校に回したのは、あまり意味がなかったかも知れない。

#### 4) 進行形・未来

項目	番	誤答	1年	3年	合計
進行形 未来	24肯定	He will playing tennis.		4	4
		He will play tennis.		1	1
		He is playing tennis.		1	1
		He will be play tennis.		1	1
		He will is playing tennis.		1	1
		He is going to playing tennis.		1	1
		合計		9	9
		25否定	He will not palying tennis.		5
	He won't play tennis.			1	1
	He will be not playing tennis.			7	7
	He won't be play tennis.			1	1
	He is not playing tennis.			1	1
	He willn't playing tennis.			1	1
	He is not will playing tennis.			1	1
	He isn't going to playing tennis.			1	1
	合計		18	18	
	26疑問	Will he palying tennis?		7	7
		Will he play tennnis?		1	1
		Will be he playing tennis?		2	2
		Does he playing tennis?		1	1
		Will he is playing tennis?		2	2
		Would he playing tennis?		1	1
		Is he going to playing tennis?		1	1
		無回答		4	4
	合計		19	19	

未来なのでwillを使うということはよく理解できているようだ。しかし、完了形・未来と同じように、「WILL+動詞原形」「BE+現在分詞」という二つの公式を「足し算」した「2重の複合形」をつくる作業の難しさを、上記の誤答は教えてくれる。

つまり「WILL+原形BE」としたうえで、さらに「BE+～ing」をその上に重ね合わせる作業ができなければならない。そのうえで「否定」の場合、NOTをどこにおくかという問題が生じる。つまり、ここでは助動詞として使われているWILLの後か、それともBEの後かで迷うことになる。

だからこそ、NOTを置く位置があいまいになったり、BE動詞が正しい位置や正しい形で使えないことになったりするわけである。

このような問題も、「記号づけ」を使って「進行形・未来」の公式を定着させ、「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文，最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように，視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば，He will be not playing tennis. He is not will playing tennis. Will be he playing tennis? Will he is playing tennis?といった誤答は大幅に減ったはずである。

### 5) 完了進行形

この調査を行うときに調査用紙に間違いがあり，調査の結果に非常に影響を及ぼしてしまっている。その間違いとは以下のものである（このことについては，本論文の第5章で詳しく説明する）。

× 完了進行形…will + have + ing形

○ 完了進行形…have + been + ing形

よって，この完了進行形では結果についてのコメントは簡単なものにとどめ，誤答例と誤答数を下に載せることにする。

#### (1) 完了進行形・現在

項目	番	誤答	1年	3年	合計
完了進行形 現在	27肯定	He will have playing tennis.		17	17
		He will have play tennis.		1	1
		He will has playing tennis.		4	4
		He has been played tennis		1	1
		He will has been playing tennis.		1	1
		He has playing tennis.		1	1
		合計		25	25
	28否定	He will not have playing tennis.		9	9
		He won't have play tennis.		1	1
		He will haven't playing tennis.		2	2
		He won't have playing tennis.		3	3
		He will has not play tennis.		1	1
		He hasn't been played tennis.		1	1
		He will not playing tennis.		1	1
		He willn't has playing tennis.		1	1
		He will has not playing tennis.		1	1
		He will have not playing tennis.		1	1
		He will has been not playing tennis.		1	1
		He willn't have playing tennis.		1	1
		He will not has playing tennis.		1	1
		He hasn't playing tennis.		1	1
		合計		25	25
	29疑問	Will he have playing tennis?		7	7
		Will he have play tennis?		1	1
		Will have he playing tennis?		3	3
		Has he been play tennis?		1	1
		Will he has playing tennis?		3	3
		Has he will playing tennis?		1	1
		Will he has been playing tennis?		1	1
		Have you playing tennis?		1	1
		Does he have been playing tennis?		1	1
		Have he will playing tennis?		1	1
		Have will he playing tennis?		1	1
		Has he playing tennis?		1	1
		無回答			5
		合計		27	27

(2) 完了進行形・過去

項目	番	誤答	1年	3年	合計
完了進行形 過去	30肯定	He will had playing tennis.		7	7
		He will have played tennis.		1	1
		He would have playing tennis.		9	9
		He had been played tennis.		1	1
		He would had been played tennis.		1	1
		He will be had playing tennis.		1	1
		He had playing tennis.		1	1
		無回答		4	4
		合計		25	25
		31否定	He will not had playing tennis.		2
	He won't have play tennis.			1	1
	He wouldn't have playing tennis.			9	9
	He will had not play tennis.			1	1
	He hadn't been play tennis.			1	1
	He willn't had playing tennis.			1	1
	He will had not playing tennis.			2	2
	He would had been not played tennis.			1	1
	He hadn't palying tennis.			1	1
	He will hadn't playing tennis.			1	1
	無回答			5	5
	合計			25	25
	32疑問	Will he had playing tennis?		4	4
		Will he have play tennis?		1	1
		Would have he playing tennis?		1	1
		Had he been play tennis?		1	1
		Would he has playing tennis?		1	1
		Would he have playing tennis?		5	5
		Would you had been playing tennis?		1	1
		Have you playing tennis?		1	1
		Did he have been playing tennis?		1	1
		Had he will playing tennis?		1	1
		無回答		8	8
		合計		27	27

(3) 完了進行形・未来

項目	番	誤答	1年	3年	合計
完了進行形 未来	33肯定	He will have playing tennis.		4	4
		He will have play tennis.		1	1
		He will		1	1
		He		1	1
		He will have been played tennis.		1	1
		He will will had playing tennis.		1	1
		He will has been playing tennis.		1	1
		He will have been play tennis.		1	1
		He will have be playing tennis.		1	1
		無回答		11	11
	合計		23	23	
	34否定	He will not have playing tennis.		4	4
		He won't have play tennis.		1	1
		He won't have been play tennis.		1	1
		He will will has not playing tennis.		1	1
		He will has been not playing tennis.		1	1
		He will haven't playing tennis.		1	1
		He wil		1	1
		無回答		13	13
	合計		23	23	
	35疑問	Will he have playing tennis?		2	2
		Will he have play tennis?		2	2
		Will he has playing tennis?		1	1
		Will he will has playing tennis?		1	1
		Will he has been playing tennis?		1	1
		Have you been paly tennis?		1	1
		Have he will been palying tennis?		1	1
		無回答		15	15
		Will have he playing tennis?		1	1
		合計		25	25

「完了進行形・現在」では、間違っただけの公式「完了進行形…will + have + ing形」のとおり英文をつくらなかったものが、誤答例として一番多くなっている。つまり、He will have playing tennis.としたものが17人で、その他の誤答が⑧人、合計が25人である。

このクラスの被験者総数は27人だから、公式を無視して正しい解答（He has been playing tennis.）と書いた生徒は2人だけだったということになる。ということは、生徒は一見、公式を見ていないようでありながら、意外にも公式を見ながら解答を工夫していることが、このデータから知ることが出来る。

ここで興味深いのは、He will has playing tennis.という誤答者が4人いて、これが数としては2番目に多いことである。助動詞WILLの後には動詞原形にしなければならないのに、主語のHeに合わせてhasにしているわけである。普通は「三単現」という観念を忘れて、He have...とする誤答が多いことを考えると、非常に面白い現象である。

「完了進行形・現在」の否定文でも、He will not have playing tennis.が一番多く9人であり、その他の誤答が16人となり、誤答の種類が多様化する。そして誤答の総数がやはり25人になっていることを考えると、ここでも公式を無視して正しい解答（He has not been playing tennis.）と書いた生徒は2人だけだったということになる。

しかし、間違っただけの公式「完了進行形…will + have + ing形」に従って否定文をつくと、一番多かった誤答例（He will not have playing tennis.）になってしまう。しかし、ここでは「その他の誤答」が16人だから、「否定文は最初の左半丸の後に否定辞NOTを置く」という原則にしたがって論理的に演算できなかった生徒の方が多いということになる。

「完了進行形・現在」の疑問文では、Will he have playing tennis?という誤答が一番多く7人であり、その他の誤答が20人となり、無回答が5人という結果だった。これを合計すると、被験者総数の27人ということになり、正解者はゼロだったことが分かる。

しかも、「肯定文」「否定文」では無回答がゼロだったのに、ここでは無回答が5人ということを見ると、「疑問文」をつくるのが他の操作よりも難しいのではないかと想像される。「肯定文」で正解を作った生徒ならば、「最初の左半丸を文頭に出せば疑問文になる」という原則に従えば、簡単に疑問文をつくれるはずだからである。

それとも、「肯定文」→「否定文」→「疑問文」と順番に演算していくことに疲れて、最後は投げ出してしまったのだろうか。もしそうであれば、これは「見えない学力」＝「論理的に考える力」の欠如と言うよりも、もう一つの「見えない学力」＝「集中力」「持続力」の欠如ということになる。

しかし、それにしても、「最初の左半丸を文頭に出せば疑問文になる」という原則に従えば簡単に疑問文をつくれるのだから、これはやはり「見えない学力」＝「論理的に考える力」の欠如と言うべきであろう。肯定文で正解者が2人いたにもかかわらず、疑問文で正解がゼロになったことを考えると、尚更この感を強くする。

それにしても、Will have he playing tennis? Will he has playing tennis?といった解答が各々3人もいることを見ると、生徒が必死に思考力をめぐらして彼らなりの論理で疑問文を組み立てている様子が伝わってきて、ほほえましくなる。問題は、このような思考力を生かして正しい方向に伸ばすための指導理論・指導技術をいかに作り出すかである。その意味でも「記号づけ」の優位性を改めて確認できる気がする。

上記のような分析は、「完了進行形・過去」「完了進行形・未来」でも同じように展開できるが、ここでは原稿締め切りの時間も迫っているので割愛する。ただ一つだけ述べておきたいのは、「完了進行形・現在」「完了進行形・過去」「完了進行形・未来」のどれを取ってみても、「肯定」→「否定」→「疑問」と移行するにつれて無回答が確実に増えていること、しかし「完了進行形・未来」では、誤答の総数が「完了進行形・現在」「完了進行形・過去」より減っていることである。

「肯定」→「否定」→「疑問」と移行するにつれて無回答が確実に増える理由については既に考察したので、ここでは省略するが、「完了進行形・未来」で誤答数が減る理由については別の考察が必要であろう。なぜなら「完了進行形・現在」「完了進行形・過去」と違って「完了進行形・未来」は完了形と進行形という「複合形」が二つ重なっている上に更に「未来=WILL+原形」という「複合形」が加わるから、「足し算」が3重になり、誤答数が増えるはずだからである。

しかし「完了進行形・未来」の場合、既に間違った公式「完了進行形…will + have + ing形」で助動詞WILLが与えられているので、「足し算」が3重になるはずだったが、2重のままであり、その分だけ誤答数が減ったのではないかと考えられる。しかし他方で「未来では助動詞WILLを使うはずなのに既に公式でWILLが存在するとは？」と考えると思考が混乱し、その結果、誤答が増えたのではないかと想像される。

#### 4-2-2 間違いが多い順

項目1~17は全員(59人)が実施した共通問題。項目18~35は3年生のみ(27人)の実施である。ただし「完了進行形」についてはヒントに間違いがあったので、3年生では、これを除いたものを下に示した。

<間違いが多い順① 共通問題(1~17)>

順位	項目	人数
1	⑰完了形 現在 疑問	25人
2	①単純形 現在 否定	23
3	④単純形 過去 否定	20
	⑤単純形 過去 疑問	20
5	⑯完了形 現在 否定	19
6	②単純形 現在 疑問	17
	⑭進行形 過去 疑問	17
8	⑪進行形 現在 疑問	14
	⑬進行形 過去 否定	14
10	⑮完了形 現在 肯定	13
11	⑩進行形 現在 否定	12
12	⑧単純形 未来 疑問	9
13	⑦単純形 未来 否定	8
	⑫進行形 過去 肯定	8
15	③単純形 過去 肯定	7
16	⑥単純形 未来 肯定	5
	⑨進行形 現在 肯定	5

<間違いが多い順② 3年生のみ(1~35)>

順位	項目	人数
1	㉓完了形 未来 疑問	21
2	㉖進行形 未来 疑問	19
3	㉕進行形 未来 否定	18
4	㉒完了形 未来 否定	13
5	⑰完了形 現在 疑問	12
6	㉔進行形 未来 肯定	9
7	①単純形 現在 否定	8
	⑯完了形 現在 否定	8
	⑳完了形 過去 疑問	8
	㉑完了形 未来 肯定	8
11	⑤単純形 過去 疑問	7
	④単純形 過去 否定	6
	⑪進行形 現在 疑問	6
	⑭進行形 過去 疑問	6
15	⑮完了形 現在 肯定	6
16	②単純形 現在 疑問	5
	⑧単純形 未来 疑問	5
	⑩進行形 現在 否定	5
	⑬進行形 過去 否定	5
	⑰完了形 未来 否定	5
21	⑥単純形 未来 肯定	3
	⑦単純形 未来 否定	3
23	③単純形 過去 肯定	2
	⑨進行形 現在 肯定	2
25	⑫進行形 過去 肯定	1
	⑱完了形 過去 肯定	1

以上の結果を見ると、演算の操作回数が多いものが結果として誤答数を増やしていることが分かる。たとえば、<間違いが多い順① 共通問題>で最も間違いが多いのは「完了形・現在・疑問」であるが、これは「複合形」であり、左半丸を文頭に移動しなければならないからである。

また「完了形・現在・疑問」と「完了形・現在・否定」を比べると、疑問文よりも否定文をつくることの方が易しいことは、既に「完了進行形」の箇所でも述べたとおりである。否定文をつくるときは否定辞NOTを加えるという操作が必要で、操作の数として同じだが、「文頭に移動する」という操



作よりも「文中に加える」という操作の方が易しいということ、このことは示唆している。

「単純形・否定」は「単純形・肯定」と比べて、左半丸を新しく作りだして、それを文中に加え、さらに後にNOTを足さなければならないので、この操作も「完了形」という「複合形」の否定に負けず劣らず難しい。そのことが<間違いが多い順① 共通問題>で誤答数が2番目・3番目に多い理由になっているのであろう。

<間違いが多い順② 3年生のみ>で、「完了形・未来・疑問」が誤答数を最も多く持っていることも以上の分析と一致する。なぜなら「完了形」を未来にするためには「have+～ed」「will+原形」という二つの「複合形」の「足し算」が必要であり、それを疑問文にするためには、そのうえに「左半丸を文頭に移す」という操作が加わるからである。

しかし、<間違いが多い順② 3年生のみ>の考察は、この程度にとどめる。というのは被験者は3年生のみと人数が少ないので、<間違いが多い順>に並べたとしても、その順序の信頼性に疑問が残るからである。したがって、この分析は次に述べる郡上高校の結果を含めたもので分析・考察をすることにしたい。

#### 4-2-3 無回答について

<無回答が少なかった項目>

問題番号	項目	人数
①	単純形 現在 否定	0人（間違い23人）
②	単純形 現在 疑問	0人（間違い17人）
⑥	単純形 未来 肯定	0人（間違い5人）
⑨	進行形 現在 肯定	0人（間違い5人）
⑮	完了形 現在 肯定	0人（間違い13人）
③	単純形 過去 肯定	1人（間違い7人）
⑯	完了形 現在 否定	1人（間違い18人）

<無回答が多かった項目>

問題番号	項目	人数
⑰	完了形 現在 疑問	6人
⑬	進行形 過去 否定	5人
⑭	進行形 過去 疑問	5人
⑪	進行形 現在 疑問	4人
⑫	進行形 過去 肯定	4人

単純形は無回答人数は少ないが、間違いも少ないわけではない。単純形は中学校で習うため「簡単であるはず」と思っているが、実は正しく書けていないことがわかる。

また上の表から、完了形や進行形などの「複合形」に無回答人数が多いことが分かる。疑問形や否定形での無回答が多いことがわかる。

しかし、この表では「進行形・過去」を見れば分かるように、「疑問」「否定」の順序は上記の分析と逆になっている。これも被験者数の人数の問題がからんでいると思われるので、郡上高校と合わせた人数、さらには梅林中学との合計を待たなければ、最終分析はできない。



#### 4-2-4 習得順序の比較 (東濃高校生版)

Krashenらの習得順序		白畑の習得順序		A表 間違いが少ない順		
段階	項目	順	習得順序	順	項 目	
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	⑨	進行形 現在 肯定
	複数 (-s)	2	進行形 (-ing)	2	⑥	単純形 未来 肯定
	be動詞 (連結)	3	所有 ('s)	3	③	単純形 過去 肯定
第2	be動詞 (助動詞)	4	be動詞 (助動詞)	4	⑫	進行形 過去 肯定
	冠詞 (a / the)	5	複数 (-s)	5	⑦	単純形 未来 否定
第3	一般動詞 (不規則過去)	6	一般動詞 (不規則過去)	6	⑧	単純形 未来 疑問
		7	不定冠詞 (a / an)	7	⑩	進行形 現在 否定
第4	一般動詞 (規則過去)	8	三人称単数現在 (-s)	7	⑮	完了形 現在 肯定
		9	一般動詞 (規則過去)	7	⑬	進行形 過去 否定
		10	定冠詞 (the)	10	⑪	進行形 現在 疑問
	三人称単数現在 (-s)			10	⑭	進行形 過去 疑問
	所有 ('s)			10	②	単純形 現在 疑問
				13	⑯	完了形 現在 否定
				13	⑤	単純形 過去 疑問
				15	④	単純形 過去 否定
				16	①	単純形 現在 否定
				17	⑰	完了形 現在 疑問

動詞に関わらないものは除外して並べなおすと次のようになる。

Krashenらの習得順序		白畑の習得順序		A表 間違いが少ない順		
段階	項目	順	習得順序	順	項 目	
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	⑨	進行形 現在 肯定
	be動詞 (連結)	2	進行形 (-ing)	2	⑥	単純形 未来 肯定
第2	be動詞 (助動詞)	4	be動詞 (助動詞)	3	③	単純形 過去 肯定
		6	一般動詞 (不規則過去)	4	⑫	進行形 過去 肯定
第3	一般動詞 (不規則過去)	8	三人称単数現在 (-s)	5	⑦	単純形 未来 否定
		9	一般動詞 (規則過去)	6	⑧	単純形 未来 疑問
第4	一般動詞 (規則過去)			7	⑩	進行形 現在 否定
				7	⑮	完了形 現在 肯定
				7	⑬	進行形 過去 否定
	三人称単数現在 (-s)			10	⑪	進行形 現在 疑問
				10	⑭	進行形 過去 疑問
				10	②	単純形 現在 疑問
				13	⑯	完了形 現在 否定
				13	⑤	単純形 過去 疑問
				15	④	単純形 過去 否定
				16	①	単純形 現在 否定
				17	⑰	完了形 現在 疑問

このように動詞に関わらないものを除くと、Krashenらの習得順序と、白畑の調査結果がよく似ていることがわかる。進行形の習得は、肯定形ならば習得が早いと言える。しかし最終的な分析は「高校のまとめ」および「中学・高校のまとめ」でおこなう。

#### 4-3 B表の集計を終えて

同じ生徒にB表も調査した。B表は中学生と同じ調査用紙を使用した。下にその結果をまとめようと思う。

< B表 >

高校生用 問題：下の表のそれぞれ肯定文には空欄があります。その空欄に適切な言葉を下のヒントを参考にして補いなさい。

ヒント every day, tomorrow, yesterday, then, now, already, yet

		肯定 (ピリオドで終わる文)	否定 (notがある文)	疑問 (文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis_____.	He doesn't play tennis.	Does he play tennis?
	過去	He palyed tennis_____.	He didn't play tennis.	Did he play tennis?
	未来	He will play tennis_____.	He will not play tennis.	Will he play tennis?
進行形	現在	He is playing tennis_____.	He isn't playing tennis.	Is he playing tennis?
	過去	He was playing tennis_____.	He wasn't playing tennis.	Was he playing tennis?
完了形	現在	He has _____ played tennis.	He hasn't played tennis.	Has he played tennis?

Class No. Name \_\_\_\_\_

4-3-1 誤答者数①・②

下は誤答者数をまとめた表である。数値は同じであるが、二つの違う視点で表を作成してみた。

誤答者数①

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis <u>ア</u> 19人 .		
	過去	He played tennis <u>イ</u> 4人 .		
	未来	He will play tennis <u>ウ</u> 3人 .		
進行形	現在	He is playing tennis <u>エ</u> 20人 .		
	過去	He was playing tennis <u>オ</u> 25人 (スベルミス含む) .		
完了形	現在	He has <u>カ</u> 8人 played tennis.		

誤

誤答者数②

		単純形			進行形		完了形
		現在	過去	未来	現在	過去	現在
合計		ア	イ	ウ	エ	オ	カ
1年	21人	14	2	2	15	17	4
3年	12人	5	2	1	5	8	4
計	33人	19	4	3	20	25	8

4-3-2 誤答例と誤答数

下の表ではそれぞれの誤答例と誤答人数をまとめた。

< 誤答例と誤答数 >

項目		誤答	1年	3年	合計
単純形	ア 現在	now	11	5	16
		yet	1	0	1
		then	1	0	1
		無回答	1	0	1
		合計	14	5	19
	イ 過去	tomorrow	1	0	1
		then	0	2	2
		無回答	1	0	1
		合計	2	2	4
	ウ 未来	yesterday	1	0	1
		already	0	1	1
		無回答	1	0	1
		合計	2	1	3

進行形	エ 現在	every day	10	4	14
		already	1	0	1
		yet	2	0	2
		then	1	1	2
		無回答	1	0	1
		合計	15	5	20
	オ 過去	yet	11	5	16
		them	1	0	1
		then now	1	0	1
		every day	2	0	2
		now	1	0	1
		yesterday	0	1	1
		already	0	1	1
		Ten (スベリングミス)	0	1	1
無回答	1	0	1		
合計	17	8	25		
完了形	カ 現在	then	1	0	1
		now	1	0	1
		every day	1	0	1
		yet	0	2	2
		yesterday	0	1	1
		無回答	1	1	2
		合計	4	4	8

「単純形・現在」でnowを選ぶ誤答が多いが、これは梅林中学でも同じだった。たとえ高校生になっても「単純形・現在」が「真理・習慣」などを表すことが認識されていないことを示している。

「単純形・過去」「単純形・未来」は形式も意味も一義的なので誤答は極端に少ない。これも梅林中学と同じである。

「進行形・現在」は「毎日～している」という和訳から考えてevery dayを選ぶ誤答が多いが、これは梅林中学でも同じだった。たとえ高校生になっても「進行形・現在」が「習慣」ではなく、現在の時点における「未完了の動作」を表すことが認識されていないことを示している。

「進行形・過去」でyetを選ぶ誤答が多いが、これは「まだ～していた」という和訳からくる誤答なのだろうか。yetという副詞が「疑問」や「否定」で使われることを知らないためであろう。梅林中学ではyesterdayを選ぶ誤答が多かったのと対照的である。

「完了形・現在」でもyetを選ぶ誤答が多いが、これは梅林中学でも同じだった。しかし、梅林中学では無回答の人数が圧倒的に多かったのと比べると、東濃高校では無回答が少ない。ただ、この問題は「空欄に入れる副詞は1回しか使えない」という指示を明確にしておかなかったことが誤答数を増やす一因になっているのではないか。今後の反省点である。

<間違いが多い順とその例>

順位	項目	人数
1	オ (進行形 過去)	25人
	yet	16
	them	1
	then now	1
	every day	2
	now	1
	yesterday	1
	already	1
	ten	1
	無回答	1
	2	エ (進行形 現在)
every day		14
already		1
yet		2
then		2
無回答		1

複数回答可能な番号	
every day	ア, イ, ウ, オ
tomorrow	ウ, エ
yesterday	イ, オ
then	イ, オ
now	ウ, エ
already	イ, カ
yetは全ての解答に当てはまらない	

3	ア（単純形 現在）	19人
	now	16
	yet	1
	then	1
	無回答	1
4	カ（完了形 現在）	8人
	then	1
	now	1
	every day	1
	yet	2
	yesterday	1
	無回答	2
5	イ（単純形 過去）	4人
	tomorrow	1
	then	2
	無回答	1
6	ウ（単純形 未来）	3人
	yesterday	1
	already	1
	無回答	1

<間違いが多い順>

順位	項目	人数
1	オ（進行形 過去）	25人
2	エ（進行形 現在）	20
3	ア（単純形 現在）	19
4	カ（完了形 現在）	8
5	イ（単純形 過去）	4
6	ウ（単純形 未来）	3

<B表>はTENSE・ASPECTの「形式」操作能力を調べるものではなく、「意味」が分かった上でその「形式」を使うことができるかを調べるものである。

被験者数は全体で59人（1年生32人，3年生27人）であるから，この表で見る限り，「進行形・過去」の意味が一番間違いやすく約半数であり，「進行形・現在」「単純形・現在」は約3分の1である。

ただし，これらの最終的な分析は「高校のまとめ」および「中学・高校のまとめ」でおこなう予定なので，ここでは数値のみを載せておくことにする。

## 5 郡上高等学校での調査結果

### 5-1 調査の概要と調査用紙

高校生に調査をするのは2回目である。高校は中学校と違い，進学先によっては授業内容が異なるため，英語の授業時数やその内容はそれぞれの学校による。東濃高校は普通科高校であるが，他の普通科高校でも調査をすると，また違った結果が出るのではないだろうか。またその異なる高校を総合的に判断することで，新しい発見があるのではないかと考えた。

そこで寺島教授のもとで以前に院生として研究をされていた教諭の勤務校である郡上高等学校に調査を依頼することにした。

<岐阜県立郡上高等学校で実施>

時間	英語の授業
実施人数	3年生 79人
内容	<A表>全問題（1～35）のプリントを使用した。 <B表>中学3年生、東濃高校と同じプリントを使用した。
採点方法	<A表>大文字・小文字の間違いも○，ピリオド・クエスチョンマークがなくても○，「～」等で省略して全文を書いていないものは× <B表>スペルミス×
調査用紙	下記のように，東濃高等学校3年生と同じ調査用紙を使用した。

高校での調査は2回目であるから、A表は変えないとしても、B表の調査は中学校での調査から変えていないので、あまりにも簡単すぎるのではないかと思った。そこで調査用紙を変更してみようか、と考えた。

どのように変更するのかを考える前に、これまでのB表の問題点を明らかにしようと思った。そこで自分の勤務校に常勤のALT（アメリカ出身）に、これまで使用してきたB表を見てもらった。すると、次のようなことを言われた。「この表だと、yet 以外は複数回答が可能になる。だから副詞句（節）の選択肢が1語ではなく、状況設定をきちんとできる文章の方がよいのではないだろうか」

<これまでと同じB表>

		肯定形
単純形	現在形	He plays tennis <u>(1)</u> .
	過去形	He played tennis <u>(2)</u> .
	未来形	He will play tennis <u>(3)</u> .
進行形	現在形	He is playing tennis <u>(4)</u> .
	過去形	He was playing tennis <u>(5)</u> .
完了形	現在形	He has <u>(6)</u> played tennis.

選択肢 every day, tomorrow, yesterday, when, now, already, yet
---

<ALTが言う複数回答可能な番号>

every day	1・2・3・5
tomorrow	3・4
yesterday	2・5
then	2・5
now	3・4
already	2・6
yetは全ての解答に当てはまらない	

そこでそのALTに手伝ってもらい、以下のように選択肢が絶対に重ならないように（複数回答不可になるように）問題を作成した。

<改良版>

問題：下の表のそれぞれの文の語尾には、語や節を補うことができます。それぞれ書き出しに合う語や節を、下のヒントから選んで記号で書きなさい。なおヒントからは、1回ずつしか使用することはできません。

(改訂版) B表

単純形	1	現在	He plays tennis _____.
	2	過去	He played tennis _____.
	3	未来	He will play tennis _____.
進行形	4	現在	He is playing tennis _____.
	5	過去	He was playing tennis _____.
現在完了形	6	現在	He has played tennis _____.

ヒント

- (ア) now
- (イ) every day at 3p.m.
- (ウ) when I saw him this morning
- (エ) next year, if he has free time
- (オ) since he was 5 years old
- (カ) when he was a student

A L Tが言うには、「これなら（ア）～（カ）まで答えはひとつしかないので、複数回答に迷わないだろう」ということであった。（ア）はnow（1語）だけなのだが、これはなかなか節にはならないということであった。

はたしてこの改良したB表は調査用紙として適しているのだろうかと寺島教授に相談をし、また同大学院生に試しに解いてもらった。そしていろいろとアドバイスをいただくことができた。

その結果、この調査用紙が日本人の被験者にとって、誤解を招くことのない完璧なる選択肢かという、疑問が残ること。またこれまでの調査をより確かな数値にするために、これまでと同じB表を使用したほうがよいのではないか、などの理由で、改良版を使用しないこととなった。

A表（東濃高等学校3年生・郡上高等学校3年生用）

問題：He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。				
	未来形	will+原型	原形	過去形
	進行形	be動詞+ing形	play	played
	完了形	have(has)+過去分詞形	played	playing
		肯定（ピリオドで終わる文）	否定（notがある文）	疑問（文の最後に？がある）
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
	未来			
完了形	現在			
	過去			
	未来			
完了進行形	現在			
	過去			
	未来			
Class No. Name _____				

集計する際、解答欄を下図のように番号をつけ、中学校の集計結果と比較しやすくした。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis.	1	2
	過去	3	4	5
	未来	6	7	8
進行形	現在	9	10	11
	過去	12	13	14
	未来	24	25	26
完了形	現在	15	16	17
	過去	18	19	20
	未来	21	22	23
完了進行形	現在	27	28	29
	過去	30	31	32
	未来	33	34	35

## 5-2 A表の集計を終えて

### 5-2-1 誤答者数①②

東濃高等学校3年生と同じように1～35までを集計し、その結果をまとめようと思う。表①と表②はそれぞれ視点を変えてまとめてみたものである。

誤答者数①

単純形		進行形		完了形		完了進行形	
1	23人	9	3人	15	8人	27	10人
2	13	10	7	16	10	28	16
3	6	11	14	17	16	29	28
4	17	12	2	18	6	30	3
5	11	13	6	19	8	31	12
6	6	14	18	20	14	32	27
7	7	24	25	21	24	33	24
8	11	25	36	22	37	34	37
		26	46	23	38	35	41

誤答者数②

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	23人	13人	
	過去	6人	17	11
	未来	6	7	11
進行形	現在	3	7	14
	過去	2	6	18
	未来	25	36	46
完了形	現在	8	10	16
	過去	6	8	14
	未来	24	37	38
完了進行形	現在	10	16	28
	過去	3	12	27
	未来	24	37	41

5-2-2 誤答例と誤答数

1) 単純形

(1) 単純形・現在

項目	番	誤答	合計
単純形	1 否定	He doesn't plays tennis.	4
		He don't play tennis.	4
		He is not play tennis.	3
		He is not plays tennis.	2
		He don't plays tennis.	1
		He dones't play tennis.	1
		He not play tennis.	1
		He not plays tennis.	7
		合計	23
	2 疑問	Does he plays tennis?	6
		Dose he play tennis?	1
		Is he play tennis?	2
		Do you play tennis?	1
Is he plays tennis?		3	
合計	13		

※①  
表中のアンダーラインは  
スペリングミス

※②  
表中の        は、誤答の中  
でも数字が大きいものに  
付けた。

梅林中学や東濃高校生と同じように、He not plays tennis.の間違いが一番多い。つまり高校生になっても、NOTを動詞の前に置くだけという否定文レベルに留まっている生徒が少なくないわけである。「個体発生は系統発生を繰り返す」ことが、ここでも確認される。

疑問文でも、一番多い間違いはDoes he plays tennis?であり、これも梅林中学と同じである。3年生になっても、このような生徒がいることは興味深い。東濃高校では、Is he play tennis?やIs he plays tennis?という誤答も同じ程度に多いことが注目される。



## (2) 単純形・過去

項目	番	誤答	合計
単純形 過去	3 肯定	He was play tennis.	1
		He pleyed tennis.	1
		He did play tennis. (これを間違いとするか?)	3
		He was played tennis.	1
		合計	6
	4 否定	He didn't palys tennis.	2
		He was not played tennis.	1
		He was not play tennis.	5
		He was not plays tennis.	1
		He does not played tennis.	1
		He didn't played tennis.	1
		He don't played tennis.	1
		He not played tennis.	4
		He does not plays tennis.	1
		合計	17
	5 疑問	Did he played tennis?	4
		Does he not played tennis?	1
		Do you played tennis?	1
		Was he play tennis?	1
		Was he played tennis?	1
		Did he plays tennis?	2
		Does he plays tennis?	1
		合計	11

まず「過去・肯定」で、He did play tennis.とする誤答が目立つが、助動詞DOを使って過去時制を表現しようとする能力は、中学生には見られないものであった。やはり高校生という、知的成長がそうさせるのであろうか。(ただし東濃高校ではHe was play tennis.という誤答が最も多かった。)

否定形・疑問形で、do, does, didのどれを使えばよいか分からない生徒が多いようだ。またplayもplays やplayed のようにさまざまな間違いが混在している。高校生になっても、単純形・過去形にしてすでに混乱している生徒がいるということである。

否定形について言えば、梅林中学では、He not played tennis.という誤答が一番多かったのだが、郡上高等学校ではHe was not play tennis.という誤答が一番多い。否定文をつくる助動詞として、BE動詞を使えるようになっただけでも進歩と言えようか。(ただし東濃高校ではやはりHe not played tennis.という誤答が一番多い。)

疑問文では、Did he played tennis?という誤答が一番多いが、梅林中学では、この誤答と同時に、Does he played tennis?も最多の誤答であった。驚いたことに、東濃高校でも一番多かったのが、この誤答であった。

## (3) 単純形・未来

項目	番	誤答	合計
単純形 未来	6 肯定	He will plays tennis.	5
		He will played tennis.	1
		合計	6
	7 否定	He will not plays tennis.	5
		He wont not play tennis.	1
		He will do not play tennis.	1
		合計	7
	8 疑問	Will he plays tennis?	5
		Does he will play tennis?	1
		Did he play tennis?	1
		Will you play tennis?	1

		Will he do play tennis?	1
		Is he will plays tennis?	1
		無回答	1
		合計	11

未来でwillを使うことは理解できているが、playを原形にもどすことを忘れる生徒が多い。He will plays tennis. He will not plays tennis. Will he plays tennis?という間違いが一番多いのは梅林中学でも同じである。

どういふわけか東濃高校は、特別に目立つ誤答はないが(各1個)、誤答の種類が多様であることが特徴としてあげられる。しかし全体として未来は単純形と違って最初から左半丸のWILLを肯定で使えさえすれば、否定や疑問はつくりやすい。

## 2) 進行形

### (1) 進行形・現在

項目	番	誤答	合計
進行形	9肯定	He playing tennis.	2
		He does playing tennis.	1
		合計	3
	10否定	He is not play tennis.	1
		He doesn't playing tennis.	4
		He don't playing tennis.	1
		He not playing tennis.	1
		合計	7
	11疑問	Dose he is playing tennis?	3
		Does he playing tennis?	9
		Do you isn't playing tennis?	1
		Does not he playing tennis?	1
		合計	14

進行形なので動詞にingをつけるということだけはよく理解できているようだ。しかしBE動詞を抜かしたり、does やdoを否定形や疑問形で使っていて、特にdoesを使っている間違いが多い。

何度も言うように「進行形=BE動詞+現在分詞」という公式が与えられていても、それを見て論理的に組み立てる力がないか、このような公式が眼に入らないかのどちらかである。つまり「見えない学力」(=「論理力」「識形力」)が問われているのである。

梅林中学や東濃高校では、He playing tennis. He not playing tennis. Does he playing tennis?という間違いが一番多かったのだが、郡上高校ではそれが、He playing tennis. He doesn't playing tennis. Does he playing tennis?に変化しているところが興味深い。

### (2) 進行形・過去

項目	番	誤答	合計
進行形	12肯定	He had playing tennis.	1
		He did playing tennis.	1
		合計	2
	13否定	He didn't playing tennis.	4
		He wasn't play tennis.	1
		He does not playing tennis.	1
		合計	6
	14疑問	Dos he way playing tennis?	1
		Did he playing tennis?	9
		Does he playing tennis?	3
		Did he is playing tennis?	2
		Do you wasn't playing tennis?	1
		Was he plaing tennis?	1
		Did not he playing tennis?	1
合計	18		

肯定形での正答率が高いのに、ただしく否定形や疑問形にできないことがわかる。BE動詞がある文章はそのBE動詞にNOTをつけたり文頭に持ってきたりするという基本が薄らいでいるのではないだろうか。

というよりも、現在形をつくる時点で、「進行形＝BE動詞＋現在分詞」という公式が与えられていても、BE動詞を使って進行形をつくることができなければ、このような結果になることは当然であろう。

ここでは、He didn't playing tennis. Did he playing tennis?が誤答のトップを占めているが、東濃高校では、誤答が多様化しているが、その中でもHe played tennis. He wasn't pay tennis. Was he play tennis?が誤答として目立っている。

他方、梅林中学で目立つ誤答は、He was going to play tennis. He wasn't going to play tennis. Was he going to play tennis?であった。be going toという形を進行形と間違えている生徒もいるということである。それと比べれば、Did he playing tennis?という誤答は、まだ進歩の兆しが見られると言えよう。

(3) 進行形・未来

項目	番	誤答	合計
進行形 未来	24肯定	He wil b laying tennis.	1
		He will playing tennis.	15
		He will play tennis.	3
		He will has been tennis.	1
		He will being play tennis.	2
		He is going to play tennis.	1
		He going to playing tennis.	1
		He	1
		合計	25
	25否定	He will be not playing tennis.	7
		He will not playing tennis.	18
		He won't play tennis.	4
		He wont not be playing tennis.	1
		He will being playing tennis.	1
		He will not being play tennis.	2
		He is not going to play tennis.	1
		He not going to playing tennis.	1
		He	1
	合計	36	
	26疑問	Will he is playing tennis?	8
		Will he playing tennis?	21
		Will he play tennis?	2
		Does he will play tennis?	1
		Will he being play tennis?	2
		Did he playing tennis?	2
		Will he be not playing tennis?	1
		Will you is playing tennis?	1
		Will he not be playing tennis?	1
		Is he will play tennis?	1
		Is he will playing tennis?	2
		Is he going to play tennis?	1
		Did he play tennis?	1
		He	1
		無回答	1
		合計	46

誤答のトップは、He will playing tennis. Will he playing tennis? Will he playing tennis?である。～ingを動詞につけることはよく定着しているのだが、BE動詞が抜け落ちてしまうことが特

徴である。「進行形」の公式が定着していないことがよく分かる。

他方、未来なのでwill を使うということはよく理解できているようだ。しかし、完了形・未来と同じように、「WILL+動詞原形」「BE+現在分詞」という二つの公式を「足し算」した「2重の複合形」をつくる作業の難しさを、上記の誤答は教えてくれる。

疑問文になると突然、文頭にDoes, Did, Is などが登場し、誤答例と誤答数が一挙に拡大することは、「完了形・未来」の時と同じである。

このような問題も、「記号づけ」を使って「進行形・未来」の公式を定着させ、「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文、最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように、視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば、誤答は大幅に減ったはずである。

### 3) 完了形

#### (1) 完了形・現在

項目	番	誤答	合計
完了形 現在	15肯定	He has play tennis.	4
		He have played tennis.	4
		合計	8
	16否定	He has not play tennis.	3
		He haven't played tennis.	4
		He not has played tennis.	1
		He hadn't play tennis.	1
		He doesn't have played tennis.	1
		合計	10
	17疑問	Has he play tennis?	2
		Does he played tennis?	1
		Have he played tennis?	4
		Does he have played tennis?	1
		Has he playing tennis?	1
		Is he have played tennis?	1
		Do you have played tennis?	1
		Does he has played tennis?	1
		Does he have played tennis?	1
		Has you never played tennis?	1
		Had he play tennis?	1
Have you played tennis?	1		
合計	16		

肯定形は正答率は高く、誤答も調査する前から予想できそうなものである。また殆どの生徒がplay をplayedに変化させることができている。

またhas (have) を使うということもほとんどの生徒が出来ている。完了形の「have+過去分詞形」ということに関しては定着しているようだ。

しかし疑問形が苦手なようで、ここでも文頭にくる語が様々である。have, has, hadに加えてdo, doesまで疑問文をつくる助動詞として使われている。肯定形を先に作っているはずなのに、その肯定形から否定形や疑問形を作ることが出来ないようだ。ここでも「左半丸」という記号を使って教えることの重要性がうかがえる。

誤答で一番多かったのだが、He have played tennis. He haven't played tennis. Have he played tennis?であるが、これは東濃高校でも梅林中学校でも変わらなかった。もちろん、その次に多かったのが、He has play tennis. He hasn't play tennis. Has he play tennis?である。この傾向も変わらない。しかし梅林中学では、Has he playing tennis?という誤答も多いことが驚きである。

(2) 完了形・過去

項目		番	誤答	合計
完了形	過去	18肯定	He had play tennis.	4
			He has played tennis.	1
			He has been played tennis.	1
			合計	6
		19否定	He had not play tennis.	3
			He has not played tennis.	1
			He hadn't had played tennis.	1
			He hasn't been played tennis.	1
			He not had played tennis.	1
			He didn't have playetennis.	1
			合計	8
		20疑問	Had he play tennis?	4
			Did he played tennis?	1
			Had he playing tennis?	1
			Did he have been played tennis?	1
			Have he played tennis?	1
			Do you had played tennis?	1
			Did he had played tennis?	1
			Did he has played tennis?	1
			Did have he play tennis?	1
			Had you never played tennis?	1
			played tennis?	1
			合計	14

現在形のとときと同じように、完了形の「have+過去分詞」はできているようだが、ここでも疑問の誤答例が多様で、かつ文頭にdoやdidを使っている生徒が多い。しかし、doesを文頭に持ってきた生徒はいなかった。

しかし誤答でもっと多いのが、He had play tennis. He had not play tennis. Had he play tennis?である。「現在」で一番多かったのが、He have played tennis. He haven't played tennis. Have he played tennis?であることを考えると、非常に不思議な現象である。

完了形過去は中学校では扱わないので梅林中学とは比較できない。しかし、東濃高校では、He had not play tennis.という誤答が2例あっただけで、あとは誤答が各1例のみで分散している。しかし全体的に「過去」のほうが「現在」よりも誤答が少ないのは「三単現」に悩まされないからであろう。

(3) 完了形・未来

項目		番	誤答	合計
完了形	未来	21肯定	He will has play tennis.	2
			He will have play tennis.	2
			He has playing tennis.	1
			He will has played tennis.	7
			He will play tennis.	1
			He has will play tennis.	1
			He will has playing tennis.	1
			He will had play tennis.	2
			He will have been play tennis.	1
			He would have played tennis.	1
			He will had played tennis.	2
			He will be have played tennis.	1
			He has been going to play tennis.	1

		He would has played tennis.	1
		合計	24
22否定		He will have not played tennis.	11
		He will hasn't play tennis.	1
		He will have not play tennis.	1
		He has not playing tennis.	1
		He will not has played tennis.	7
		He won't play tennis.	1
		He wont not have played tennis.	1
		He has will not playing tennis.	1
		He will has playing tennis.	1
		He won't had play tennis.	1
		He won't have play tennis.	3
		He will not have been play tennis.	1
		He will hasn't played tennis.	1
		He well not has played tennis.	1
		He will has not play tennis.	1
		He will not had played tennis.	1
		He will not be have played tennis.	1
		He will hadn't played tennis.	1
		He hasn't been going to play tennis.	1
		合計	37
23疑問		Will he has play tennis?	1
		Will he have play tennis?	2
		Will have he play tennis?	1
		Will he has played tennis?	5
		Has he playing tennis?	2
		Have he will played tennis?	2
		Will have he played tennis?	3
		Will he play tennis?	1
		Has will he playing tennis?	1
		Did he had play tennis?	1
		Will he have been play tennis?	1
		Will he played tennis?	3
		Will you have played tennis?	1
		Have he played tennis?	1
		Would he have played tennis?	1
		Will he never played tennis?	1
		Has he will play tennis?	1
		Won't he has played tennis?	1
		Will he had played tennis?	2
		Will he have been playing tennis?	1
		played tennis?	1
		Has he been going to play tennis.	1
		Will he has playing tennis?	1
		Would has he played tennis?	1
		Will he will have played tennis.?	1
		無回答	1
	合計	38	

単純形・未来形のときにwillのあとplayをplaysのままにしている生徒が多かったが、ここでも助動詞willのあとのhasをhaveに直していない間違いが目立つ。

しかし完了形・未来の場合、「助動詞WILL+動詞原形」「HAVE動詞+過去分詞」という二つの公式を「足し算」した「2重の複合形」をつくる作業をしなければならないので、誤答数は「過去」で「肯定」の1.5倍、「疑問」では「肯定」の2倍近くになり、誤答例を一挙に多様化する。この傾向は東濃高校でも同じだった。

つまり「WILL+HAVE」としたうえで、さらに「HAVE+～ed」をその上に重ね合わせる作業ができなければならない。そのうえで「否定」の場合、NOTをどこにおくかという問題が生じる。つまり、ここでは助動詞として使われているWLLの後か、それともHAVEの後かで迷うわけである。

誤答例で最も多いのは、He will has played tennis. He will have not played tennis (He will not has played tennis.) Will he has played tennis? だったが、このような問題も「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文、最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように、「記号づけ」を使って視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば、誤答は大幅に減ったはずである。

#### 4) 完了進行形

完了進行形は東濃高等学校での苦い思い出があるので、調査用紙のミスがないように努力した。そのため郡上高等学校での数値は信頼できるものである。

特に「完了進行形・未来」は高校生の文法の中でも最後の方に習い、またここまで30項目以上調査用紙に書いているので無回答が増えてもおかしくないが、郡上高校生はきちんと最後まで解答しようと努力してくれているのがとても有り難い。普段の授業でもこのようにきちんと授業に集中できているのだろうと思われる。

##### (1) 完了進行形・現在

項目	番	誤答	合計
完了進行形	27肯定	He have been playing tennis.	7
		He has done playing tennis.	1
		He has playing tennis.	2
		合計	10
	28否定	He has been not playing tennis.	4
		He not has been playing tennis.	3
		He has been playing tennis.	1
		He have not been playing tennis.	4
		He has not done playing tennis.	1
		He hasn't playing tennis.	1
		He have not playing tennis.	1
		He not have been playing tennis.	1
	合計	16	
	29疑問	Has he is playing tennis?	2
		Has been he playing tennis?	3
		Does he been playing tennis?	1
		Have he was playing tennis?	1
		Have he been playing tennis?	4
		Has	1
		Has he playing tennis?	2
		Does he had playing tennis?	1
		Has he done playing tennis?	1
		Have he playing tennis?	1
		Is he have been playing tennis?	11
		Does he has been playing tennis?	1
		Do you have been playing tennis?	1
		Does he have been playing tennis?	2
		Does not he has been playing tennis?	1
		Have he ever been to playing a tennis?	1
	Hasn't he been playing tennis?	1	
無回答	3		
合計	28		

誤答のトップは、He have been playing tennis. He have not been playing tennis. (He has been not playing tennis.) Is he have been playing tennis?である。He not has been playing



tennis.という誤答も3例あることが面白い。

ヒントの「公式」を参考に出来ても、haveをhasに直すことができている間違いと、notを正しい位置に置くことができない間違いが目立つ。

これも「HAVE動詞+過去分詞」「BE動詞+現在分詞」という二つの「複合形」を重ね合わせる作業なので、誤答が多くなるのは当然であろう。

また疑問形では、文頭がdo, does, did, have, hasと定まらず、誤答も一挙に多様化し拡大することは、これまでと同じである。

既に何度も述べてきているように、このような問題も、「記号づけ」を使って「完了形」と「進行形」の公式を定着させ、「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文、最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように、視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば、誤答は大幅に減ったはずである。

## (2) 完了進行形・過去

項目	番	誤答	合計
完了進行形 過去	30肯定	He had done playing tennis.	1
		He had playing tennis.	2
		合計	3
	31否定	He had been not playing tennis.	4
		He not had been playing tennis.	4
		He had been playing tennis.	1
		He had not done playing tennis.	1
		He hadn't playing tennis.	2
		合計	12
	32疑問	Had he is playing tennis?	2
		Had been he playing tennis?	4
		Did he been playing tennis?	1
		Had he was playing tennis?	1
		Had been he not paying tennis?	1
		Did he had	1
		Had he playing tennis?	2
		Does he had not playing tennis?	1
		Had he done playing tennis?	1
		Did he had been playing tennis?	2
		Had he not been playing tennis?	1
		Do you have not been playing tennis?	1
		Did he have been playing tennis?	2
		Did not he has been playing tennis?	1
		Had he ever been to playing a tennis?	1
		Had he played tennis?	1
		Hadn't he been playing tennis?	1
		無回答	3
合計	27		

ここでも「三単現」という問題に悩まされる必要がないので、現在形よりも過去形のほうが間違いが少ない。特に肯定形の間違いが少なく、肯定形ならば「公式」さえ与えられれば、完了進行形という難しい文法でも、何とか正しく書くことができるようだ。

しかし、やはり「否定」で誤答が多くなり、「疑問」で誤答例と誤答数が一挙に拡大することは、依然として同じである。これも「HAVE動詞+過去分詞」「BE動詞+現在分詞」という二つの「複合形」を重ね合わせる作業なので、誤答が多くなるのは当然であろう。

誤答のトップは、He had been not playing tennis. He not had been playing tennis. Had been he playing tennis? であるが、何度も述べているように、「最初の左半丸の後にNOTを置けば否定文、最初の左半丸を文頭に出せば疑問文」というように、視覚的に否定文や疑問文の作り方を教えておけば、誤答は大幅に減ったはずである。

(3) 完了進行形・未来

項目	番	誤答	合計
完了進行形 未来	33肯定	He having been playing tennis.	1
		He will has been playing tennis.	9
		He will play tennis.	1
		He has will playing tennis.	1
		He will been playing tennis.	1
		He will had been playing tennis.	4
		He will have done playing tennis.	1
		He will have playing tennis.	1
		He would have been playing tennis.	1
		He would has been playing tennis.	1
		He will had playing tennis.	1
		He will be have been playing tennis?	1
		He will had played tennis.	1
		合計	24
	34否定	He will have been not playing tennis.	2
		He will have not playing tennis.	1
		He having not been playing tennis.	1
		He will not has been playing tennis.	9
		He will haven't been playing tennis.	7
		He won't play tennis.	1
		He wont not have been playing tennis.	1
		He has will not playing tennis.	1
		He will not been playing tennis.	2
		He will has been not playing tennis.	1
		He won't had been playing tennis.	2
		He will not have done playing tennis.	1
		He won't have playing tennis.	1
		He will not had been playing tennis.	1
		He will hasn't been playing tennis.	1
		He will not had play tennis.	1
		He will not be have been playing tennis.	1
		He will not have been played tennis.	1
	He will hadn't been playing tennis.	1	
	He won't had played tennis.	1	
	合計	37	
	35疑問	Will he have been tennis?	1
		Will have he playing tennis?	1
		Will he has been playing tennis?	6
		Having he been playing tennis?	1
		Have he will been playing tennis?	2
		Will he haven't been playing tennis?	1
		Will he play tennis?	1
		Will he not have been playing tennis?	1
		Will he been playing tennis?	3
		Will have he been playing tennis?	2
		Has he playing tennis?	1
		Did he had playing tennis?	1
Will he have done playing tennis?		1	
Will he have playing tennis?		1	
Will he had been playing tennis?		2	
Will you have been playing tennis?		2	
Have he been playing tennis?		1	
Would have been he playing tennis?		2	
Will he ever been to playing a tennis?		1	
Will he had playing tennis?		1	
Has he will been playing tennis?		1	
Won't he have been playing tennis?		1	
playing tennis?		1	
Will he had played tennis?		1	
Would not has been he playing tennis?	1		
無回答	4		
合計	41		

誤答数は「肯定」→「否定」→「疑問」へと移行するにつれて多くなる。特に疑問では誤答がさまざままで、やはりきちんと「かたち」が理解できていないことが分かる。

しかし、考えてみれば、これも当然で、「完了進行形・未来」の場合、「助動詞WILL+動詞の原形」「HAVE動詞+過去分詞」「BE動詞+現在分詞」という三つの「複合形」を、一種の「足し算」をしながら「完了進行形・未来」をつくるという複雑な作業を強いられるからである。

つまり、「完了進行形・未来」の意味を教える以前に、このような論理的演算ができない生徒が少なくないことを、まず教師は知るべきではないかと（この調査をしてみて）思ったのである。このような演算ができなければ、意味を考えるレベルに進みようがないからである。

（他方、だからこそ「記号づけ」を使って視覚的に文法を教えることの便利さを改めて認識している。）

ところで、上記の集計を見れば分かるように、誤答のトップは、He will has been playing tennis. He will not has been playing tennis. Will he has been playing tennis?である。ほとんどの生徒がwill を使うことができていますが、「原形」ということの意味が分かっていないので、hasをhaveに転換できない。

しかし考えてみれば「原形」「不定形」という概念は意外と説明するのに難しい。だからこそ、「三単現」でhasにしなければならぬときにhaveを使い、「原形」としてhaveを使わなければならないときにhasを使うという、皮肉な現象が生まれることになるのであろう。

### 5-2-3 誤答の順位 (多い順)

下は誤答数が多い順に順位をつけた表である。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在		12位	19位
	過去	29位	14位	21位
	未来	29位	27位	21位
進行形	現在	33位	27位	17位
	過去	35位	29位	13位
	未来	9位	6位	1位
完了形	現在	25位	23位	15位
	過去	29位	25位	17位
	未来	10位	4位	3位
完了進行形	現在	23位	15位	7位
	過去	33位	20位	8位
	未来	10位	4位	2位

上記の表を間違いが多い順に並べかえると次のような表になった。

順位	項目	人数
1	26 進行形 未来 疑問	46人
2	35 完了進行形 未来 疑問	41
3	23 完了形 未来 疑問	38
4	22 完了形 未来 否定	37
	34 完了進行形 未来 否定	37
6	25 進行形 未来 否定	36
7	29 完了進行形 現在 疑問	28
8	32 完了進行形 過去 疑問	27
9	24 進行形 未来 肯定	25
10	21 完了形 未来 肯定	24
	33 完了進行形 未来 肯定	24
12	1 単純形 現在 否定	23
13	14 進行形 過去 疑問	18
14	4 単純形 過去 否定	17
15	17 完了形 現在 疑問	16

	28 完了進行形	現在	否定	16
17	11 進行形	現在	疑問	14
	20 完了形	過去	疑問	14
19	2 単純形	現在	疑問	13
20	31 完了進行形	過去	否定	12
21	5 単純形	過去	疑問	11
	8 単純形	未来	疑問	11
23	16 完了形	現在	否定	10
	27 完了進行形	現在	肯定	10
25	15 完了形	現在	肯定	8
	19 完了形	過去	否定	8
27	7 単純形	未来	否定	7
	10 進行形	現在	否定	7
29	6 単純形	未来	肯定	7
	13 進行形	過去	否定	6
	18 完了形	過去	肯定	6
	3 単純形	過去	肯定	6
33	9 進行形	現在	肯定	3
	30 完了進行形	過去	肯定	3
35	12 進行形	過去	肯定	2

これを見ると、「進行形・過去・肯定」が郡上高校生にとって一番易しかったことがわかる。「進行形・現在・肯定」も誤答数が少ない順で下から3番目である。この数値からすると、やはり「進行形」は習得しやすいのかと思わせられる。

しかし、「進行形・過去・疑問」は誤答数の多い順で上から13位であるし、「進行形・未来・疑問」「進行形・未来・否定」「進行形・未来・肯定」にいたっては、誤答数の多い順で上から1位（46人）、6位（36人）、9位（25人）である。

これを見れば、従来の言語習得論の研究では早く習得されるとされていた「進行形」だが、詳細に検討すると、進行形の「意味」どころか「形式」すらも、きちんと習得されていないことが分かる。つまり「早期に習得される」とされていたのは、単に動詞語尾に～ingをつけるということだけだったのではないかと想像される。

調査の対象になった生徒の人数は79人だから、「進行形・未来・疑問」の場合、半数以上（46人）が正しく疑問文をつくることできないことになる。「進行形・未来・否定」でも半分弱の生徒（36人）が正しく否定文をつくれぬ。従来の言語習得論研究を再考する必要がある所以である。

他方、「完了進行形・未来」が、間違いの多い順で上位を占めているのは十分に納得できる。なぜなら、この場合、「助動詞WILL+動詞の原形」「HAVE動詞+過去分詞」「BE動詞+現在分詞」という三つの「複合形」を、一種の「足し算」をしながらつくるといって、複雑な作業を強いられるからである。

しかし、単に手順の多さ・複雑さからすれば、「完了進行形・未来・疑問」よりも易しいはずの「進行形・未来・疑問」のほうが誤答数が多かったり、「完了進行形・未来・否定」よりも易しいはずの「完了形・未来・疑問」のほうが誤答数が多かったりするのは何故かは、もういちど検討してみる価値がありそうだ。

### 5-3 習得順序の比較（郡上高校生版）

自分のA表の調査結果と、Krashenらや白畑の習得順序を並べてみた。

Krashenらの習得順序

段階	項目
第1	進行形 (-ing)
	複数 (-s)
	be動詞 (連結)
↓	
第2	be動詞 (助動詞)
	冠詞 (a / the)
↓	
第3	一般動詞 (不規則過去)
↓	
第4	一般動詞 (規則過去)
	三人称単数現在 (-s)
	所有 ('s)

白畑の習得順序

順	習得順序
1	be動詞 (連結)
2	進行形 (-ing)
3	所有 ('s)
4	be動詞 (助動詞)
5	複数 (-s)
6	一般動詞 (不規則過去)
	不定冠詞 (a / an)
8	三人称単数現在 (-s)
9	一般動詞 (規則過去)
10	定冠詞 (the)

A表 間違いが少ない順

順	項目	肯定	否定	疑問
1	進行形 過去	肯定		
2	完了進行形 過去	肯定		
	進行形 現在	肯定		
4	単純形 過去	肯定		
	完了形 過去	肯定		
6	進行形 過去	否定		
	単純形 未来	肯定		
8	進行形 現在	否定		
	単純形 未来	否定		
10	完了形 過去	否定		
	完了形 現在	肯定		
11	完了進行形 現在	肯定		
	完了形 現在	否定		
12	単純形 未来	疑問		
	単純形 過去	疑問		
16	完了進行形 過去	否定		
17	単純形 現在	疑問		
18	完了形 過去	疑問		
	進行形 現在	疑問		
20	完了進行形 現在	否定		
	完了形 現在	疑問		
22	単純形 過去	否定		
23	進行形 過去	疑問		
24	単純形 現在	否定		
25	完了進行形 未来	肯定		
	完了形 未来	肯定		
27	進行形 未来	肯定		
28	完了進行形 過去	疑問		
29	完了進行形 現在	疑問		
30	進行形 未来	否定		
31	完了進行形 未来	否定		
	完了形 未来	否定		
33	完了形 未来	疑問		
34	完了進行形 未来	疑問		
35	進行形 未来	疑問		

動詞に関わらないものは除外して並べなおすと次のようになる。

Krashenらの習得順序

段階	項目
第1	進行形 (-ing)
	be動詞 (連結)
↓	
第2	be動詞 (助動詞)
↓	
第3	一般動詞 (不規則過去)
↓	
第4	一般動詞 (規則過去)
	三人称単数現在 (-s)

白畑の習得順序

順	習得順序
1	be動詞 (連結)
2	進行形 (-ing)
4	be動詞 (助動詞)
6	一般動詞 (不規則過去)
8	三人称単数現在 (-s)
9	一般動詞 (規則過去)

A表 間違いが少ない順

順	項目	肯定	否定	疑問
1	進行形 過去	肯定		
2	完了進行形 過去	肯定		
	進行形 現在	肯定		
4	単純形 過去	肯定		
	完了形 過去	肯定		
6	進行形 過去	否定		
	単純形 未来	肯定		
8	進行形 現在	否定		
	単純形 未来	否定		
10	完了形 過去	否定		
	完了形 現在	肯定		
12	完了進行形 現在	肯定		
	完了形 現在	否定		
14	単純形 未来	疑問		
	単純形 過去	疑問		
16	完了進行形 過去	否定		
17	単純形 現在	疑問		
18	完了形 過去	疑問		
	進行形 現在	疑問		
20	完了進行形 現在	否定		
	完了形 現在	疑問		
22	単純形 過去	否定		
23	進行形 過去	疑問		
24	単純形 現在	否定		

25	完了進行形	未来	肯定
	完了形	未来	肯定
27	進行形	未来	肯定
28	完了進行形	過去	疑問
29	完了進行形	現在	疑問
30	進行形	未来	否定
31	完了進行形	未来	否定
	完了形	未来	否定
33	完了形	未来	疑問
34	完了進行形	未来	疑問
35	進行形	未来	疑問

このように動詞に関わらないものを除くと、Krashenらと、白畑の調査結果がよく似ていることがわかる。進行形の習得は、自分の結果では否定や疑問の順位が良くないことから、一概には習得が早いとは言えないようである。

完了進行形は、調査用紙にヒントが載せてあったため、それを見ながら答えを書くことができたために、上位にも完了進行形が入っていると思われる。

#### 5-4 B表の集計を終えて

##### 5-4-1 集計結果（誤答人数）

中学生・東濃高等学校生と同じB表の調査を行ったので、その結果をまとめた。

#### < B表 >

高校生用 問題：下の表のそれぞれ肯定文には空欄があります。その空欄に適切な言葉を下のヒントを参考にして補いなさい。				
ヒント every day, tomorrow, yesterday, then, now, already, yet				
		肯定（ピリオドで終わる文）	否定（notがある文）	疑問（文の最後に？がある）
単純形	現在	He plays tennis _____.	He doesn't play tennis.	Does he play tennis?
	過去	He palyed tennis _____.	He didn't play tennis.	Did he play tennis?
	未来	He will play tennis _____.	He will not play tennis.	Will he play tennis?
進行形	現在	He is playing tennis ____.	He isn't playing tennis.	Is he playing tennis?
	過去	He was playing tennis ____.	He wasn't playing tennis.	Was he playing tennis?
完了形	現在	He has ____ played tennis.	He hasn't played tennis.	Has he played tennis?
Class No. Name _____				

集計しやすいように、下のように回答欄に記号（ア～イ）を付けた。各記号の横に付けられた数字は誤答数である。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis <u>ア 7人</u> .	/	/
	過去	He played tennis <u>イ 5人</u> .		
	未来	He will play tennis <u>ウ 5人</u> .		
進行形	現在	He is playing tennis <u>エ 6人</u> .	/	/
	過去	He was playing tennis <u>オ 13人</u> .		
完了形	現在	He has <u>カ 10人</u> played tennis.	/	/

5-4-2 誤答例と誤答数

(※アンダーラインは、スペリングミス)

項目		誤答	合計
単純形	ア現在	now	3
		<u>every dey</u>	1
		in every day	1
		<u>ever day</u>	1
		yet	1
		合計	7
		イ過去	last night(これを間違いとするか?)
	tomorrow		3
	in yesterday		1
	合計		5
	ウ未来	yesterday	2
		already	1
		in tomorrow	1
		<u>tommorow</u>	1
		合計	5
進行形	エ現在	every day	3
		not (nowのつもりか?)	1
		yet	2
		合計	6
	オ過去	yesterday	4
		tomorrow	3
		now	1
		them (thenのつもりか?)	1
		already	1
		yet	1
		every day	1
		無回答	1
		合計	13
		完了形	カ現在
<u>ever</u>	1		
<u>alredy</u>	1		
then	1		
every day	1		
been	1		
already yet	1		
合計	10		

「単純形・現在」でnowを選ぶ誤答が多いが、これは東濃高校、梅林中学でも同じだった。たとえ高校生になっても「単純形・現在」が「真理・習慣」などを表すことが認識されていないことを示している。

「単純形・過去」「単純形・未来」は形式も意味も一義的なので誤答は極端に少ない。これも東濃高校・梅林中学と同じである。

「進行形・現在」は「毎日～している」という和訳から考えてevery dayを選ぶ誤答が多いが、これも東濃高校・梅林中学でも同じだった。たとえ高校生になっても「進行形・現在」が「習慣」ではなく、現在の時点における「未完了の動作」を表すことが認識されていないことを示している。

「進行形・過去」でyetを選ぶ誤答が東濃高校で多かったが、郡上高校・梅林中学ではyesterdayを選ぶ誤答が多かったと対照的である。確かに「昨日～が校庭を訪れたときに私はテニスをしていた」という場合も考えられるので、全くの誤答とも言えない。

「完了形・現在」でもyetを選ぶ誤答が多いが、これも東濃高校・梅林中学でも同じだった。しかし、梅林中学では無回答の人数が圧倒的に多かったのと比べると、東濃高校では無回答が少なかったし郡上高校ではゼロである。

ただ、先にも述べたように、この問題は「空欄に入れる副詞は1回しか使えない」という指示を明確にしておかなかったことが誤答数を増やす一因になっているのではないかと考えられる。今後の反省点である。



5-5 間違いが多い順

下は誤答数が多い順に並べた表である。

順位	項目	人数
1	オ (進行形 過去)	13人
2	カ (完了形 現在)	10
3	ア (単純形 現在)	7
4	エ (進行形 現在)	6
5	イ (単純形 過去)	5
	ウ (単純形 未来)	5

東濃高校の項でも述べたことだが、<表B>はTENSE・ASPECTの「形式」操作能力を調べるものではなく、「意味」が分かった上でその「形式」を使うことができるかを調べるものである。

この表で見る限り、「進行形・過去」の意味が一番間違いやすい。また一番間違いの少ないものは「単純形・過去」「単純形・未来」であり、その順位は東濃高校・梅林中学校と変わらない。ただし、これらの最終的な分析は「高校のまとめ」および「中学・高校のまとめ」でおこなう予定なので、ここでは数値のみを載せておくことにする。

また、被験者数は全体で79人であるから、「進行形・過去」の誤答数は1/5以下であり、「進行形・現在」「単純形・現在」は約1/8だから、東濃高校と比べて誤答率は大幅に減少している（東濃高校は約半数であり、「進行形・現在」「単純形・現在」は約3分の1である）。

6. 高等学校での調査のまとめ

本論文の「4. 東濃高等学校のまとめ」と、「5. 郡上高等学校のまとめ」から、「高等学校でのまとめ」として検証してみたい。どちらも普通科の高校で年齢も同じであるから、一般的な「高校生」の結果としてもよいのではないかと思っている。

高校生のまとめとしての数値を出すとき、東濃高校と郡上高校での調査の項目数の違いから、最初から最後まで一定の人数で出せないことが残念である。しかし、1~17は138人分の数値となり、被験者数が多いほど正確な数値に近づくとすれば、この数は信頼度が高いのではないだろうか。

6-1 高校生A表の結果

東濃高等学校の結果と郡上高等学校の結果を、「高校生」としてひとつにまとめる。同じ調査用紙を使用していないので、項目によっては被験者数が異なっている。そのため、誤答者数だけでは判断しにくいので、誤答数を%で表示することにした。

<A表 (東濃高等学校1年生用)>

問題: He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。

未来 will+原型  
 進行形 be動詞+ing形  
 完了形 have(has)+過去分詞形

原形	過去形	過去分詞形	ing形
play	played	played	playing

		肯定 (ピリオドで終わる文)	否定 (notがある文)	疑問 (文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
完了形	現在			

Class No. Name \_\_\_\_\_

< A表 (東濃高等学校3年生・郡上高等学校3年生用) >

問題：He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。

未来	will+原型	原形	過去形	過去分詞形	ing形
進行形	be動詞+ing形	play	played	played	playing
完了形	have(has)+過去分詞形				

		肯定 (ピリオドで終わる文)	否定 (notがある文)	疑問 (文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
	未来			
完了形	現在			
	過去			
	未来			
完了進行形	現在			
	過去			
	未来			

Class No. Name \_\_\_\_\_

6-1-1 A表回答欄の番号づけ

解答欄に次のように番号をつけた。番号のつけ方は、中学生のまとめ、東濃高等学校のまとめ、郡上高等学校のまとめと同じである。東濃高校は1年生32人、3年生27人、郡上高等学校は3年生79人で、合計138人である。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis.	1	2
	過去	3	4	5
	未来	6	7	8
進行形	現在	9	10	11
	過去	12	13	14
	未来	24	25	26
完了形	現在	15	16	17
	過去	18	19	20
	未来	21	22	23
完了進行形	現在	27	28	29
	過去	30	31	32
	未来	33	34	35

6-1-2 誤答者数

東濃高校の1・3年生および郡上高校の全ての生徒が1～17番まで調査している。

問い18～26は、東濃高校3年・郡上高校のみが調査しており、東濃高校1年生は調査していない(調査は夏休み前に行ったので、高校1年生では調査用紙にあるすべての文法を習っていないため)。

問い27～35は、東濃高校での調査用紙に間違いがあったため、その数値を扱わないものとして、郡上高校のみの数値とした。被験者数が異なっているため、それぞれの誤答数の%を算出し、隣に記した。

表中の太線で囲んでいる数値を、その後の表でも使用している。下の表(a)～(e)はその数値をもとにして、いろいろな角度で表にしたものである。

<表（a）誤答者数①，表（b）誤答者数②（上記太線枠内のもの）>

			東濃1年	東濃3年		東濃合計	郡上		1~35合計		1~17合計		
			①32人	②27人		③59人	④79人		②27+④79 =106人		③59+④79 =138人		
番													
単純形	過去	否	1	15人	8人	30%	23人	23人	29%	31人	29%	46人	33%
	未来	疑	2	12	5	19	17	13	16	18	17	30	22
	現在	肯	3	5	2	7	7	6	8	8	8	13	9
	過去	否	4	14	6	22	20	17	22	23	22	37	27
	未来	疑	5	13	7	26	20	11	14	18	17	31	22
	現在	肯	6	2	3	11	5	6	8	9	8	11	8
	過去	否	7	5	3	11	8	7	9	10	9	15	11
	未来	疑	8	4	5	19	9	11	14	16	15	20	14
進行形	現在	肯	9	3	2	7	5	3	4	5	5	8	6
	過去	否	10	7	5	19	12	7	9	12	11	19	14
	未来	疑	11	8	6	22	14	14	18	20	19	28	20
	現在	肯	12	7	1	4	8	2	3	3	3	10	7
	過去	否	13	9	5	19	14	6	8	11	10	20	14
	未来	疑	14	11	6	22	17	18	23	24	23	35	25
	現在	肯	24		9	33	9	25	32	34	32		
	過去	否	25		18	67	18	36	46	54	51		
完了形	未来	疑	26		19	70	19	46	58	65	61		
	現在	肯	15	7	6	22	13	8	10	14	13	21	15
	過去	否	16	10	8	30	18	10	13	18	17	28	20
	未来	疑	17	13	12	44	25	16	20	28	26	41	30
	現在	肯	18		1	4	1	6	8	7	7		
	過去	否	19		5	19	5	8	10	13	12		
	未来	疑	20		8	30	8	14	18	22	21		
	現在	肯	21		8	30	8	24	30	32	30		
完了進行形	過去	否	22		13	48	13	37	47	50	47		
	未来	疑	23		21	78	21	38	48	59	56		
	現在	肯	27		25	93	25	10	13	35	33		
	過去	否	28		25	93	25	16	20	41	39		
	未来	疑	29		27	100	27	28	35	55	52		
	現在	肯	30		25	93	25	3	4	28	26		
	過去	否	31		25	93	25	12	15	37	35		
	未来	疑	32		27	100	27	27	34	54	51		
	現在	肯	33		23	85	23	24	30	47	44		
	過去	否	34		23	85	23	37	47	60	57		
	未来	疑	35		25	93	25	41	52	66	62		

<表（b）誤答者数②（上記太線枠内のもの）>

単純形			進行形			完了形			完了進行形		
1	46	33%	9	8	6%	15	21人	15%	27	10人	13%
2	30	22	10	19	14	16	28	20	28	16	20
3	13	9	11	28	20	17	41	30	29	28	35
4	37	27	12	10	7	18	7	7	30	3	4
5	31	22	13	20	14	19	13	12	31	12	15
6	11	8	14	35	25	20	22	21	32	27	34
7	15	11	24	34	32	21	32	30	33	24	30
8	20	14	25	54	51	22	50	47	34	37	47
			26	65	61	23	59	56	35	41	52

<表 (c) 誤答数%>

		肯定	否定	疑問
単純形	現在		33%	22%
	過去	9%	27	22
	未来	8	11	14
進行形	現在	6	14	20
	過去	7	14	25
	未来	32	51	61
完了形	現在	15	20	30
	過去	7	12	21
	未来	30	47	56
完了進行形	現在	13	20	35
	過去	4	15	34
	未来	30	47	52

<表 (d) 誤答順位 (多い順)> (■は、1～3位と、32～35位)

		肯定	否定	疑問
単純形	現在		9位	16位
	過去	30位	14	17
	未来	31	29	24
進行形	現在	34	24	19
	過去	32	24	15
	未来	10	4	1
完了形	現在	22	19	11
	過去	32	28	18
	未来	11	5	2
完了進行形	現在	27	19	7
	過去	35	22	8
	未来	11	5	3

<表 (e) 間違いが多い順>

順位	項目	誤答%
1	26 進行形 未来 疑問	61
2	23 完了形 未来 疑問	56
3	35 完了進行形 未来 疑問	52
4	25 進行形 未来 否定	51
5	22 完了形 未来 否定	47
	34 完了進行形 未来 否定	47
7	29 完了進行形 現在 疑問	35
8	32 完了進行形 過去 疑問	34
9	1 単純形 現在 否定	33
10	24 進行形 未来 肯定	32
11	17 完了形 現在 疑問	30
	21 完了形 未来 肯定	30
	33 完了進行形 未来 肯定	30
14	4 単純形 過去 否定	27
15	14 進行形 過去 疑問	25
16	2 単純形 現在 疑問	22
	5 単純形 過去 疑問	22
18	20 完了形 過去 疑問	21
19	11 進行形 現在 疑問	20
	16 完了形 現在 否定	20
	28 完了進行形 現在 否定	20
22	15 完了形 現在 肯定	15
	31 完了進行形 過去 否定	15
24	8 単純形 未来 疑問	14
	10 進行形 現在 否定	14
	13 進行形 過去 否定	14
27	27 完了進行形 現在 肯定	13
28	19 完了形 過去 否定	12
29	7 単純形 未来 否定	11
30	3 単純形 過去 肯定	9
31	6 単純形 未来 肯定	8
32	12 進行形 過去 肯定	7
	18 完了形 過去 肯定	7
34	9 進行形 現在 肯定	6
35	30 完了進行形 過去 肯定	4

表を見やすくするために、色分けや文字囲いなどをしてみた。例：1 単純形 現在 否定

間違いの多さを順位であらわしてみると、上記の表を見れば分かるように、1～3位は未来に集中している。未来というものが定着しにくいことや、否定・疑問についても定着しにくいことが分かる。

しかし、よく考えてみれば、「未来」が全て難しいわけではない。なぜなら「単純形・未来」はむしろ助動詞WILLをつけるだけでよいし、その後にNOTを置けば否定文になり、WILLを文頭に出せば疑問文になる。だから「未来というものが定着しにくい」わけではないのである。

（また、そもそも「未来形」というものは英語には存在しない。動詞playの現在はplay, plays, 過去はplayedだが、will playはplayという動詞が屈折語尾をつけて出来たものではないからである。）

つまり、「未来」というものが定着しにくいのではなく、「進行形」や「完了形」そのものが、「BE動詞+現在分詞」「HAVE動詞+過去分詞」という「複合形」を成しているうえに、「助動詞WILL+動詞原形」というものが重なってくるからこそ、誤答率が高くなるのである。

とはいえ、上記の表では「完了進行形・未来」という、「複合形」を3重に「足し算」しなければならないものが、誤答率のトップを占めているわけでもないことも注目に値する事実である。それどころか「完了進行形・過去・肯定」が上記の表では、誤答率が最低である。この項目に関する調査が東濃高校で失敗していなければ、別の結果が出ている可能性がある。

それはともかく、間違いが少ない30～35位は全て肯定にあり、完了形に関しては、現在よりも過去の方が正解が多かったことが分かる。完了形・現在は中学校で既習の文法であり、その文法の使用度も頻度が高いはずなのに不思議である。

しかし、これも考えてみれば当然のことであろう。なぜなら「完了形・現在」の場合、完了形をつくる助動詞HAVEの「現在」には、have, hasの二つがあるが、「過去」にはhadの一つしかないので、どちらにするか迷う必要がないからである。

単純形や進行形に関しても現在よりも過去の方が順位が良く、現在よりも過去の方が定着が良いことが分かる。これも上記と全く同じ理由である。「現在」の場合、いつも「三単現」の問題に悩まされるが、「過去」の場合、そのような問題は生じないからである。教科書も「現在」からではなく「過去」から導入した方が良い理由がここにある。

### 6-1-3 誤答例と誤答数

#### 1) 単純形

##### (1) 単純形・現在

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
単純形	現在	1 否定	He doesn't plays tennis.	1	1	2	4	6
			He don't play tennis.	1	2	3	4	7
			He isn't play tennis.	2	2	4	3	7
			He is not plays tennis.	0	0	0	2	2
			He don't plays tennis.	1	1	2	1	3
			He dones't play tennis.	0	0	0	1	1
			He not play tennis.	3	1	4	1	5
			He not plays tennis.	6	1	7	7	14
			He plays not tennis.	1	0	1	0	1
			無回答	0	0	0	0	0
		合計	15	8	23	23	46	
単純形	現在	2 疑問	Is he play tennis?	4	0	4	2	6
			He plays tennis?	1	0	1	0	1
			Does you play tennis?	1	0	1	0	1
			Does he plays tennis?	1	3	4	6	10
			Dose he play tennis?	0	0	0	1	1
			Is he plays tennis?	3	1	4	3	7
			Do he play tennis?	1	0	1	0	1
			Do he plays tennis?	1	0	1	0	1
			Do you play tennis?	0	1	1	1	2
			無回答	0	0	0	0	0
		合計	12	5	17	13	30	

「単純形・否定」にしては、誤答人数が31人はかなり多いと思われる。中学1年生で習う文法だから、正しく書いて当たり前だと思うのは間違いであり、中学1年生で高校生でも確実に書けないほど難しい文法を習わせていると考えた方がよいのかもしれない。

しかし、言語習得の研究から見ても「三単現のs」は最後の方で習得されるのだから、これも当然の結果だと言えよう。だからこそ、否定文に変えるとき、三単現なのでdoではなくdoesを使うこと、playsのsをとること、does notの短縮形を正しく書くことなどを注意しなければならないのである。

網掛けした「単純形・否定」の間違いは、予想可能なミスであり、He not plays tennis.はそれらの複合型だと考えられる。しかし「予想可能なミス」だとはいえ、これは自然な会話では母語話者でも間違えるものであるから、これに神経をとがらせることは学習指導のうえではマイナスであろう。母語話者の発達順序を見ても分かるように、このような順序を経て徐々に正しい文法を身につけていくのである。

先の「否定文」と比べると、「疑問文」の方が間違いが少ない。疑問文を正しく書ける生徒は、否定文も正しく書けるのではないだろうか。逆にいえば、授業で指導する場合、「否定」を教えたあとに「疑問」を教える必要はなく、「疑問文」の作りさえ教え、それを十分に練習すれば、「否定文」の作り方を詳しく説明したり練習したりする必要はないということを示唆している。

これは試してみる価値がある問題である。既に言語習得の研究で、「完了形」の指導も全ての用法を教える必要はなく、一番難しい問題に取り組ませれば、あとは必要ないことが、明らかにされているからである。

## (2) 単純形・過去

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
単純形	過去	3 肯定	He was played tennis.	0	0	0	1	1
			He was plays tennis.	1	0	1	0	1
			He was play tennis.	2	1	3	1	4
			He plaied tennis.	1	0	1	0	1
			He did play tennis.	0	1	1	3	4
			He pleyed tennis.	0	0	0	1	1
			無回答	1	0	1	0	1
			合計	5	2	7	6	13
単純形	過去	4 否定	He doesn't play tennis.	2	0	2	0	2
			He does not plays tennis.	0	0	0	1	1
			He doesn't played tennis.	1	0	1	1	2
			He not played tennis.	4	3	7	4	11
			He wasn't plays tennis.	1	0	1	1	2
			He wasn't play tennis.	2	1	3	5	8
			He wasn't played tennis.	1	0	1	1	2
			He played not tennis.	1	0	1	0	1
			He is not played tennis.	0	1	1	0	1
			He didn't played tennis.	0	1	1	1	2
			He didn't plays tennis.	0	0	0	2	2
			He don't played tennis.	0	0	0	1	1
			無回答	2	0	2	0	2
合計	14	6	20	17	37			
単純形	過去	5 疑問	Does he play tennis?	2	0	2	0	2
			Does he plays tennis?	0	0	0	1	1
			Does he not played tennis?	0	0	0	1	1
			Did you play tennis?	1	1	2	0	2
			Does he played tennis?	3	2	5	0	5
			Was he play tennis?	3	0	3	1	4
			Was he plays tennis?	1	0	1	0	1
			Was he played tennis?	0	0	0	1	1
			Do he played tennis?	1	0	1	0	1
			Is he played tennis?	0	1	1	0	1
			Did he plays tennis?	0	0	0	2	2
			Did he played tennis?	0	2	2	4	6
			Dib he play tennis?	0	1	1	0	1
			Do you played tennis?	0	0	0	1	1
無回答	2	0	2	0	2			
合計	13	7	20	11	31			



まず「過去・肯定」であるが、ここでは、He did play tennis.を間違いとするか迷った。強調構文として見れば、文法上間違いではない。しかし、この項目で被験者に書かせたいのはHe played tennis.であり、解答用紙にもplayの動詞の変化（play - played - played）は載せてある。そこでとりあえずこのHe did play tennis.も間違いの数に入れた。

それはともかく、「過去・肯定」では「三単現」に悩まされる必要もないし、「疑問」「否定」のように、存在しなかった「左半丸」を新しくつくり出す必要もないから、この項目の誤答率が極めて低くなることは、少し考えてみれば、当然のことである。

次に「過去・否定」であるが、ここでは、doesn't, wasn't, isn't(is not), 動詞ではplay, plays, playedのように、間違いが多様である。これは先にも述べたように、「単純形・過去」では「三単現」に悩まされる必要はないが、「否定」の場合、存在しなかった「左半丸」を新しくつくり出す必要が出てくるからである。

そして、この「左半丸」を考える際に、doesn't, wasn't, isn't(is not) のような多様な変種が生まれることになる。それに比例して、「右半丸」にも、play, plays, playedのような変種が生じるわけである。これも少し考えてみれば、当然のことであろう。

最後に「過去・疑問」であるが、ここでも、Does, Did, Do, Was, Is など文頭の「左半丸」が様々で、動詞playもplays, playedとなり、間違いが多様である。「過去・肯定」での間違いが少ないにもかかわらず、この疑問文の間違いが多いことから、「単純形・過去」が必ずしも定着しているとは言い難い結果となった。

しかし、これも考えてみれば当然のことであろう。なぜなら、先にも述べたように、「単純形・過去」では「三単現」に悩まされる必要はないが、「疑問」の場合も、「否定」と同様に、存在しなかった「左半丸」を新しくつくり出す必要が出てくるからである。この「左半丸」を考える際に、Does, Did, Do, Was, Is など文頭が様々になり、それに比例して、「右半丸」にも、play, plays, playedのような変種が生じるわけである。

（3）単純形・未来

				誤答例				
単純形	未来			東1	東3	東合	郡上	合計
単純形	未来	6 肯定	He plays tennis.	1	0	1	0	1
			He playing tennis.	0	1	1	0	1
			He will plays tennis.	0	2	2	5	7
			He will played tennis.	0	0	0	1	1
			Will he play tennis.	1	0	1	0	1
			無回答	0	0	0	0	0
			合計	2	3	5	6	11
単純形	未来	7 否定	He is not going to tennis.	0	1	1	0	1
			He will do not play tennis.	0	0	0	1	1
			He will not plays tennis.	0	0	0	5	5
			He won't plays tennis.	1	0	1	0	1
			He not will play tennis?	1	0	1	0	1
			He not playing tennis.	0	1	1	0	1
			Will doesn't play tennis.	1	0	1	0	1
			He willn't plays tennis.	0	1	1	0	1
			He wont not play tennis.	0	0	0	1	1
			無回答	2	0	2	0	2
合計	5	3	8	7	15			
単純形	未来	8 疑問	Is he will plays tennis?	0	0	0	1	1
			Will he do play tennis?	0	0	0	1	1
			Will he plays tennis?	1	2	3	5	8
			Does will play tennis?	1	0	1	0	1
			Does he will play tennis?	0	0	0	1	1
			Does he pleying tennis?	0	1	1	0	1
			Did he play tennis?	0	0	0	1	1
			Will you play tennis?	0	1	1	1	2
無回答	2	1	3	1	4			
合計	4	5	9	11	20			



単純形で間違いが最も多いだろうと思っていたのは未来である。しかし、結果はその反対で、未来が、間違いが少なかった。

しかし考えてみればそれも当然で、肯定文では「左半丸」として最初からWILLが存在するのだから、それを前に出せば疑問文になり、その後にNOTを置けば否定文になるのだから、これほど簡単な作業はない。

それでも、助動詞WILLの後に三単現のSをつけたままの間違いが多い。誤答例で一番多かったのが、He will plays tennis. He will not plays tennis. Will he plays tennis? であった。これは「WILL+動詞原形」という公式があっても「原形」の意味が分かっていないからであろう。

否定辞NOTの位置が助動詞WILLの前や後など、いろいろなところに見られる。NOTをどこにつければよいか分からない様子がかがえる。しかし、「左半丸の後にNOTを置く」という原則さえ理解されれば、簡単に回避できる間違いである。

また、willとnotの短縮形がwon'tとなることで、正しく書けない間違いが見られる。大抵の短縮形はisn't, aren't, don'tなど、もとの単語を推測しやすい。しかしwon'tはwillのl(エル)が無くなっているため、willn'tという語を作り出してしまうのであろう。

無回答の数がこれまでほとんどなかったにもかかわらず、「疑問文」を書く段階で増えている。疑問と聞いただけで苦手意識が出てくるのかもしれない。Will you play tennis?という誤答例が2個あり、それも「疑問文」の誤答数を増やす原因になっている。会話練習で「Will you ~?」というパターンを叩き込まれた結果だとすれば、会話ごっこも考えものではないだろうか。

## 2) 進行形

### (1) 進行形・現在

				誤答例				東1	東3	東合	郡上	合計
進行形	現在	9肯定	He does playing tennis.	0	0	0	1	1				
			He playing tennis.	3	2	5	2	7				
			無回答	0	0	0	0	0				
			合計	3	2	5	3	8				
進行形	現在	10否定	He isn't play tennis.	1	1	2	1	3				
			He don't playing tennis.	1	1	2	1	3				
			He not playing tennis.	2	1	3	1	4				
			He doesn't playing tennis.	1	1	2	4	6				
			He is notting play tennis.	0	1	1	0	1				
			無回答	2	0	2	0	2				
合計	7	5	12	7	19							
進行形	現在	11疑問	Do he playing tennis?	1	0	1	0	1				
			Is he not playing tennis?	1	0	1	0	1				
			Is he play tennis?	0	1	1	0	1				
			Does he playing tennis?	2	5	7	9	16				
			Does not he playing tennis?	0	0	0	1	1				
			Dose he is playing tennis?	0	0	0	3	3				
			Do you isn't playing tennis?	0	0	0	1	1				
			無回答	4	0	4	0	4				
合計	8	6	14	14	28							

もっとも間違いが少ない項目の一つが「進行形・現在」である。その中で「肯定文」に多い誤答例はHe playing tennis.であり、be動詞をつけていないものである。

また、このbe動詞をつけていない文から否定文を作ろうとしたために、He doesn't playing tennis.やHe don't playing tennis.という間違いがおこるのではないか。

また、He doesn't playing tennis.という誤答が一番多いとすれば、Does he playing tennis?という間違いが一番多いのも当然であろう。

さらに言えば、Doseというスペリングミスは、中学校1年生で起こりやすいと考える。というのもwhoseという疑問詞が新出のとき、平行して疑問文を学習するので、既習doesと混乱してしまうのではないか。語尾とeとsの順番が逆であるが、フーズ、ダズのようにどちらも「ズ」と発音するからである。今回もその間違いではないかと考える。

(2) 進行形・過去

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
進行形	過去	12肯定	He had playing tennis.	0	0	0	1	1
			He did playing tennis.	0	0	0	1	1
			He played tennis.	2	1	3	0	3
			He be playing tennis.	1	0	1	0	1
			無回答	4	0	4	0	4
			合計	7	1	8	2	10
進行形	過去	13否定	He wasn't play tennis.	2	0	2	1	3
			He not playing tennis.	1	0	1	0	1
			He doesn't play tennis.	1	0	1	1	2
			He doesn't played tennis.	0	1	1	0	1
			He didn't playing tennis.	0	1	1	4	5
			He wan't playing tennis.	0	1	1	0	1
			He was not playing tennis.	0	1	1	0	1
			He was notting play tennis.	0	1	1	0	1
			無回答	5	0	5	0	5
			合計	9	5	14	6	20
進行形	過去	14疑問	Was he play tennis?	2	2	4	0	4
			Does he play tennis?	1	0	1	0	1
			Does he playing tennis?	0	0	0	3	3
			Does he played tennis?	0	1	1	0	1
			Was he playingのみ	1	0	1	0	1
			Was he not playing tennis?	1	0	1	0	1
			Did he playing tennis?	1	3	4	9	13
			Did he is playing tennis?	0	0	0	2	2
			Did not he playing tennis?	0	0	0	1	1
			Do you wasn't playing tennis?	0	0	0	1	1
			Dos he way playing tennis?	0	0	0	1	1
			Was he plaing tennis?	0	0	0	1	1
			無回答	5	0	5	0	5
			合計	11	6	17	18	35

「進行形・過去」も間違いが少ない項目である。しかし、その少ない中でも、「肯定」ではHe played tennis.の間違いが多い。過去という意識のほうが進行形という意識よりも強く働いてしまったためだろうか。

また「否定」では、He didn't playing tennis.という誤答数が多い。この延長上で、「疑問」では、Did he playing tennis? の間違いが飛びぬけて多くなるのだろう。これも「肯定」で「左半丸」としてbe動詞を使っていれば出てこない間違いである。

東濃高校ではWas he play tennis?の間違いが多く、郡上高校ではDid he playing tennis?の間違いが多く見られる。中学校2年生でならう過去進行形の間違いが35人であるということは、約27%の間違いの率である。およそ4人にひとりが間違っている計算となる。

3) 完了形

(1) 完了形・現在

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
完了形	現在	15肯定	He have to play tennis.	1	0	1	0	1
			He has play tennis.	3	0	3	4	7
			He will have been playing tennis.	1	0	1	0	1
			He have played tennis.	2	5	7	4	11
			He has been played tennis.	0	1	1	0	1
			無回答	0	0	0	0	0
			合計	7	6	13	8	21
完了形	現在	16否定	He have not(haven't) played tennis.	2	4	6	4	10
			He haven't play tennis.	1	0	1	0	1
			He doesn't have play tennis.	1	0	1	0	1
			He doesn't have played tennis.	0	0	0	1	1
			He have doesn't played tennis.	0	1	1	0	1
			He hasn't play tennis.	4	2	6	3	9
			He hadn't play tennis.	0	0	0	1	1
			He will have been playing tennis.	1	0	1	0	1
			He not have played tennis.	0	1	1	0	1
			He not has played tennis.	0	0	0	1	1
			無回答	1	0	1	0	1
			合計	10	8	18	10	28
完了形	現在	17疑問	Is he have played tennis?	0	0	0	1	1
			Have he played tennis?	2	4	6	4	10
			Has he play tennis?	4	1	5	2	7
			Have he play tennis?	1	0	1	0	1
			Will he have been playing tennis?	1	0	1	0	1
			Has he playing tennis?	1	0	1	1	2
			Has he not played tennis?	1	0	1	0	1
			Has not he played tennis?	0	1	1	0	1
			Does he have played tennis?	0	2	2	2	4
			Does he has played tennis?	0	0	0	1	1
			Does he played tennis?	0	0	0	1	1
			Did he play tennis?	0	1	1	0	1
			Do you have played tennis?	0	0	0	1	1
			Had he play tennis?	0	0	0	1	1
			Has you never played tennis?	0	0	0	1	1
			Have you played tennis?	0	0	0	1	1
			無回答	3	3	6	0	6
			合計	13	12	25	16	41

He have played tennis.の間違いが多く、「HAVE動詞+過去分詞」という形式は身につけていても、Heという主語でhasに変えなければならないところで躓いている。

またHe has play tennis.の間違いでは、haveをhasに変えることまではよいが、過去分詞形に変えることができていない。「完了形・現在」と書いてあったところから、playedにできなかったのだろうか。この間違いでは、まず「HAVE動詞+過去分詞」という形式が身につけていないことになる。

上記の間違いに対応して多い誤答が、He have not(haven't) played tennis. He hasn't play tennis. という「否定文」であり、Have he played tennis? Has he play tennis? という「疑問文」である。つまり、「完了形・現在・肯定」でつくった誤答にnotをつけたり、左半丸を文頭に移したものである。

「肯定文」を正しく書けるかどうか、その隣の否定や疑問の正解率を左右させる。しかし、これを逆に言えば「左半丸の後ろにNOTを置けば疑問文になり、左半丸を文頭に出せば疑問文になる」という原則は理解されているということでもある。

Does he have played tennis?という間違いが少し多いことに気がつく。これはhaveが疑問で文頭にくることが理解できていないために、「現在」であることを考えてdoesを文頭につけてしまったと考えられる。しかし、このような間違いも「左半丸」とは何か分かっていれば簡単に回避できたはずである。

(2) 完了形・過去

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
完了形	過去	18肯定	He had play tennis.	/	0	0	4	4
			He has played tennis.	/	0	0	1	1
			He has been played tennis.	/	0	0	1	1
			He had done play tennis.	/	1	1	0	1
			合計	/	1	1	6	7
完了形	過去	19否定	He hadn't had played tennis.	/	0	0	1	1
			He had not play tennis.	/	2	2	3	5
			He hasn't been played tennis.	/	0	0	1	1
			He has not played tennis.	/	0	0	1	1
			He not had played tennis.	/	1	1	1	2
			He had played tennis.	/	1	1	0	1
			He have didn't played tennis.	/	1	1	0	1
			He didn't have playetennis.	/	0	0	1	1
合計	/	5	5	8	13			
完了形	過去	20疑問	Had he playing tennis?	/	0	0	1	1
			Had he play tennis?	/	0	0	4	4
			Had not he played tennis?	/	1	1	0	1
			Had you never played tennis?	/	0	0	1	1
			Have he played tennis?	/	1	1	1	2
			Does he had played tennis?	/	1	1	0	1
			Did he had played tennis?	/	0	0	1	1
			Did he has played tennis?	/	0	0	1	1
			Did he played tennis?	/	1	1	1	2
			Did he have played tennis?	/	1	1	0	1
			Did have he play tennis?	/	0	0	1	1
			Did he have been played tennis?	/	0	0	1	1
			Do you had played tennis?	/	0	0	1	1
			played tennis?	/	0	0	1	1
			無回答	/	3	3	0	3
合計	/	8	8	14	22			

「完了形・過去・肯定」(誤答例: He had play tennis.) の間違いが少し多いが、「完了形・現在・肯定」よりも間違いが少なく、ここでも現在よりも過去の方が定着しやすいことが裏づけられる。

「完了形・過去・否定」では、notの位置がhadやhasの後にあるものや、hadの前にあるもの、didと組み合わせられているものなど様々な間違いがある。notを置く場所が理解できていないことがわかる。しかし「完了形・現在・否定」と比べれば誤答数は遙かに少ない。

「完了形・過去・疑問」では、Had he play tennis?の間違いが多いが、「完了形・現在・疑問」と比べれば、誤答数は半減している。文頭にHad, Have, Does, Did, Doなどがあり、Does, Did, Doから始まるものは文中にhadやhaveが残っている。

つまり「左半丸(完了形ではHAVE動詞)を文頭に出せば疑問文になる」という単純な規則が理解されていないか定着していないために、文頭に出す「左半丸」にHad, Have, Does, Did, Doなど多様なものを選ばれることになる。

(3) 完了形・未来

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計		
完了形	未来	21肯定	He will have play tennis.		1	1	2	3		
			He will has played tennis.		2	2	7	9		
			He will play tennis.		0	0	1	1		
			He will has playing tennis.		0	0	1	1		
			He will has play tennis.		0	0	2	2		
			He will had play tennis.		0	0	2	2		
			He will have been play tennis.		0	0	1	1		
			He will had played tennis.		0	0	2	2		
			He will be have played tennis.		0	0	1	1		
			He has been going to play tennis.		0	0	1	1		
			He has playing tennis.		0	0	1	1		
			He has will play tennis.		0	0	1	1		
			He have will played tennis.		1	1	0	1		
			He had playing tennis.		1	1	0	1		
			He would has played tennis.		0	0	1	1		
			He would have played tennis.		0	0	1	1		
			He having played tennis.		1	1	0	1		
			He will		2	2	0	2		
			合計				8	8	24	32
			完了形	未来	22否定	He will haven't played tennis.		3	3	11
He will have not play tennis.		0				0	1	1		
He won't play tennis.		0				0	1	1		
He will not has played tennis.		1				1	0	1		
He will has playing tennis.		0				0	1	1		
He will not have been play tennis.		0				0	1	1		
He will has not play tennis.		0				0	2	2		
He will has not played tennis.		1				1	0	1		
He will have not play tennis.		1				1	0	1		
He will not has played tennis.		0				0	7	7		
He will hasn't play tennis.		0				0	1	1		
He will not had played tennis.		0				0	1	1		
He will not be have played tennis.		0				0	1	1		
He won't had play tennis.		0				0	1	1		
He won't have play tennis.		1				1	3	4		
He hasn't been going to play tennis.		0				0	1	1		
He has will not playing tennis.		0				0	1	1		
He has not playing tennis.		0				0	1	1		
He have not will played tennis.		1				1	0	1		
He having not played tennis.		1				1	0	1		
He not had playing tennis.		1				1	0	1		
He willn't have played tennis.		1				1	0	1		
He well not has played tennis.		0				0	1	1		
He wont not have played tennis.		0				0	1	1		
He will hadn't played tennis.		0				0	1	1		
He		1				1	0	1		
無回答		1				1	0	1		
合計				13	13	37	50			
完了形	未来	23疑問	Will he has play tennis?		0	0	1	1		
			Will he have play tennis?		3	3	2	5		
			Will he has played tennis?		0	0	5	5		
			Will has he played tennis?		1	1	0	1		
			Will he play tennis?		0	0	1	1		
			Will he have been play tennis?		0	0	1	1		
			Will he have been playing tennis?		0	0	1	1		

Will he played tennis?		0	0	3	3
Will he never played tennis?		0	0	1	1
Will he had played tennis?		0	0	2	2
Will he has playing tennis?		0	0	1	1
Will he will have played tennis.?		0	0	1	1
Will have he played tennis?		2	2	3	5
Will have he play tennis?		0	0	1	1
Won't he has played tennis?		0	0	1	1
Would he have played tennis?		0	0	1	1
Would has he played tennis?		0	0	1	1
Have he played tennis?		0	0	1	1
Have he will played tennis?		2	2	2	4
Have will he played tennis?		1	1	0	1
Have he will play tennis?		1	1	0	1
Has he been going to play tennis.		0	0	1	1
Has he playing tennis?		0	0	2	2
Has he will play tennis?		0	0	1	1
Has will he playing tennis?		0	0	1	1
Having he played tennis?		1	1	0	1
Does he have will played tennis?		1	1	0	1
Did he playing tennis?		1	1	0	1
Did he had play tennis?		0	0	1	1
Will you have played tennis?		0	0	1	1
played tennis?		0	0	1	1
Will he		1	1	0	1
Will have		1	1	0	1
無回答		6	6	1	7
合計		21	21	38	59

「完了形・未来・肯定」では、He will has played tennis.という間違いが多いことがわかる。それに対応して「疑問文」「否定文」に、He will not has played tennis. Will he has played tennis?という誤答が生まれることになる。助動詞willの後のhasがhaveに変換できないわけである。

また「完了形・未来」の誤答数は、「完了形・現在」の誤答数を遙かに超える。誤答数がいちばん多い「疑問」だけを取り上げても、「完了形・未来」の誤答数が59であるのに対して、「完了形・現在」の誤答数は41である。「完了形・過去」に至っては22にすぎない。

間違いの文章も様々である。文頭にWill, Won't, Have, Has, Having, Does, Didなどがあり、「左半丸」として何が文頭に来るのが理解できていないことがわかる。have playedの部分もhas playedであったり、beenを使ってあったりと、組み合わせがいろいろできている。

間違いの人数・種類がとても多い。また無回答が7人いる。高校生の調査では「完了進行形」に次ぐ人数になっている。間違い率は47%で、2人にひとり間違えるという結果になっている。

しかし「完了形・現在」「完了形・過去」と比べて、「完了形・未来」に誤答が多くなるのはある意味で当然であるともいえる。なぜなら、「完了形・未来」は、二つの「複合形」、すなわち「未来＝will + 原形」と「完了形＝have + 過去分詞」を「足し算」しないと作れない形式だからである。たとえ「will+have+動詞」の語順は合っていても、「足し算」するとき間違いが生じやすいのである。

ところで、郡上高校が東濃高校よりも間違いが多い。「肯定」の場合は3倍の間違いがある。その理由を探ろうとしても、いまいちこれといった考えが浮かばない。どちらの学校の調査用紙の上部にも、下のような公式のヒントが載せられている（東濃は一部が間違っていたが）。

< 公式 >

- 未来…will + 原形
- 進行形…be + ing 形
- 完了形…have + 過去分詞形
- 完了進行形…have + been + ing形

しかし間違いの文を見ても、このヒントが干渉しているとは考えにくい。一つ考えられるのは郡上高校の方が進学熱が高いため英語を学習する時間が多いことである。学習時間が多いほど、多くの文法や難解な文章に出会っているはずである。

被験者が学習の過程にあってinputが多く、まだintakeが不十分なき、それらの文法をきちんと整理できていないとすれば、理解のあいまいさがこのような多様な間違いにあらわれているのかもしれない。つまり、きちんと理論的に整理されないまま丸暗記の学習を強制されると教育効果としては逆効果になる恐れがあるのかもしれない。

その意味でも「記号づけ」による文法の説明は、私たちの頭を極めて明快かつ合理的に整理してくれる。そのことを、この調査は改めて認識させてくれた。

4) 進行形・未来

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計		
進行形	未来	24肯定	He will playing tennis.	/	4	4	15	19		
			He will play tennis.	/	1	1	3	4		
			He will has been tennis.	/	0	0	1	1		
			He will being play tennis.	/	0	0	2	2		
			He will be play tennis.	/	1	1	0	1		
			He will is playing tennis.	/	1	1	0	1		
			He is going to play tennis.	/	0	0	1	1		
			He is going to playing tennis.	/	1	1	0	1		
			He is playing tennis.	/	1	1	0	1		
			He going to playing tennis.	/	0	0	1	1		
			He wil b laying tennis.	/	0	0	1	1		
			He	/	0	0	1	1		
			合計			/	9	9	25	34
			進行形	未来	25否定	He will not palying tennis.	/	5	5	18
He will not being play tennis.	/	0				0	2	2		
He will being playing tennis.	/	0				0	1	2		
He will be not playing tennis.	/	7				7	7	14		
He won't play tennis.	/	1				1	4	5		
He won't be play tennis.	/	1				1	0	1		
He is not playing tennis.	/	1				1	0	1		
He is not will playing tennis.	/	1				1	0	1		
He is not going to play tennis.	/	0				0	1	1		
He isn't going to playing tennis.	/	1				1	0	1		
He not going to playing tennis.	/	0				0	1	1		
He willn't playing tennis.	/	1				1	0	1		
He wont not be playing tennis.	/	0				0	1	1		
He	/	0				0	1	1		
合計			/	18	18	36	54			
進行形	未来	26疑問	Will he is playing tennis?	/	2	2	8	10		
			Will he palying tennis?	/	7	7	21	28		
			Will he play tennnis?	/	1	1	2	3		
			Will he being play tennis?	/	0	0	2	2		
			Will he be not playing tennis?	/	0	0	1	1		
			Will he not be playing tennis?	/	0	0	1	1		
			Will be he playing tennis?	/	2	2	0	2		



	Did he play tennis?	/	0	0	1	1
	Did he playing tennis?	/	0	0	2	2
	Does he playing tennis?	/	1	1	0	1
	Does he will play tennis?	/	0	0	1	1
	Would he playing tennis?	/	1	1	0	1
	Is he going to playing tennis?	/	1	1	0	1
	Is he going to play tennis?	/	0	0	1	1
	Is he will play tennis?	/	0	0	1	1
	Is he will playing tennis?	/	0	0	2	2
	Will you is playing tennis?	/	0	0	1	1
	He	/	0	0	1	1
	無回答	/	4	4	1	5
	合計	/	19	19	46	65

「進行形・未来」「肯定」では、He will playing tennis.の間違いが多い。これに対応して、「否定」や「疑問」でも、He will not playing tennis. Will he playing tennis? という誤答が多くなる。このことから、ingの動詞を用いることよりも、be動詞をつけることができないことの方が身につけにくいのではないか。

この間違いの人数65人は間違いの多い順位では第1位で、間違いの率は61%である。半数以上が間違えるということになる。肯定でさえきちんと作れていないのであるから、さらに苦手な疑問文となると正解率がぐっと減るのも理解できる。完了進行形のほうが難しいのではないかと思っていたが、この進行形・未来・疑問が勝るとは思わなかった。

しかし、考えてみれば「進行形・未来」で誤答が多くなるのは当然である。なぜなら、「進行形・未来」は、「未来＝助動詞WILL＋原形」と「進行形＝BE動詞＋過去分詞」という二つの「複合形」を「足し算」しないと作れない形式だからである。たとえ「will＋be＋～ing」の語順は合っているとしても、この「足し算」をするときに間違いが生じやすいのである。

この進行形・未来でも、全体的に東濃高校よりも郡上高校の方が間違いが圧倒的に多いことが見てとれる。同じ普通科高校なのに、いわゆる「底辺校」といわれる学校よりも、進学校といわれる学校の方が誤答率が高いというのは、英語教育のあり方に深刻な反省を迫られる問題を含んでいると思われるのだが、どうだろうか。

#### 6-1-4 完了進行形について

東濃高校でこの調査を行うとき、実は重要なミスをおかしてしまった。調査用紙を東濃高校へ届けに行き、そこで担当教諭と打ち合わせをしていたときのことである。調査用紙に間違いがあることに気づいたのである。その間違いというのは次の下線部分であり、今回のこの調査の結果に非常に影響を及ぼす部分であることが判った。

＜ 公式 ＞	
未来…	will + 原形
進行形…	be + ing 形
完了形…	have + 過去分詞形
完了進行形…	<u>will + have + ing形</u>

特に完了進行形は、公式をあてにして解答する生徒が多いと思われる。その公式をミスプリントしてしまったのである。その場で担当教諭に「調査前に必ず訂正して欲しい」と頼んでおいたのであるが、調査後にその教諭から「言い忘れた」との残念な報告があった。生徒の解答を見ると、やはり上記の公式に当てはめてしまっていると思われる誤答が多く、とてもそれらの結果を郡上高校のものと同じようには扱えないと判断した。

郡上高校で調査をするときにはこの部分を訂正し、正確に調査が行われるように気をつけた。そのため完了進行形の項目については、郡上高校の数値のみで見たいと思う。東濃高校の数値も一応載せてあるが、取り扱わない。それよりも、あの間違った公式にいかにか当てはめようかと奮闘する生徒の姿が思い浮かんで、申し訳ない気持ちでいっぱいである。

(1) 完了進行形・現在

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
完了進行形	現在	27肯定	He will have playing tennis.	/	17	17	0	17
			He will have play tennis.	/	1	1	0	1
			He will has playing tennis.	/	4	4	0	4
			He will has been playing tennis.	/	1	1	0	1
			He have been playing tennis.	/	0	0	7	7
			He has done playing tennis.	/	0	0	1	1
			He has been played tennis	/	1	1	0	1
			He has playing tennis.	/	1	1	2	3
			合計	/	25	25	10	35
完了進行形	現在	28否定	He has been not playing tennis.	/	0	0	4	4
			He has been playing tennis.	/	0	0	1	1
			He has not done playing tennis.	/	0	0	1	1
			He hasn't playing tennis.	/	1	1	1	2
			He hasn't been played tennis.	/	1	1	0	1
			He have not playing tennis.	/	0	0	1	1
			He have not been playing tennis.	/	0	0	4	4
			He not have been playing tennis.	/	0	0	1	1
			He not has been playing tennis.	/	0	0	3	3
			He will not have playing tennis.	/	9	9	0	9
			He will not has playing tennis.	/	1	1	0	1
			He will not playing tennis.	/	1	1	0	1
			He will haven't playing tennis.	/	2	2	0	2
			He won't have playing tennis.	/	3	3	0	3
			He won't have play tennis.	/	1	1	0	1
			He will has not play tennis.	/	1	1	0	1
			He will has not playing tennis.	/	1	1	0	1
			He will has been not playing tennis.	/	1	1	0	1
			He will have not playing tennis.	/	1	1	0	1
			He willn't has playing tennis.	/	1	1	0	1
He willn't have playing tennis.	/	1	1	0	1			
合計	/	25	25	16	41			
完了進行形	現在	29疑問	Has he playing tennis?	/	1	1	2	3
			Has he done playing tennis?	/	0	0	1	1
			Has he been play tennis?	/	1	1	0	1
			Has he will playing tennis?	/	1	1	0	1
			Has he is playing tennis?	/	0	0	2	2
			Has been he playing tennis?	/	0	0	3	3
			Hasn't he been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Have he was playing tennis?	/	0	0	1	1
			Have he been playing tennis?	/	0	0	4	4
			Have he playing tennis?	/	0	0	1	1
			Have he ever been to playing a tennis?	/	0	0	1	1
			Have he will playing tennis?	/	1	1	0	1
			Have will he playing tennis?	/	1	1	0	1
			Is he have been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Does he had playing tennis?	/	0	0	1	1
			Does he been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Does he have been playing tennis?	/	1	1	2	3
			Does he has been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Does not he has been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Will he have playing tennis?	/	7	7	0	7
			Will he have play tennis?	/	1	1	0	1
			Will have he playing tennis?	/	3	3	0	3
			Will he has playing tennis?	/	3	3	0	3
			Will he has been playing tennis?	/	1	1	0	1
			Have you playing tennis?	/	1	1	0	1
			Do you have been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Has	/	0	0	1	1
			無回答	/	5	5	3	8
合計	/	27	27	28	55			

完了進行形は文法としては最後の方で教えられる。テキストや文章の中でも使用頻度も低いと考えられる。そのため、調査用紙に載せた下のような公式のヒントがどれくらい利用できるかが、正解率を左右しているのではないだろうか。

< 公式 > 未来…will + 原形 進行形…be + ing 形 完了形…have + 過去分詞形 完了進行形…have + been + ing形
--

そしてその公式に当てはめるときに、主語がheであることを忘れて、haveをhasへと変換するところまで気がまわらないのであろうか。

この否定でも、He has been not playing tennis.や、He not has been playing tennis.とあり、notをつける位置が理解できていないことがわかる。

苦手な疑問文ゆえに、無回答が増えている。文頭がHaveなのかHasなのかがはっきりしない間違いが多い。また「現在」とあるからか、文頭がDoesの間違いが計6人いることが分かる。

(2) 完了形・過去

			誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
完了進行形	過去	30肯定	He had done playing tennis.	/	0	0	1	1
			He had playing tennis.	/	1	1	2	3
			He had been played tennis.	/	1	1	0	1
			He will had playing tennis.	/	7	7	0	7
			He will have played tennis.	/	1	1	0	1
			He will be had playing tennis.	/	1	1	0	1
			He would have playing tennis.	/	9	9	0	9
			He would had been played tennis.	/	1	1	0	1
			無回答	/	4	4	0	4
						合計	/	25
完了進行形	過去	31否定	He will not had playing tennis.	/	2	2	0	2
			He will had not playing tennis.	/	3	3	0	3
			He will had not play tennis.	/	1	1	0	1
			He would had been not played tennis.	/	1	1	0	1
			He won't have play tennis.	/	1	1	0	1
			He wouldn't have playing tennis.	/	9	9	0	9
			He hadn't been play tennis.	/	1	1	0	1
			He hadn't palying tennis.	/	1	1	2	3
			He had been not playing tennis.	/	0	0	4	4
			He had been playing tennis.	/	0	0	1	1
			He had not done playing tennis.	/	0	0	1	1
			He not had been playing tennis.	/	0	0	4	4
			He willn't had playing tennis.	/	1	1	0	1
			無回答	/	5	5	0	5
			合計	/	25	25	12	37
完了進行形	過去	32疑問	Had he is playing tennis?	/	0	0	2	2
			Had been he playing tennis?	/	0	0	4	4
			Had he was playing tennis?	/	0	0	1	1
			Had he playing tennis?	/	1	1	2	3
			Had he done playing tennis?	/	0	0	1	1
			Had he not been playing tennis?	/	0	0	1	1
			Had he ever been to playing a tennis?	/	0	0	1	1
			Had he played tennis?	/	0	0	1	1
			Had he been play tennis?	/	1	1	0	1
			Had he will playing tennis?	/	1	1	0	1

		Hadn't he been playing tennis?		0	0	1	1
		Did he been playing tennis?		0	0	1	1
		Did he have been playing tennis?		1	1	2	3
		Did not he has been playing tennis?		0	0	1	1
		Did he had been playing tennis?		0	0	2	2
		Does he had not playing tennis?		0	0	1	1
		Do you have not been playing tennis?		0	0	1	1
		Will he had playing tennis?		4	4	0	4
		Will he have play tennis?		1	1	0	1
		Will had he playing tennis?		1	1	0	1
		Would have he playing tennis?		1	1	0	1
		Would he has playing tennis?		1	1	0	1
		Would he have playing tennis?		5	5	0	5
		Would you had been playing tennis?		1	1	0	1
		Had been he not paying tennis?		0	0	1	1
		Have you playing tennis?		1	1	0	1
		Did he had		0	0	1	1
		無回答		8	8	3	11
		合計		27	27	27	54

「完了進行形・過去」「肯定」は、間違いの数が驚くほど少ない。順位も1位で、どの項目よりも間違いが少ないのである。完了進行形という文法名を聞いただけで、正答数が低そうに感じるが、その予想を完全に覆している。さらにこれが「過去」で、ここでもまた現在よりもおよそ10%正解率が上であり、過去の方が身につけやすいことが分かる。

「完了進行形・過去」「否定」は、「肯定」と比較すると、定着がよくないことが分かる。notの位置が分からないからである。しかし順位は22位で、「単純形・過去」が14位であることを考えると、やはり単純形の難しさがわかる。存在しない「左半丸」（「単純形・過去」の場合は助動詞DID）を自分で作り出さなければならないからである。その点、「完了形」は最初から「左半丸」が存在するのだから上記のような困難はない。

「完了進行形・過去」「疑問」は、文頭の「左半丸」がDid, Do, Does, Would, Willなどに多様化し、誤答数も多くなる。しかし「完了進行形・過去」「肯定」さえ正しく書くことができれば、あとは単に左半丸 (had) を文頭に移動すれば疑問文になるはずである。だから論理的思考力さえあれば「疑問文」も本来は難しくないのである。「否定文」も左半丸の後ろにNOTを置きさえすればよいのだから、「移動」という操作よりも楽である。

### (3) 完了進行形・未来

完了進行形	未来	33肯定	誤答例	東1	東3	東合	郡上	合計
			He will has been playing tennis.		1	1	9	10
			He will have been play tennis.		1	1	0	1
			He will have been played tennis.		1	1	0	1
			He will have playing tennis.		4	4	1	5
			He will have play tennis.		1	1	0	1
			He will have done playing tennis.		0	0	1	1
			He will have be playing tennis.		1	1	0	1
			He will had been playing tennis.		0	0	4	4
			He will had playing tennis.		0	0	1	1
			He will had played tennis.		0	0	1	1
			He will play tennis.		0	0	1	1
			He will been playing tennis.		0	0	1	1
			He will be have been playing tennis?		0	0	1	1
			He will will had playing tennis.		1	1	0	1
			He would have been playing tennis.		0	0	1	1
			He would has been playing tennis.		0	0	1	1
			He has will playing tennis.		0	0	1	1

			He having been playing tennis.		0	0	1	1			
			He will		1	1	0	1			
			He		1	1	0	1			
			無回答		11	11	0	11			
			合計		23	23	24	47			
完了進行形	未来	34否定	He will have been not playing tennis.		0	0	2	2			
			He will haven't been playing tennis.		0	0	7	7			
			He will haven't playing tennis.		1	1	1	2			
			He will hasn't been playing tennis.		0	0	1	1			
			He will not has been playing tennis.		0	0	9	9			
			He will not had been playing tennis.		0	0	1	1			
			He will not had play tennis.		0	0	1	1			
			He will not been playing tennis.		0	0	2	2			
			He will not have done playing tennis.		0	0	1	1			
			He will not have been played tennis.		0	0	1	1			
			He will not have playing tennis.		4	4	0	4			
			He will not be have been playing tennis.		0	0	1	1			
			He will will has not playing tennis.		1	1	0	1			
			He will has been not playing tennis.		1	1	1	2			
			He won't play tennis.		0	0	1	1			
			He won't have playing tennis.		0	0	1	1			
			He won't have play tennis.		1	1	0	1			
			He won't have been play tennis.		1	1	0	1			
			He won't had been playing tennis.		0	0	2	2			
			He won't had played tennis.		0	0	1	1			
			He wont not have been playing tennis.		0	0	1	1			
			He will hadn't been playing tennis.		0	0	1	1			
			He having not been playing tennis.		0	0	1	1			
			He has will not playing tennis.		0	0	1	1			
			He will		1	1	0	1			
			無回答		13	13	0	13			
						合計		23	23	37	60
			完了進行形	未来	35疑問	Will he play tennis?		0	0	1	1
						Will he not have been playing tennis?		0	0	1	1
						Will he been playing tennis?		0	0	3	3
Will he have been tennis?		0				0	1	1			
Will he have done playing tennis?		0				0	1	1			
Will he have playing tennis?		2				2	1	3			
Will he had been playing tennis?		0				0	2	2			
Will he ever been to playing a tennis?		0				0	1	1			
Will he had playing tennis?		0				0	1	1			
Will he had played tennis?		0				0	1	1			
Will he have play tennis?		2				2	0	2			
Will he haven't been playing tennis?		0				0	1	1			
Will he will has playing tennis?		1				1	0	1			
Will he has been playing tennis?		1				1	0	1			
Will he has been playing tennis?		0				0	6	6			
Will he has playing tennis?		1				1	0	1			
Will have he playing tennis?		1				1	1	2			
Will have he been playing tennis?		0				0	2	2			
Would not has been he playing tennis?		0				0	1	1			
Would have been he playing tennis?		0				0	2	2			
Won't he have been playing tennis?		0				0	1	1			
Have he been playing tennis?		0				0	1	1			
Have he will been playing tennis?		1				1	0	1			
Has he playing tennis?		0				0	1	1			
Has he will been playing tennis?		0				0	1	1			
Have he will been playing tennis?		0				0	2	2			
Having he been playing tennis?		0				0	1	1			
Did he had playing tennis?		0				0	1	1			
Have you been paly tennis?		1				1	0	1			
Will you have been playing tennis?		0				0	2	2			
playing tennis?		0	0	1	1						
無回答		15	15	4	19						
			合計		25	25	41	66			

「完了進行形・未来」は、「助動詞WILL+動詞原形」「HAVE動詞+過去分詞」「BE動詞+現在分詞」という三つの複合形を「足し算」(あるいは考え方によっては「掛け算」)しなければならない。したがって演算がそれまでと違ってさらに複雑になるので誤答数が増えることが予想される。

調査の結果は予想通りで、郡上高校だけを取ってみても、「肯定」→「否定」→「疑問」と進むにつれて、誤答数は「24」→「37」→「41」と確実に増加している。「will (would) と have (has, had) の形と位置について、理解出来ていないことが分かる。

誤答の多い順位でも、「完了進行形・未来・疑問」は、1位の「進行形・未来・疑問」、2位の「完了形・未来・疑問」に次ぐ、3位となっている。ここでも、He will has been playing tennis. He will not has been playing tennis. Will he has been playing tennis? などといった間違いが目立つ。

「肯定」ですでに「完了形」と「進行形」と「未来」と「否定」がごちゃごちゃになってしまっている。だから誤答文も多様になっていると考えられる。「肯定文」を正しく作ることが出来ていれば、誤答率は下がるわけだから、その出発を立て直す以外に誤答を減らす方法はないことが、ここでも確認できる。

しかし、ここで一つ驚かされたことは、「完了進行形の未来」では、調査用紙の公式が間違っていた東濃高校よりも、郡上高校の方が誤答率が高いことである。

東濃高校用の調査用紙での間違った公式	完了進行形 … <u>will + have + ing形</u>
郡上高校用の調査用紙での公式	完了進行形 … have + been + ing形

この「完了進行形・未来」は、「will+have+been+現在分詞」であるから、間違った公式の方が、未来をつくる時、「will +have」の部分と同じで、意外にも誤答率が下がったというのであろうか。しかし、「進行形・未来」「完了形・未来」の時点ですでに東濃高校よりも、郡上高校の方が誤答率が高いことを考えると、これは単なる偶然とも考えられない。

だとすれば、やはり考えられるのは郡上高校の方が進学熱が高いため英語を学習する時間が多いことである。学習時間が多いほど、多くの文法や難解な文章に出会っているはずである。被験者が学習の過程であってinputが多く、まだintakeが不十分なとき、それらの文法をきちんと整理できていないとすれば、理解のあいまいさがこのような多様な間違いにあらわれているのかもしれない。

つまり、きちんと理論的に整理されないまま丸暗記の学習を強制されると教育効果としては逆効果になる恐れがあるのかもしれないということである。同じ普通科高校なのに、いわゆる「底辺校」といわれる学校よりも、進学校といわれる学校の方が誤答率が高いというのは、英語教育のあり方に深刻な反省を迫る問題を提起しているのではないか。

それにしても、郡上高校での被験者数は79人。そのうち無回答が4人というのは大変少ない数である。途中で投げ出しそうになった生徒に声をかけてくださったに違いないし、難しくても疲れてきても最後まで解こうとする生徒の学習に対する意識の高さも伺え、日常の教師と生徒の関係や英語に対する学習意欲の高さが伝わってくる。しかし、だからこそ上記の誤答率が投げかける問題は、より深刻であるとも考えられる。

#### 6-1-5 A表のまとめ

A表の調査を高校生全体の被験者数で再度まとめると以下ような人数になる。



1～17	東濃高校1年・3年・郡上高校	138人
18～26	東濃高校3年・郡上高校3年	106人
27～35	郡上高校3年	75人

A表の調査を高校生全体で「間違いの少ない順」に並べてみると下記のような順になった。比較検討するのに便利のように、前章で紹介した「Krashenらの習得順序」「白畑による得順序」「A表による順序」を並べて示す。ただし、「Krashenらの習得順序」「白畑による得順序」では、動詞に関わらないものは除外して並べなおしてある。

<Krashenらの習得順序>		<白畑による習得順序>		<A表 間違いが少ない順>			
段階	項目	順	習得順序	順	項目		
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	30 完了進行形	過去	肯定
	be動詞 (連結)	2	進行形 (-ing)	2	9 進行形	現在	肯定
↓		4	be動詞 (助動詞)	3	18 完了形	過去	肯定
第2	be動詞 (助動詞)	6	一般動詞 (不規則過去)	4	12 進行形	過去	肯定
↓		8	三人称単数現在 (-s)	5	6 単純形	未来	肯定
第3	一般動詞 (不規則過去)	9	一般動詞 (規則過去)	6	3 単純形	過去	肯定
↓				7	7 単純形	未来	否定
第4	一般動詞 (規則過去)			8	19 完了形	過去	否定
	三人称単数現在 (-s)			9	27 完了進行形	現在	肯定
				10	8 単純形	未来	疑問
					10 進行形	現在	否定
					13 進行形	過去	否定
				13	15 完了形	現在	肯定
					31 完了進行形	過去	否定
				15	11 進行形	現在	疑問
					16 完了形	現在	否定
					28 完了進行形	現在	否定
				18	20 完了形	過去	疑問
				19	2 単純形	現在	疑問
					5 単純形	過去	疑問
				21	14 進行形	過去	疑問
				22	4 単純形	過去	否定
				23	17 完了形	現在	疑問
					21 完了形	未来	肯定
					33 完了進行形	未来	肯定
				26	24 進行形	未来	肯定
				27	1 単純形	現在	否定
				28	32 完了進行形	過去	疑問
				29	29 完了進行形	現在	疑問
				30	22 完了形	未来	否定
					34 完了進行形	未来	否定
				32	25 進行形	未来	否定
				33	35 完了進行形	未来	疑問
				34	23 完了形	未来	疑問
				35	26 進行形	未来	疑問

ここで調査したことから気づいたことを以下でメモ風にまとめてみる。詳しい全体的な考察は「中学生と高校生のまとめ」の章で改めて考察する。なぜなら、高校だけでなく中学での調査も加えると誤答率の順序に違いが出て、全体の考察にも違いが出てくる可能性があるからである。

### 1) 習得順序の比較

間違いの少ない順が「習得順序」にほぼ匹敵するとすれば、A表では「完了進行形」（「過去・肯定」）および「進行形」（「現在・肯定」）が、間違いの少ない順で上位にきているので、確かにKrashenら



や白畑と同じような結果になったとも言える。

ただし「進行形」の順位が高いのは「肯定」のみなので、必ずしも「進行形」全体の順位が良いとは限らない。特に「進行形・未来」は、この表では最下位にきているので、特に定着が悪いと言えそうである。

Krashenらや白畑の調査では、一般動詞（規則過去）が下位にきているが、自分の調査では「未来」が下位にあり、他方、「過去」が上位に多く入っているから、「過去」が一概に苦手とは言い切れないようだ。したがって、Krashenらや白畑の結果と順序が合わない。この違いが何を意味するのかは今後の研究課題である。

また、「単純形・現在」「単純形・過去」の「否定」と「疑問」を比べると、どちらも「否定」の方が「疑問」よりも誤答人数が多い。しかし、「単純形・未来」を含めて、「複合形」をつくるものは、「否定」よりも「疑問」の方が誤答数が多くなっている。

## 2) 現在と「三単現」

問題8（単純形・未来・疑問）までは「三単現のS」をつける間違いがある。「単純形」と書かれていることによって、その枠内は全て「三単現のS」をつけなければならないと考えた生徒もいるのかもしれない。

問題11・17・29番はそれぞれ現在の疑問文である。現在の方が過去よりも定着しづらいことがはっきりと分かる。したがって「現在」から始まる教科書は必ずしも易しくないのである。教科書の構成を再検討する必要があるだろう。

## 2) 「進行形」と「未来」

「進行形」「完了形」「完了進行形」のいずれにおいても、「未来」の誤答数が上がっている。「現在」や「過去」に比べて、「未来」は教科書などに載っている量が少なく、英作文などでもあまり表現しないことが多いからではないだろうか。日常（通常授業）で、「未来」に接する頻度の違いが、この数値に表れているのではないだろうか。

しかし、よく考えてみると、単に教科書における頻度が少ないという理由だけでなく、そもそも「未来」を表す形は「助動詞WILL+動詞原形」という「複合形」を成し、しかも「原形」という考え方になじみが薄いため、なおさら誤答数が多くなるのではないか。

「完了進行形」は全体的に数値が上がっているが、これも「完了進行形」の文に接する頻度の違いだけではなく、「完了形」と「進行形」という二つの「複合形」を「足し算」または「掛け算」しないと「完了進行形」が作れないから、誤答が自然と多くなる。

また「未来」の文では、playにingをつけた間違いが多い。未来でwillではなくbe going to という表現を使うこともあるため、そのgoingと進行形の～ingを混同しているものと考えられる。また「進行形」の全ての問題にこの間違いが見られることから、「進行形→～ing」という意識がよく定着していることがわかる。

本論文の第1章でKrashenや白畑が進行形の習得順序が早いと提唱していることを紹介したが、そのことを実証する結果になっていると言える。しかし、他方で「進行形」の「否定」や「疑問」は誤答数が多いので、単に現在分詞「～ing」という部分のみの定着が良いだけであって、「進行形=BE動詞+現在分詞」という形式が正しく認識されているわけではない。

## 3) 「否定」と「疑問」

誤答率を見ると、単純形であっても否定文や疑問文では数値が上がる。特に「単純形・現在・否定」は中学校1年生の1学期に習う文法であるが、33%（高校生のおよそ3人に1人）は、He doesn't play tennis. が正しく書けないという事実が分かる。

また疑問文も苦手である。とすれば、会話での表現力も乏しいものと思われる。会話は常に疑問文とその答えの連続からなるからである。肯定文の語尾を上げて発音すれば疑問文のようになり、とり

あえずその場の会話は成立するが、常にそのようなその場しのぎの文では会話は難しい。

近年の中学校の教科書は会話文が多く取り入れられている。また高校でもオーラルコミュニケーションの授業があり、それ以前の英語教育に比べれば「話す」力が伸びていても当然のはずである。しかし、この結果を見る限りでは、その効果を実感できるとは言い難い。

また面白いことに、疑問文では、heではなくてyouを主語にする間違いが少なくない。授業や読み物（本文など）で疑問が扱われる場合、Do you～?, Will you～?のように、youを主語にした文章が多いからではないか。

つまり、耳からや目からのyouを使ったinputが多いために、このような間違いが多くなったのではないかと考えられる。教科書に会話文ばかりがあふれてきていることに、その一因があるのかも知れない。だとすれば会話一辺倒の教科書も再考されなければならないだろう。

「否定文」での間違いを見ていると、notをどこにつけていいのかがきちんと理解できていないということが分かる。また「疑問文」ではbe動詞が文頭にくるのか、Do (Does, Did) やHave (Has) が文頭にくるのかが理解できていない。

したがって、否定や疑問の正解率を上げるには、否定でのnotの位置と疑問で文頭にくる語の理解を高める必要があり、英語教師としてこの点にもう少し時間をかけて指導をすべきであることがわかる。ここに「記号づけ」「半丸記号」を教えることの重要性が再認識される。

しかし、否定や疑問を作るときにはそれぞれ一定の手順・規則性があり「簡単であるはず」という教師側の思い込みが、授業における指導の手抜きに繋がっているのではないか。もっと誤答の内容・種類から生徒の思考様式を知る必要があろう。

#### 4) その他

有名大学への進学率が高い高校や、工業・農業などの職業科がある高校など、幅を広げていくと、数値に多少の変動があるかもしれないが、また英語の授業で扱う教科書や時数に違いがあるのかもしれないが、東濃高校と郡上高校における調査で、一般的に「高校生」という範囲での数値が採れたと考えている。

郡上高校は無回答が少なく、最後まできちんと取り組める生徒が多いことがわかる。35問をひたすら解いていくには、時間も集中力も必要である。ましてや自分の成績に関係ないこととなれば、モチベーションも下がるはずである。にもかかわらず、丁寧な字で最後まで書くことができていた。担当してくださった教諭の導入の上手さや、途中で投げ出しそうになる生徒に励ましの声をかけてくださったことがわかり、大変感謝している。

しかし他方で、同じ普通科高校なのに、いわゆる「底辺校」といわれる学校よりも、進学校といわれる学校の方が誤答率が高いという事実には衝撃を受けた。これは、英語教育のあり方に深刻な反省を迫る問題を提起しているのではないか。

### 6-2 高校生B表の結果

#### 6-2-1 誤答数と誤答率

A表と同じように、Bについても東濃高等学校と郡上高等学校とで合計を出してみた。B表は東濃高等学校も郡上高等学校も同じ調査用紙を使用しているため、被験者数は138人である。調査用紙は既に前章でも紹介したが、次のようなものであった。

B表

高校生用 問題：下の表のそれぞれ肯定文には空欄があります。その空欄に適切な言葉を下のヒントを参考にして補いなさい。

ヒント every day, tomorrow, yesterday, then, now, already, yet

		肯定 (ピリオドで終わる文)	否定 (notがある文)	疑問 (文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis _____.	He doesn't play tennis.	Does he play tennis?
	過去	He palyed tennis _____.	He didn't play tennis.	Did he play tennis?
	未来	He will play tennis _____.	He will not play tennis.	Will he play tennis?
進行形	現在	He is playing tennis _____.	He isn't playing tennis.	Is he playing tennis?
	過去	He was playing tennis _____.	He wasn't playing tennis.	Was he playing tennis?
完了形	現在	He has _____ played tennis.	He hasn't played tennis.	Has he played tennis?

Class No. Name \_\_\_\_\_

郡上高校では、ヒントに載せていない言葉を使っている。例えば「単純形・過去」でlast night, 「完了形・現在」でbeenである。

ヒントにはlast nightを載せていないが正解である。よってこれを誤答扱いしなければ、「単純形・過去」の誤答数は8人となり、「単純形・未来」も6位となる。

Bの調査用紙の問題文には、「下の表のそれぞれ肯定文には空欄があります。その空欄に適切な言葉を下のヒントを参考にして補いなさい」とあり、「ヒントから選びなさい」とは書いていないが、今回は稀なケースであったため、誤答に加えることにした。

そして後でデータをまとめやすいように、下のように回答欄に(ア~カ)の記号をつけた。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis <u>ア</u> .	/	/
	過去	He played tennis <u>イ</u> .		
	未来	He will play tennis <u>ウ</u> .		
進行形	現在	He is playing tennis <u>エ</u> .		
	過去	He was playing tennis <u>オ</u> .		
完了形	現在	He has <u>カ</u> played tennis.		

それぞれ視点を変えながら調査結果を数値化し、表にあらわしてみたのが以下のものである。

誤答者数と誤答率①

	被験者	単純形						進行形				完了形	
		現在		過去		未来		現在		過去		現在	
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ						
東濃1年	32人	14人	44%	2人	6%	2人	6%	15人	47%	17人	53%	4人	13%
東濃3年	27人	5	19	2	7	1	3	5	19	8	30	4	15
郡上高校	79人	7	9	5	6	5	6	6	8	13	16	10	13
合計	138人	26人	19%	9人	7%	7人	6%	26人	19%	38人	28%	18人	13%

誤答者数と誤答率②

		人数	%	順位
単純形	ア現在	26人	19%	2位
	イ過去	9	7	5位
	ウ未来	7	6	6位
進行形	エ現在	26	19	2位
	オ過去	38	28	1位
完了形	カ現在	18	13	4位

6-2-2 誤答例と誤答数の考察

1) 単純形

項目		誤答	東1	東3	郡上	合計
単純形	ア現在	now	11	5	3	19
		yet	1	0	1	2
		then	1	0	0	1
		every dey	0	0	1	1
		in every	0	0	1	1
		dayever day	0	0	1	1
		無回答	1	0	0	1
		合計	14	5	8	26
単純形	イ過去	tomorrow	1	0	3	4
		then	0	2	0	2
		last night(これを間違いとするか?)	0	0	1	1
		in yesterday	0	0	1	1
		無回答	1	0	0	1
		合計	2	2	5	9
単純形	ウ未来	yesterday	1	0	2	3
		already	0	1	1	2
		in tomorrow	0	0	1	1
		tommorow	0	0	1	1
		合計	1	1	5	7

まず第一に「現在」は、「今」その時（のみ）を表現するものではない。現在が表すものについて、『英語にとって文法とは何か』から引用する。

①動詞の現在（とりわけ動作動詞の現在）は、「現在」の動作を示してはいない。なぜならいま進行中の動作を示すのは現在進行形であって現在は「習慣」や「真理」を表すからである。（p.127）

<NOTE 1> このことから動詞の単純形というのは、進行形や完了形のような複合形と比べて意味が単純というわけではないということがわかる。とりわけ現在というのは「習慣」「真理」「劇的現在」「未来」など多様な意味を表す。それに比べて過去の示す意味は過去時における「事実（習慣も含めて）」「状態」にほぼ限られている。（p.163）

「現在」とは、現在進行形が表す相と変わりがないというイメージを持っている生徒が多い。中学校1年生で現在進行形を習うが、その時に現在と現在進行形との違いを徹底的に説明する教師は少ないのではないだろうか。英語を習い始めたばかりの生徒にとって、そこまで理解して使い分けなければならない問題や文章は出てこないからである。

中学校1年生の教科書では、現在が使われている本文を見ると、登場人物の普段の生活の様子や、身の回りのことを伝えている。現在進行形では挿し絵の登場人物が何かしらの動作をしており、それを描写している。ただし挿し絵はそれまでの現在でも登場人物は動いている様子が描かれているので、挿し絵だけでは区別をすることができない。こうして現在と現在進行形との違いをきちんと教えないまま、この文法の授業は過ぎていくことが多い。あるいはそもそも「単純形現在」を単純化してしまっ「現在」と表記して教えていることに間違いの根源がある。ここにこの項目の誤答率が高い原因があると思われる。

第2に「過去」での間違いでtomorrowが一番多い。郡上高校に3人もいるのが不思議である。yesterdayとの判断ミスではないだろうか。thenは「その時」という訳になるため、過去を表すことが分かるが、thenを用いると「その時点では」というニュアンスが強いために、過去進行形で用いるほうが、より適切である。

第3に「未来」であるが、上記の「過去」とは逆にyesterdayを選んでる生徒が郡上高校に2人もいる。これも不思議である。東濃高校よりも学力が高い学校だと思っていたのに、誤答率が高いの

は、「進行形・未来」「完了形・未来」でも同じだっただけに偶然とは思えない。yesterdayを、tomorrowと単純に覚え間違いをしているのだろうか。

なお、tomorrow (スペリングミス1人) は、tomorrowが答えとなることが分かっているにもかかわらず間違えてしまったケースだと考えると、この「ウ」の誤答者数はかなり低い。このB表では他には未来時制は無いので、tomorrowは分かりやすかったのかもしれない。いずれにしても、「単純形・現在」における誤答数がいちばん多いことは歴然としている。

## 2) 進行形

項目		誤答	東1	東3	郡上	合計
進行形	エ現在	every day	10	4	3	17
		already	1	0	0	1
		yet	2	0	2	4
		then	1	1	0	2
		not (nowのつもりか?)	0	0	1	1
		無回答	1	0	0	1
		合計	15	5	6	26
進行形	オ過去	yet	11	5	1	17
		them (thenのつもりか?)	1			1
		then now	1			1
		every day	2		1	3
		now	1		1	2
		yesterday		1	4	5
		already		1	1	2
		ten (thenのつもりか?)		1		1
		them (thenのつもりか?)			1	1
		tomorrow			3	3
		無回答	1		1	2
		合計	17	8	13	38

第1に「進行形・現在」であるが、every dayを書いた生徒が一番多かった。このevery dayをあてはめ和訳してみるとHe is playing tennis every day.「彼は毎日テニスをしている。」となり、なんとなく違和感が無いように思われる。やはり現在進行形が「未完了」の動作をとらえた表現であるという概念が定着してないために、このような解答をしてしまうのであろう。

本論文の調査で、ALT (英語指導助手) が、every dayで複数回答が可能であるのは、ア (単純形・現在)、イ (単純形・過去)、ウ (単純形・未来)、オ (進行形・過去) であると言っている。このように、複数回答が可能であるとネイティブが言っている中にも「進行形・現在」は含まれていない。

したがって、every dayをここで書いてしまった17人もの生徒には、きちんと現在進行形の使われるべき状況、進行形の「意味」を正しく理解させなければならないだろう。

第2に「進行形・過去」であるが、ALTは複数回答可能なものとして、thenのほかにyesterdayも間違いではないと言っている。He was playing yesterday.「彼は昨日テニスをしていた」は、確かに間違いではないかも知れない。しかし今回のこの調査で知りたかった学力とは、他の空欄もにらんだ上で最もふさわしいものを選ばせているので、今回はyesterdayも誤答に入れた。

yetは「まだ～」という訳をすると教え込まれているから、He was playing tennis yet.を「彼はまだテニスをしていました」と訳せると考えたのだろう。さらにヒントの数が、回答欄の数よりも一つ多いために、このyetをどこに入れたものかと迷わせてしまったに違いないので、このような間違いを多く生んでしまったともいえる。



## 3) 完了形

項目		誤答	東1	東3	郡上	合計
完了形	カ現在	then	1	0	1	2
		now	1	0	0	1
		every day	1	0	1	2
		yet	0	2	4	6
		yesterday	0	1	0	1
		ever	0	0	1	1
		already yet	0	0	1	1
		alredy (スペルミス)	0	0	1	1
		been	0	0	1	1
		無回答	1	1	0	2
		合計	4	4	10	18

この項目で一番多い誤答はyetである。このB表を作成したとき、本当はもっと多くの語彙のなかから選んで答えさせるようにしようと思っていた。しかし、もっとシンプルな調査にしようと考え直したため、ヒントに載せる語彙も厳選しようとした。この中途半端な意向で残ってしまったyetのために、回答欄が6つしかないのに7つのヒントがあり、複数回答をさせてしまうなどの混乱を招いてしまった。

しかしながらyetは否定文で「まだ～していない」という訳になることが多い。だから「完了」「肯定」でyetを用いることはできないのであるが、yetはalreadyやeverなどと一緒に現在完了形を習うときに導入される単語であるから、yetを入れると日本語訳がおかしいと気づいていても、そのあいまいな記憶をたよりに、つい入れてしまったのかも知れない。

## 6-2-3 B表のまとめ

## 1) 進行形について

誤答率では、「進行形・過去」が1位、「進行形・現在」が2位をとっている。中学校で習ってきた短い文章に、正しく副詞をつけることができない高校生が何人かいる。特に「進行形・過去」の誤答率が28%であり、この数は「高校生の4人に1人は間違えている」という結果である。

前述のA表で見てきたように、進行形は肯定であれば、定着が良いことが分かっている。にもかかわらず、He is playing tennis.にnowを、He was playing tennis.にthenをつけることが一番正解率が悪いとは驚くべき事実である。be+～ingの形は分かっている、副詞をつけることはまた別の問題であるらしい。つまり「形式」は分かっている「内容」「意味」が分かっているということである。

## 2) 単純形について

この調査では「単純形・現在」も、「進行形・現在」と同じく、誤答率2位であった。A表で単純形の定着が良くないことは分かっていたが、まさか2位とは思わなかった。A表では基本文となるHe plays tennis.は最初から調査用紙に書いてあるために、被験者に書かせていない。しかしこの結果を見ると、もしこのHe plays tennis.から書かせていたら、「単純形・現在・肯定」の結果はどうなっていたらと思う。と思う。

しかしながら、「単純形・未来」だけはA表でもB表でも誤答率が低かった。特にB表では、一番低いことが分かる。willという助動詞が「左半丸」として最初から明示されているので、それを使えば、その後の動詞は全く変化させなくても「否定」「疑問」は作れるから間違いにくくなると思われる。

## 3) 副詞を教える難しさと重要さ

この調査（A表とB表どちらとも）を自分が教えている中学校で行い、その後で解説をしながら答え合わせをする場面を想定すると、A表よりもB表のほうが説明をするのが難しい。なぜなら、A表

は文法の形（語順や動詞の形）について教えればよいが、B表はそれぞれの文がどのような状況の中で使われるものなのかを設定する必要があるからである。

つまり頭の中でストーリーを描かなければならない。そのストーリーや状況を生徒と共有した上で始めて、各々の「時制」や「相」の用法を説明することができるのである。しかし、前後の文章が無い、このような単文ではそれが難しい。きちんとそれぞれの文章が使われる状況設定をよく生徒に説明しなければならない。

大抵の英語教師が「進行形」「完了形」を説明するときに、黒板とチョークで時間の流れを表す線を書き、その線や線上にとった点（現在・過去・未来）で、分からせようとする。しかしすべての生徒がその説明の仕方理解できるのだろうか。

場面を理解させることができたとしても、中学生に（例えば）現在と現在進行形との違いを説明するのは、かなり分かりやすい状況設定をしなければならない。さらに難しい文法用語を避けなければならない。こうして単なる答え合わせではなくて、それぞれの文の使われ方をきちんと把握させるには、とても労力と能力が必要である。

文法を教えるときは語順や動詞の形に気を取られがちで、そこが正しく書けさえすれば、それで教師は満足してしまう。しかし文法を教えるときの文章に副詞もつけ加えて提示しなければ、生徒は本来その文法が持つ意味を正しく使いこなすことが出来るようにはならないのである。生徒全員に副詞をスムーズに理解させることができるかどうか、英語教師としての腕の見せ所となるのかもしれないと思った。

## 7. 中学生と高校生のまとめ

これまでの中学校での調査と高等学校での調査を比較して、中高生の傾向としてまとめてみようと思う。

ただし中学校は1校、高等学校は2校での調査である。この3校の合計、273人分の結果すべてが一概に中学校と高等学校の傾向であるとは言い難いかもしれない。

しかし言語習得論の専門書を読んでも、これほどの被験者数はなかなか見られないため、多少は信憑性は高いのではないかと思っている。

### 7-1 A表の結果

梅林中学生と東濃高等学校1年生がA-a表を、東濃高等学校3年生と郡上高等学校3年生がA-b表で調査した。

< A-a表 (中学生・東濃高等学校1年生用) >

問題：He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。				
未来形	will+原型			
進行形	be動詞+ing形			
完了形	have(has)+過去分詞形			
		原形	過去形	過去分詞形
		play	played	played
				ing形
				playing
		肯定（ピリオドで終わる文）	否定（notがある文）	疑問（文の最後に？がある）
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
完了形	現在			
Class No. Name _____				



< A-b表（東濃高等学校3年生・郡上高等学校3年生用）>

※このまとめでは、          の部分の解答の数値を使っている。

問題：He plays tennis. を、それぞれ指示にしたがって書き換えましょう。				
	未来形	will+原型		
	進行形	be動詞+ing形	原形	過去形
	完了形	have(has)+過去分詞形	play	played
			過去分詞形	ing形
			played	playing
		肯定（ピリオドで終わる文）	否定（notがある文）	疑問（文の最後に？がある）
単純形	現在	He plays tennis.		
	過去			
	未来			
進行形	現在			
	過去			
	未来			
完了形	現在			
	過去			
	未来			
完了進行形	現在			
	過去			
	未来			
Class    No.    Name _____				

### 7-1-1 A表の回答欄の番号

A表の①～⑱はすべての被験者に調査している。東濃高校3年生と郡上高校3年生に調査した18～35番はこの章では扱わないため、載せていない。

		肯定	否定	疑問
単純形	現在	He plays tennis.	①	②
	過去	③	④	⑤
	未来	⑥	⑦	⑧
進行形	現在	⑨	⑩	⑪
	過去	⑫	⑬	⑭
完了形	現在	⑮	⑯	⑰

### 7-1-2 誤答数と誤答率

以下、誤答数と誤答率を以下に示す。ただし「誤答数2」は、「誤答数1」から「無回答人数」を引いたものである。網掛けは、数値の大きい方につけてある。

番号・項目名	中学生 135人				高校生 138人			
	誤答数1	誤答率1	誤答数2	誤答率2	誤答数1	誤答率1	誤答数2	誤答率2
①単純形・現在・否定	44人	33%	34人	27%	46人	33%	46人	33%
②単純形・現在・疑問	32	24	16	13	30	22	30	22
③単純形・過去・肯定	6	4	4	3	13	9	12	9
④単純形・過去・否定	47	35	36	29	37	27	35	26
⑤単純形・過去・疑問	35	26	18	15	31	22	29	21
⑥単純形・未来・肯定	15	11	10	8	11	8	11	8
⑦単純形・未来・否定	32	24	18	15	15	11	13	10
⑧単純形・未来・疑問	32	24	13	11	20	14	16	12
⑨進行形・現在・肯定	25	19	15	12	8	6	8	6
⑩進行形・現在・否定	33	24	17	14	19	14	17	13
⑪進行形・現在・疑問	35	26	16	14	28	20	24	18
⑫進行形・過去・肯定	24	18	14	11	10	7	6	4
⑬進行形・過去・否定	33	24	17	14	20	14	15	11
⑭進行形・過去・疑問	39	29	18	16	35	25	30	23
⑮完了形・現在・肯定	20	15	9	7	21	15	21	15
⑯完了形・現在・否定	33	24	16	14	28	20	27	20
⑰完了形・現在・疑問	30	22	10	9	41	30	41	30
平均誤答数と誤答率	30人	22%	17人	14%	24人	17%	22人	17%

先にも述べたように、「誤答数2」は、「誤答数1」から「無回答人数」を引いたものである。たとえば、中学校項目①の場合、44人-10人=34人となり、誤答数1-無回答人数=34人と表記される。

同じく「誤答率2」は、被験者数から無回答人数を引いた人数を使用して算出したものである。たとえば、中学校項目①の場合、34人 ÷ (135人-10人) × 100 = 誤答率27となり、誤答人数2 ÷ (被験者-無回答人数) × 100 = 27%と表記される。

この表は当初、「誤答数2」と「誤答率2」の項目を作っていなかったが、この項目を加えてみたくなった。というのも、中学生は無回答人数が多く、一番多いもので21人(項目⑭)いる。中学生は高校生(大学への進学ができる普通科高校)に比べると、集中力が足りない生徒が多く、また学力の差も大きい。

無回答とした生徒は学力が低いからなのか、無気力から調査に向かえないのか、原因が特定できない。だから中学生も高校生も無回答人数を含まない数値で見れば、また違った発見があるのではないか、と思ったからである。

「誤答率1」では中学生の方が圧倒的に数値が高い項目が多いが、無回答人数を引いた「誤答率2」では高等学校の方が数値が高い項目が多くなった。

中学校の被験者は135人、高等学校の被験者は138人と、ほぼ同数である。中学校はもっとも一般的な(実力テストの出来映えは、市内では平均より少し下であるが)公立の学校である。だから誤答数は比較しやすいと思われる。

高校生は、肯定文とその他(否定文と疑問文)の数値の差がはっきりしているが、中学生は肯定文が必ずしも数値が低いとは言い難い。中学生は否定文が苦手な傾向があるが、高校生は疑問文が苦手な傾向があるようだ。

以下、項目ごとに見ていこうと思う。

### 7-1-3 誤答例のまとめ

#### 1) 単純形

##### (1) 単純形・現在

単純形	現在		中学生	高校生		
単純形	現在	①否定	He doesn't plays tennis.	4	6	
			He don't play tennis.	6	7	
			He isn't play tennis.	0	7	
			He is not plays tennis.	3	2	
			He don't plays tennis.	2	3	
			He doesn't play tennis.	0	1	
			He not play tennis.	3	5	
			He not plays tennis.	14	14	
			He plays not tennis.	0	1	
			He doesn't play tennis.	1	0	
			He doesn't play tennis.	1	0	
			無回答	10	0	
			合計	44	46	
			②疑問	Is he play tennis?	0	6
				He plays tennis?	1	1
		Does you play tennis?		0	1	
		Does he plays tennis?		9	10	
		Dose he play tennis?		0	1	
		Is he plays tennis?		1	7	
		Do he play tennis?		0	1	
		Do he plays tennis?		0	1	
		Do you play tennis?		0	2	
		Do you plays tennis?		1	0	
		Does he playes tennis?		1	0	
		Has he play tennis?		1	0	
		Do you he play tennis?	1	0		
		Does he played tennis?	1	0		
無回答	16	0				
合計	32	30				

中学生の無回答人数を引くと、誤答数は34人である。圧倒的に高校生の方が間違えている。なかでもHe isn't play tennis.という間違いは7人いて、中学生では1人もいない。be動詞を用いてしまった同じような間違いに、He is not plays tennis.がある。これは中学生3人、高校生2人である。p laysの三単現のsを取る段階でdoesを用いなければならないという発想が無いのは、高校生に多いということなのであろうか。

中学生の無回答人数を引くと、誤答数は16人となり、高校生の誤答数はその倍ほどいることになる。Do he play tennis?, Do he plays tennis?はそれぞれ高校生にひとりずつ、Is he play tennis?は6人、Is he plays tennis?にいたっては7人もいる。中学生の方がheを三人称と捉え、doesを正しく使えているということではないだろうか。

しかし、いずれにしても「否定」で、He not plays tennis.という誤答が中学・高校の双方で最も多いという事実は極めて興味深い。というのは、母語話者でも否定文は否定辞を文頭や述語動詞の前に置くことから言語習得が始まるからである。

(2) 単純形・過去

単純形	過去		中学生	高校生	
		③肯定	He was played tennis.	3	1
			He was plays tennis.	0	1
			He was play tennis.	0	4
			He plaided tennis.	0	1
			He did play tennis.	0	4
			He pleyed tennis.	0	1
			Did play tennis?	1	0
			無回答	2	1
		合計	6	13	
		④否定	He doesn't play tennis.	2	2
			He does not plays tennis.	0	1
			He doesn't played tennis.	2	2
			He not played tennis.	14	11
			He wasn't plays tennis.	0	2
			He wasn't play tennis.	3	8
			He wasn't played tennis.	1	2
			He played not tennis.	0	1
			He is not played tennis.	1	1
			He didn't played tennis.	7	2
			He didn't plays tennis.	1	2
			He don't played tennis.	0	1
			He don't play tennis.	1	0
			Heのみ	1	0
			He din't play tennis.	1	0
			He dosn't play tennis.	1	0
			Did not play tennis.	1	0
			無回答	11	2
			合計	47	37
		⑤疑問	Does he play tennis?	2	2
			Does he plays tennis?	0	1
			Does he not played tennis?	0	1
			Did you play tennis?	0	2
			Does he played tennis?	6	5
			Was he play tennis?	2	4
			Was he plays tennis?	0	1
			Was he played tennis?	0	1
			Do he played tennis?	0	1
			Is he played tennis?	0	1
			Did he plays tennis?	1	2
			Did he played tennis?	5	6
			Dib he play tennis?	0	1
			Do you played tennis?	0	1
			He played tennis?	1	0
			Does you he played tennis?	1	0
		無回答	17	2	
		合計	35	31	

中学生・高校生それぞれの無回答人数を引くと、高校生の誤答数はおよそ中学生の3倍になる。He was played tennis.のように、動詞にedをつけるという感覚が中学生にはあるが、高校生はHe was play tennis. (4人) やHe did play tennis. (4人) のように、edをつけるという基本的なことを忘れてるように思われる。

しかし、これは考えようによっては「正しい間違い」というべきである。なぜなら助動詞BEやDOを過去形にして本動詞の前につければ、基本的には正しく意味を表示できるからである。日本語でも同じことをしている。「行く」という動詞に助動詞「た」をつけて「行った」と表記しているのであり、「行く」という動詞が屈折語尾をした結果として「行った」が生まれているわけではないからである。

しかも中学生のHe was played tennis.の場合は、wasで過去の表示をしているにもかかわらず、playedのように、接尾辞～edをつけることにより、二重の過去表示になり、エネルギーの無駄遣いとも言える。それに反して高校生の場合、He was play tennis.やHe did play tennis.という表示は、wasやdidという助動詞の後の本動詞は「原形」となっている。だから「正しい間違い」というべきではないか。また、was playedでは、受身形になってしまう。

無回答人数をそれぞれ引くと、中学生36人、高校生35人でほぼ同数である。共通して間違いが多いのはHe not played tennis. で、それぞれ中学生14人、高校生11人である。先にも「肯定」の項でも述べたことだが、これは母語話者の場合でも「否定文」をつくる時の出発点に当たる間違いである。その意味でも非常に興味深い事実である。

ところで、He didn't played tennis.は中学生の方が数が多く(中7人、高2人)、He wasn't play tennis.は高校生の方が数が多い(中3人、高8人)。過去形の否定文でdidn'tを用いることが出来ている中学生の方が、wasn'tをつけた高校生よりも正答に近いのではないだろうか。しかし考え方によっては、上で述べたように、これも「正しい間違い」というべきではないだろうか。助動詞wasの後を動詞原形playにしているのだから。

無回答人数をそれぞれ引くと、中学生18人、高校生29人である。無回答を除けば、ここでも高校生の誤答数が多くなっている。共通して間違いが多いのはDoes he played tennis?, Did he played tennis?である。また高校生はbe動詞のwas を用いてしまった間違いも目立つ。

### (3) 単純形・未来

単純形	未来		中学生	高校生	
	⑥肯定	He plays tennis.	0	1	
		He playing tennis.	0	1	
		He will plays tennis.	7	7	
		He will played tennis.	0	1	
		Will he play tennis.	0	1	
		Will play tennis.	1	0	
		He going to play tennis.	1	0	
		He will playing tennis.	1	0	
		無回答	5	0	
		合計	15	11	
		⑦否定	He is not going to tennis.	0	1
			He will do not play tennis.	0	1
	He will not plays tennis.		3	5	
	He won't plays tennis.		0	1	
	He not will play tennis?		0	1	
	He not playing tennis.		0	1	
	Will doesn't play tennis.		0	1	
	He willn't plays tennis.		1	1	
	He wont not play tennis.	0	1		

		He will not playing tennis.	1	0
		He willn't play tennis.	3	0
		He won't playing tennis.	1	0
		He will not ～. のみ	1	0
		Heのみ	2	0
		Will not play tennis.	1	0
		He not will plays tennis.	1	0
		He wsn't play tennis.	1	0
		He wont play tennis.	1	0
		He will tot play tennis.	1	0
		He wan't play tennis.	1	0
		無回答	14	2
		合計	32	15
	⑧疑問	Is he will plays tennis?	0	1
		Will he do play tennis?	0	1
		Will he plays tennis?	4	8
		Does will play tennis?	0	1
		Does he will play tennis?	2	1
		Does he pleying tennis?	0	1
		Did he play tennis?	0	1
		Will you play tennis?	1	2
		Is he going to playing tennis?	2	0
		Will he ～? のみ	1	0
		Will he playing tennis?	1	0
		He will play tennis?	1	0
		Will you plays tennis.	1	0
		無回答	19	4
		合計	32	20

まず「肯定」であるが、無回答人数を引くと、ほぼ同数である。共通して多い間違いはHe will plays tennis.である。それに対応して「否定」「疑問」は、He will not plays tennis. Will he plays tennis?という誤答が多くなる。

「単純形・過去」のときは、三単現のSをつける間違いはほとんどなく、過去と三単現Sの区別ははっきりとつけることができるのに対して、助動詞willのあとは動詞の原形であることは忘れがちであることがわかる。「原形」という概念を教えることの大切さがよく分かる。

次に、「否定」であるが、無回答人数をそれぞれ引くと、中学生18人、高校生は13人となり、中学生の方が間違い数が多い。特に「否定」における誤答が多様化している。その中身を見てみると、will notの短縮形won't が正しく書けない間違いがたくさんある。

中学生のスペリングミスは8人もいる。しかし高校生はスペリングミスよりも、このplay前後の文法の間違いがあり、スペリングミスよりも気になる。

最後に、「疑問」であるが、無回答人数をそれぞれ引くと、中学生が13人、高校生は16人である。ここでも三単現のSをつけたままの間違いが一番多く、高校生の方がその間違いの数が多い。また高校生の方が文頭をwillではなくDoesなどにする傾向があるようだ。

これは高校生になっても未来を表す助動詞としてWILLを使うということが十分に認識されていないことを示す。中学生よりも文法力が退化していることになり、事態は非常に深刻だと思うがどうであろうか。

2) 進行形

(1) 進行形・現在

進行形	現在		中学生	高校生	
		⑨肯定	He does playing tennis.	0	1
			He playing tennis.	11	7
			He is going to play tennis.	3	0
			Is play tennis.	1	0
			無回答	10	0
			合計	25	8
		⑩否定	He isn't play tennis.	1	3
			He don't playing tennis.	2	3
			He not playing tennis.	6	4
			He doesn't playing tennis.	3	6
			He is notting play tennis.	0	1
			He isn't going to play tennis.	3	0
			Is not playing tennis?	1	0
			He's not ~.のみ	1	0
			無回答	16	2
			合計	33	19
		⑪疑問	Do he playing tennis?	0	1
			Is he not playing tennis?	0	1
			Is he play tennis?	0	1
			Does he playing tennis?	8	16
			Does not he playing tennis?	0	1
			Dose he is playing tennis?	0	3
			Do you isn't playing tennis?	0	1
			Was he playing tennis?	1	0
			Is he going to play tennis?	3	0
			Does he is playing tennis?	1	0
			He playing tennis?	1	0
			Do you playing tennis?	1	0
			Was he ~?のみ	1	0
			無回答	19	4
			合計	35	28

まず「現在」であるが、He playing tennis.というbe動詞が無い間違いが多い。またHe is going to play tennis.のように、未来willのbe going to~との区別がつかない間違いが見られる。高校生にはそのような間違いが少ない。高校生になると進行形とbe going to~との区別がきちんとできるようになっていることが分かる。

無回答人数を引くと、中学生は15人となり、高校生のおよそ2倍の間違いとなる。この⑨「進行形・現在・肯定」と⑫「進行形・過去・肯定」は、唯一、中学生の方が高校生よりも間違いが明らかに多いものである。どちらも肯定形である。

次に「否定」であるが、He not playing tennis. He doesn't playing tennis.という誤答が目立つ。He playing tennis.というbe動詞が無い間違いに対応するものと言えよう。

無回答人数をそれぞれ引くと、どちらも17人となり同数である。中学生も高校生もbe動詞にnotをつけることができない間違いが多い。

最後に「疑問」であるが、Does he playing tennis?という誤答が最も多い。He doesn't playing tennis.という誤答に対応するものである。

無回答人数をそれぞれ引くと、中学生16人、高校生24人となり、高校生の方が間違いが多い。Does he playing tennis?という間違いでは高校生の方が2倍の数で、doesから始める間違いはほとんどが高校生である。

ここでも「進行形では助動詞としてBE動詞が使われる」という認識が、高校になると剥落してい

く現象が見られる。これも深刻な事態と言えよう。会話一辺倒の授業や教科書がこのような事態をつくりだしているとするば、英語教育の在り方を再検討しなければならないだろう。

(2) 進行形・過去

進行形	過去		中学生	高校生	
		⑫肯定	He had playing tennis.	0	1
			He did playing tennis.	0	1
			He played tennis.	2	3
			He be playing tennis.	0	1
			He was going to play tennis.	4	0
			He is played tennis.	3	0
			He's was played tennis.	1	0
			He has played tennis.	1	0
			He was played tennis.	2	0
			was play tennis.	1	0
			無回答	10	4
			合計	24	10
			⑬否定	He wasn't play tennis.	2
		He not playing tennis.		0	1
		He doesn't play tennis.		1	2
		He doesn't played tennis.		0	1
		He didn't playing tennis.		0	5
		He wan't playing tennis.		0	1
		He was not playing tennis.		0	1
		He was notting play tennis.		0	1
		He wasn't going to play tennis.		4	0
		He was playing tennis.		1	0
		He is not played tennis.		2	0
		He hasn't played tennis.		1	0
		He wasn't ～. のみ		2	0
		He wasn't played tennis.		2	0
		was not playing tennis?		1	0
		He not played tennis.		1	0
		無回答		16	5
		合計		33	20
		⑭疑問		Was he play tennis?	0
			Does he play tennis?	0	1
			Does he playing tennis?	0	3
			Does he played tennis?	1	1
			Was he playingのみ	0	1
			Was he not playing tennis?	0	1
			Did he playing tennis?	5	13
			Did he is playing tennis?	0	2
			Did not he playing tennis?	0	1
			Do you wasn't playing tennis?	0	1
			Dos he way playing tennis?	0	1
			Was he plaing tennis?	0	1
			Was he going to play tennis?	4	0
			Is he played tennis?	1	0
			Has he played tennis?	1	0
			Was he played tennis?	1	0
			Did he was playing tennis?	1	0
			Wasn't he ～? のみ	1	0
			He played tennis?	1	0
			Is he playing tennis?	1	0
			Does you playing tennis?	1	0
			無回答	21	5
合計	39		35		



まず「肯定」であるが、⑨「進行形・現在」「肯定」と同じように、この⑫の項目も中学生のほうが高校生よりも間違いの数が明らかに多いものの1つである。He was going to play tennis.という間違いが中学生では一番多く見られるが、高校生には1人も見られない。

また、He is played tennis. He's was played tennis. He was played tennis. He has played tennis. のような、受動態のように見られる間違いや、完了形のように見られる間違いは高校生には1人も見られない。高校生では特に受動態の文型がきちんと定着しているから、このような間違いをしないのであろう。

次に「否定」であるが、He didn't playing tennis.という間違いは高校生にだけ見られ、He was-n't going to play tennis.という間違いは中学生にだけ見られる。do, does, didを使った間違いは高校生に見られる特徴のようである。またbe going toと間違えるのは中学生に見られる特徴のようである。

最後に「疑問」であるが、誤答数が更に多くなる。無回答人数を除くと、中学生は18人、高校生は30人となり圧倒的に高校生の方が間違いの数が多い。Was he play tennis?という間違いは中学生には無く、Did he playing tennis?という間違いも中学生の3倍ほどいる。

中学生では「過去」という言葉に引きづられてplayedを使った間違いが多く、高校生ではplayingを使うことができても、do, does, didなどを用いてしまう。ここでも「進行形では助動詞としてBE動詞が使われる」という認識が、高校になると剥落していく現象が見られる。これも深刻な事態と言えよう。

先にも述べたことだが、会話一辺倒の授業や教科書が、このような事態をつくりだしているとすれば、英語教育の在り方を再検討しなければならないだろう。

### 3) 完了形・現在

完了形	現在		中学生	高校生	
		⑮肯定	He have to play tennis.	0	1
			He has play tennis.	0	7
			He will have been playing tennis.	0	1
			He have played tennis.	4	11
			He has been played tennis.	0	1
			He finished playing tennis.	1	0
			He was played tennis.	1	0
			He has playing tennis.	1	0
			Have played tennis.	1	0
			He has のみ	1	0
			無回答	11	0
			合計	20	21
		⑯否定	He have not(haven't) played tennis.	4	10
			He haven't play tennis.	0	1
			He doesn't have play tennis.	0	1
			He doesn't have played tennis.	1	1
			He have doesn't played tennis.	0	1
			He hasn't play tennis.	4	9
			He hadn't play tennis.	0	1
			He will have been playing tennis.	0	1
			He not have played tennis.	0	1
			He not has played tennis.	1	1
			He doesn't played tennis.	1	0
			He not finished playing tennis.	1	0
			He hasn't playing tennis.	2	0
			Have not played tennis.	1	0
			He hasn't playd tennis.	1	0
無回答	17	1			
合計	33	28			

⑩疑問	Is he have played tennis?	0	1
	Have he played tennis?	3	10
	Has he play tennis?	2	7
	Have he play tennis?	0	1
	Will he have been playing tennis?	0	1
	Has he playing tennis?	3	2
	Has he not played tennis?	0	1
	Has not he played tennis?	0	1
	Does he have played tennis?	0	4
	Does he has played tennis?	0	1
	Does he played tennis?	0	1
	Did he play tennis?	0	1
	Do you have played tennis?	0	1
	Had he play tennis?	0	1
	Has you never played tennis?	0	1
	Have you played tennis?	0	1
	He have played tennis?	1	0
	Has he playd tennis?	1	6
	無回答	20	0
	合計	30	41

まず「肯定」であるが、He have played tennis.という間違いが最も多く、中学生のほぼ3倍いる。中学生のほうが高校生よりもhasに直すことや、playedという過去分詞形に直すことが定着しているようだ。

また誤答総数から無回答人数を引くと、中学生は9人となり、高校生の半数以下である。He has play tennis.という間違いは中学生には1人もいない。ここでも高校に進学してから学力の剥落現象が起きている。

次に「否定」であるが、He have not(haven't) played tennis. He hasn't play tennis.という間違いが最も多く、それぞれ中学生のほぼ2倍いる。完了形になっても、高校生でもdoesを用いた間違いが見られる。ここでも高校に進学してから学力の剥落現象が起きていると言えよう。

無回答人数をそれぞれ引くと、誤答総数は中学生16人、高校生27人となる。これも考えようによっては深刻な事態である。

最後に「疑問」である。Have he played tennis? Has he play tennis? という誤答は中学生にも多い間違いであるが、高校生はその2倍以上である。無回答人数を引くと、中学生は10人となり、なんと高校生の4分の1である。

また高校生のほうが明らかに間違いのバリエーションが多いのもdo, does, didを用いた間違いが多いからであろう。何度も言うように、会話一辺倒・丸暗記中心の英語教育が、高校に進学してからの「学力の剥落現象」を起こしているのであれば、英語教育を根本的に再検討しなければならないだろう。

## 7-2 B表の結果

B表は、郡上高等学校で調査を実施する前に調査用紙を変更しようとしたが、結局、中学生や東濃高等学校生に行った用紙と同じものを使用することになったので、これもA表と同じ被験者数（中学生135人、高校生138人）である。

< B表 >

高校生用 問題：下の表のそれぞれ肯定文には空欄があります。その空欄に適切な言葉を下のヒントを参考にして補いなさい。

ヒント every day, tomorrow, yesterday, then, now, already, yet

		肯定 (ピリオドで終わる文)	否定 (notがある文)	疑問 (文の最後に?がある)
単純形	現在	He plays tennis _____.	He doesn't play tennis.	Does he play tennis?
	過去	He palyed tennis _____.	He didn't play tennis.	Did he play tennis?
	未来	He will play tennis _____.	He will not play tennis.	Will he play tennis?
進行形	現在	He is playing tennis _____.	He isn't playing tennis.	Is he playing tennis?
	過去	He was playing tennis _____.	He wasn't playing tennis.	Was he playing tennis?
完了形	現在	He has _____ played tennis.	He hasn't played tennis.	Has he played tennis?

Class No. Name \_\_\_\_\_

7-2-1 B表の回答欄の番号

B表の解答欄を下図のように記号をつけてまとめた。

		肯定形	否定形	疑問形
単純形	現在形	He plays tennis <u>ア</u> .	/	/
	過去形	He played tennis <u>イ</u> .		
	未来形	He will play tennis <u>ウ</u> .		
進行形	現在形	He is playing tennis <u>エ</u> .	/	/
	過去形	He was playing tennis <u>オ</u> .		
完了形	現在形	He has <u>カ</u> played tennis.	/	/

7-2-2 誤答人数と誤答率

A表と同じように無回答人数をそれぞれ引いた、「誤答数2」と「誤答率2」を算出してみた。ただし網掛け ■ は、数値の大きい方につけた。

		中学生 135人				高校生 138人			
		誤答数1	誤答率1	誤答数2	誤答率2	誤答数1	誤答率1	誤答数2	誤答率2
単純形	ア現在	20人	15%	15人	11%	26人	19%	25人	18%
	イ過去	14	10	9	<span style="background-color: #cccccc;">7</span>	9	7	8	6
	ウ未来	10	7	3	2	8	6	7	<span style="background-color: #cccccc;">5</span>
進行形	エ現在	23	17	15	11	26	19	25	18
	オ過去	28	21	20	15	38	28	36	26
完了形	カ現在	17	13	8	6	18	13	16	12
平均誤答率		14%		9%		15%		<span style="background-color: #cccccc;">14%</span>	

7-2-3 誤答例のまとめ

1) 単純形

項目		誤答	中学生	高校生
単純形	ア現在	now	11	19
		yesterday	1	0
		then	1	1
		tomorrow	1	0
		tomorrow every day	1	2
		yet	0	0
		every dey	0	1
		in every	0	1
		dayever day	0	1
		無回答	5	1

		合計	20	26	
イ 過去	yesterday		1	0	
	yesterdal		1	0	
	yeasterday		1	0	
	判別不能		1	0	
	every day		1	0	
	then		2	2	
	yet		1	0	
	yeaterdy		1	0	
	tomorrow		0	4	
	last night(間違い?)		0	1	
	in yesterday		0	1	
	無回答		5	1	
		合計		14	9
	ウ 未来	判別不能		1	0
yesterday			0	3	
already			0	2	
in tomorrow			0	1	
tommorow			0	1	
every day tomorrow			1	0	
every day			1	0	
無回答			7	1	
		合計		10	8

まず「現在」だが、中学生・高校生ともnowの間違いが一番多い。「現在形」が今を表すイメージが強いので、これを選んでしまうのであろう。しかし中学生よりも高校生の方が「現在形」についてより詳しく学習するはずだが、誤答数は中学生よりも多くなっている。これも「学力の剥落現象」である。

先述の「郡上高校の調査結果」で、B表がネイティブのALTから見れば、複数回答が可能であると書いた。しかし、この「現在」にはnowを入れることはできない。生徒に「現在形」とは何を表しているのかが正しく教えられていないか、教えられていても丸暗記しなければならない事項が増えていくうちに、学力が剥落していくのであろう。

次に「過去」である。高校生に多い間違いはtomorrowであるが、中学生には1人もいない。これも不思議な現象である。「過去形」であるのにこの解答をするということは、単純にyesterdayとの間違いなのだろうか。やはり「学力の剥落現象」と考えざるを得ない。

最後に「未来」であるが、高校生に多い間違いはyesterdayである。上記の「イ」でもtomorrowとyesterdayとを間違えている。単なる勘違いなのだろうか。

しかし中学生はそのどちらでも（「イ」でも「ウ」でも）そのような間違いが1人もいないところが不思議である。ここでもやはり「学力の剥落現象」が起きていると考えざるを得ない。それとも、A表に比べてB表が簡単のように見えてしまい、気の緩みからケアレスミスにつながったのだろうか。

## 2) 進行形

項目		誤答	中学生	高校生
進行形	エ 現在	every day	10	17
		then	3	2
		already	1	1
		day	1	0
		yet	0	4
		not	0	1
		無回答	8	1
			合計	23
	オ 過去	yesterday	6	5
	every day	3	3	

	than	2	0
	them	1	2
	yet	7	17
	already	1	2
	then now	0	1
	now	0	2
	ten	0	1
	tomorrow	0	3
	無回答	8	2
	合計	28	38

まず「現在」であるが、中学生・高校生ともにevery dayの間違が多い。A L Tがevery dayの複数回答が可能であるのは、「ア・イ・ウ・オ」と言っているから、この「エ」はあてはまらない。進行形の「現在形」にはevery dayを使うことはできないのである。

ここでも先述の「ア 単純形・現在」と同じように、「現在形」のとらえ方を間違えてしまっていることがわかる。現在形が習得しづらいのは、このB表で副詞を書かせることによっても証明できるようだ。しかも高校生の方が誤答が多いことは、またもや「学力の剥落現象」である。

次に「過去」であるが、中学生・高校生ともにyesterdayとyetの間違が多い。特にyetを高校生が多く書いていることがわかる。yetはこのB表のどれにもあてはまらない答えであるが、「ヒント」に載っていることもあって、生徒に「どこかで使わなければならない」という気持ちにさせてしまったのかもしれない。

しかし高校生の方が誤答数をはるかに上回った、というところが信じがたい。ここでもやはり「学力の剥落現象」が起きていると考えざるを得ない。日本の英語教育を根本的に再検討しなければならないと思う所以である。

### 3) 完了形

項目		誤 答	中学生	高校生
完了形	カ現在	alreday	1	0
		yet	3	6
		now then	1	0
		alrealy	1	0
		alredy	1	0
		already then	1	0
		then	0	2
		now	0	1
		every day	0	2
		yesterday	0	1
		ever	0	1
		already yet	0	1
		alredy	0	1
		been	0	1
		無回答	9	2
		合計	17	18

中学生・高校生ともにyetの誤答が多い。中学生にとって現在完了形は3年生になって習う文法であり、yetは高校生に比べてもちろん馴染みが浅い。にもかかわらず、高校生よりも誤答数は少ない。

上記の誤答例を見ると、高校生の方が誤答のバリエーションが多いことがわかる。1人ずつの少数であるために、必ずしも「その傾向にある」とは言い難いが、now, every day, yesterday, thenなどさまざまな解答があるということは、意外にも迷っていることが伺える。

これを逆にいえば、高校生になって丸暗記しなければならない知識が増えていくについて、整理されない知識が誤答数を増やしているとも言えよう。何度も言うように会話一辺倒の授業がこのような

誤答を増やしているとすれば、新しい高等学校学習指導要領案は「英語で授業」を誦い文句にしているだけに、未来は暗いと考えざるを得ない。

中学生はalreadyのスペリングミスが目立つ。「ヒント」に載っているにもかかわらず間違えてしまっていることから、スペルがきちんと習得できていないことや、最後の問題で注意力が散漫になっていたりすることが伺える。あるいは「会話一辺倒の授業」だから、無意識に耳で聞いた音声のおおりの綴りになったとも考えられる。

### 7-3 習得順序の比較

#### 7-3-1 誤答の平均率と間違いが多い順位

中学生と高校生とを合計し、Krashenや白畑の習得順序と比較してみようと思う。下は誤答数とその率、平均率、間違いの多い順の表である。ただし冒頭でも述べたように、「誤答数2」は、「誤答数1」から「無回答人数」を引いたものである。

番号・項目名	中学生 135人		高校生 138人		計273人 平均率	間違い 多い順
	誤答数2	誤答率2	誤答数2	誤答率2		
①単純形・現在・否定	34人	27%	46人	33%	30%	1位
②単純形・現在・疑問	16	13	30	22	18	5
③単純形・過去・肯定	4	3	12	9	6	17
④単純形・過去・否定	36	29	35	26	28	2
⑤単純形・過去・疑問	18	15	29	21	18	5
⑥単純形・未来・肯定	10	8	11	8	8	14
⑦単純形・未来・否定	18	15	13	10	13	10
⑧単純形・未来・疑問	13	11	16	12	12	12
⑨進行形・現在・肯定	15	12	8	6	9	16
⑩進行形・現在・否定	17	14	17	13	14	9
⑪進行形・現在・疑問	16	14	24	18	16	8
⑫進行形・過去・肯定	14	11	6	4	8	14
⑬進行形・過去・否定	17	14	15	11	13	10
⑭進行形・過去・疑問	18	16	30	23	20	3
⑮完了形・現在・肯定	9	7	21	15	11	13
⑯完了形・現在・否定	16	14	27	20	17	7
⑰完了形・現在・疑問	10	9	41	30	20	3
平均誤答数と誤答率	17人	14%	22人	17%	16%	

以上の数値をKrashenらとの習得順序の比較と比較するために「間違いの少ない順」に並べ替えて下記に表として示した。

Krashenらの習得順序		習得順序（白畑）		< A表 間違いが少ない順 >		
段階	項目	順	習得順序	順	項目	
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	③単純形・過去形・肯定形	
	複数 (-s)	2	進行形 (-ing)	2	⑨進行形・現在形・肯定形	
	be動詞 (連結)	3	所有 ('s)	3	⑥単純形・未来形・肯定形	
↓		4	be動詞 (助動詞)		⑫進行形・過去形・肯定形	
	第2	be動詞 (助動詞)	5	複数 (-s)	5	⑮完了形・現在形・肯定形
↓		6	一般動詞 (不規則過去)	6	⑧単純形・未来形・疑問形	
	冠詞 (a / the)	7	不定冠詞 (a / an)	7	⑦単純形・未来形・否定形	
↓		8	三人称単数現在 (-s)		⑬進行形・過去形・否定形	
	第3	一般動詞 (不規則過去)	8	三人称単数現在 (-s)	9	⑩進行形・現在形・否定形
↓		9	一般動詞 (規則過去)		⑪進行形・現在形・疑問形	
	第4	一般動詞 (規則過去)	9	一般動詞 (規則過去)	10	①①進行形・現在形・疑問形
	三人称単数現在 (-s)	10	定冠詞 (the)	10	①⑥完了形・現在形・否定形	
↓				11	②単純形・現在形・疑問形	
	所有 ('s)			12	⑤単純形・過去形・疑問形	
				14	①④進行形・過去形・疑問形	
					①⑦完了形・現在形・疑問形	
				16	④単純形・過去形・否定形	
				17	①単純形・現在形・否定形	



これを、更にTENSE・ASPECTだけに絞って比較するために、動詞に関わらないものは除外して並べなおすと次のようになる。

Krashenらの習得順序		習得順序 (白畑)		< A表 間違いが少ない順 >	
段階	項目	順	習得順序	順	項目
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	③単純形・過去形・肯定形
	be動詞 (連結)	2	進行形 (-ing)	2	⑨進行形・現在形・肯定形
↓		4	be動詞 (助動詞)	3	⑥単純形・未来形・肯定形
第2	be動詞 (助動詞)	6	一般動詞 (不規則過去)	5	⑫進行形・過去形・肯定形
↓		8	三人称単数現在 (-s)	6	⑮完了形・現在形・肯定形
第3	一般動詞 (不規則過去)	9	一般動詞 (規則過去)	7	⑧単純形・未来形・疑問形
↓				7	⑦単純形・未来形・否定形
第4	一般動詞 (規則過去)			9	⑬進行形・過去形・否定形
	三人称単数現在 (-s)			10	⑩進行形・現在形・否定形
				11	⑪進行形・現在形・疑問形
				12	⑯完了形・現在形・否定形
				14	②単純形・現在形・疑問形
				14	⑤単純形・過去形・疑問形
				14	⑭進行形・過去形・疑問形
				14	⑰完了形・現在形・疑問形
				16	④単純形・過去形・否定形
				17	①単純形・現在形・否定形

しかし、よく考えてみると「無回答」というのは、単に「集中力の有無」の問題だけではなく、生徒がTENSE・ASPECTに取り組むときの「難易度」の問題でもあると考えられる。したがって「無回答」を除いた順位表では「難易度」の問題を除外することになり、本当の習得順序を表すことにならないのではないか。

そこで、もう一度「無回答」も含めた誤答数で順位表をつくり、それを「間違いの少ない順」で並べ替えた表をつくって見たのが下記のものである。

誤答数と無回答数の比較・誤答順位

番号・項目名	中学生 135人		高校生 138人		中学生・高校生の合計273人				間違いの少ない順
	誤答数1	無回答数	誤答数1	無回答数	誤答総計	無回答総計	無回答多い順	誤答数の多い順	
①単純形・現在・否定	44人	10人	46人	0人	90人	10人	13位	1位	17位
②単純形・現在・疑問	32	6	30	0	62	6	15	7	11
③単純形・過去・肯定	6	2	13	1	19	3	17	17	1
④単純形・過去・否定	47	11	37	2	84	13	10	2	16
⑤単純形・過去・疑問	35	17	31	2	66	19	6	5	13
⑥単純形・未来・肯定	15	4	11	0	26	4	16	16	2
⑦単純形・未来・否定	32	14	15	2	47	16	7	12	6
⑧単純形・未来・疑問	32	9	20	4	52	13	10	10	7
⑨進行形・現在・肯定	25	10	8	0	33	10	13	15	3
⑩進行形・現在・否定	33	16	19	2	52	14	8	10	7
⑪進行形・現在・疑問	35	19	28	4	63	23	2	6	12
⑫進行形・過去・肯定	24	10	10	4	34	14	9	14	4
⑬進行形・過去・否定	33	16	20	5	53	21	3	9	9
⑭進行形・過去・疑問	39	21	35	5	74	26	1	3	15
⑮完了形・現在・肯定	20	11	21	0	41	11	12	13	5
⑯完了形・現在・否定	33	17	28	1	61	18	5	8	10
⑰完了形・現在・疑問	30	20	41	0	71	20	4	4	14
平均誤答数と誤答率	30人		24人						



Krashenらの習得順序		白畑の習得順序		無回答数も含めた間違いの少ない順		
段階	項目	順	習得順序	順	項目	誤答数
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	③単純形・過去・肯定	19
	複数 (-s)	2	進行形 (-ing)	2	⑥単純形・未来・肯定	26
	be動詞 (連結)	3	所有 ('s)	3	⑨進行形・現在・肯定	33
↓		4	be動詞 (助動詞)		⑫進行形・過去・肯定	34
		5	複数 (-s)	5	⑮完了形・現在・肯定	41
第2	be動詞 (助動詞)	6	一般動詞 (不規則過去)	6	⑦単純形・未来・否定	47
↓			不定冠詞 (a / an)	7	⑧単純形・未来・疑問	52
		8	三人称単数現在 (-s)		⑩進行形・現在・否定	52
第3	一般動詞 (不規則過去)	9	一般動詞 (規則過去)	9	⑬進行形・過去・否定	53
↓		10	定冠詞 (the)	10	⑯完了形・現在・否定	61
				11	②単純形・現在・疑問	62
				12	⑪進行形・現在・疑問	63
第4	一般動詞 (規則過去)				⑤単純形・過去・疑問	66
	三人称単数現在 (-s)			14	⑰完了形・現在・疑問	71
↓					⑭進行形・過去・疑問	74
				16	④単純形・過去・否定	84
	所有 ('s)			17	①単純形・現在・否定	90

これを、更にTENSE・ASPECTだけに絞って比較するために、動詞に関わらないものは除外して並べなおすと次のようになる。

Krashenらの習得順序		白畑の習得順序		無回答数も含めた間違いの少ない順		
段階	項目	順	習得順序	順	項目	誤答数
第1	進行形 (-ing)	1	be動詞 (連結)	1	③単純形・過去・肯定	
	be動詞 (連結)	2	進行形 (-ing)	2	⑥単純形・未来・肯定	
↓		4	be動詞 (助動詞)	3	⑨進行形・現在・肯定	
		6	一般動詞 (不規則過去)	4	⑫進行形・過去・肯定	
第2	be動詞 (助動詞)	8	三人称単数現在 (-s)	5	⑮完了形・現在・肯定	
↓		9	一般動詞 (規則過去)	6	⑦単純形・未来・否定	
				7	⑧単純形・未来・疑問	
第3	一般動詞 (不規則過去)				⑩進行形・現在・否定	
				9	⑬進行形・過去・否定	
↓				10	⑯完了形・現在・否定	
					②単純形・現在・疑問	
第4	一般動詞 (規則過去)			12	⑪進行形・現在・疑問	
	三人称単数現在 (-s)			13	⑤単純形・過去・疑問	
↓				14	⑰完了形・現在・疑問	
				15	⑭進行形・過去・疑問	
				16	④単純形・過去・否定	
				17	①単純形・現在・否定	

「無回答を除外した場合」と「無回答も含めた場合」とでは、誤答率・誤答数の順序にどのような違いが生まれるかを分かりやすく示すために、下記にその表を並べてみたものが下記のものである。なお今後の考察に便利のため、Krashenに従って<無回答を含めた順序>を4つの段階に分けてみた。以下、この表を元に若干の考察を記すことにする。

<無回答を除外した順序>			<無回答を含めた順序>			
順	項目	誤答2平均%	順	項目	誤答総計	
1	③単純形・過去・肯定	6	第1段階	1	③単純形・過去・肯定	19人
2	⑨進行形・現在・肯定	9		2	⑥単純形・未来・肯定	26
3	⑥単純形・未来・肯定	8		3	⑨進行形・現在・肯定	33
				4	⑫進行形・過去・肯定	34
5	⑮完了形・現在・肯定	11		5	⑮完了形・現在・肯定	41

6	⑧単純形・未来・疑問	12
7	⑦単純形・未来・否定	13
	⑬進行形・過去・否定	13
9	⑩進行形・現在・否定	14
10	⑪進行形・現在・疑問	16
11	⑯完了形・現在・否定	17
12	②単純形・現在・疑問	18
	⑤単純形・過去・疑問	18
14	⑭進行形・過去・疑問	20
	⑰完了形・現在・疑問	20
16	④単純形・過去・否定	28
17	①単純形・現在・否定	30%

第2段階	6	⑦単純形・未来・否定	47
	7	⑧単純形・未来・疑問	52
		⑩進行形・現在・否定	52
	9	⑬進行形・過去・否定	53
10	⑯完了形・現在・否定	61	
第3段階	11	②単純形・現在・疑問	62
	12	⑪進行形・現在・疑問	63
	13	⑤単純形・過去・疑問	66
	14	⑰完了形・現在・疑問	71
	15	⑭進行形・過去・疑問	74
第4段階	16	④単純形・過去・否定	84
17	①単純形・現在・否定	90	

### 7-3-2 習得順序をめぐる若干の考察

#### 1) 習得順序の4段階

A表の順位では、上位5つが全て肯定形である。肯定形ならば単純形、進行形、完了形のいずれでも定着がよいことが分かる。そして、Krashenや白畑と同じように、進行形の現在でも過去でも肯定ならば、習得順序は早い。

しかし否定や疑問はだいたい中間に位置しているため、進行形の全てにおいて習得順序が早いとは言えない。とはいえ、「無回答を除外した場合」と「無回答も含めた場合」とでは、否定と疑問の順序にかなりの違いがあることが分かる。

というのは「無回答を除外した場合」では6位から15位までに否定と疑問が混在しているが、「無回答も含めた場合」では、6位から10位までは基本的に「否定」、11位から15位までは「疑問」になることが、くっきりと浮き彫りになる。図式化すれば次のようになる。

- 第1段階 (1～5位) 肯定
- 第2段階 (6～10位) 否定
- 第3段階 (11～15位) 疑問
- 第4段階 (15～17位) 否定

既に前章までの考察で、「否定」よりも「疑問」のほうが「移動」という操作を含む分だけ難度が高くなるのではないかと、という仮説を述べておいたが、そのことがこの表で実証されたのではないかと考える。

<無回答も含めた順序>の7位に、一つだけ「単純形・未来・疑問」という異物が、「否定」の集団に紛れ込んでいるが、被験者数を増やせば、この項目も第3段階(11位から15位の「疑問」集団)に移動することも考えられる。

#### 2) いわゆる「規則過去」も肯定は定着が早い

Krashenも白畑も、「規則動詞の過去」は習得順序は遅い。しかし私たちの表では、規則過去の「単純形・過去」は、肯定1位、疑問形12位、否定16位である。1位から16位までと幅が広く、肯定形ならば過去形はとても習得が早い。しかし否定は習得が遅く、疑問は更に遅くなる。

Krashenに従って<無回答も含めた順序>を次のように4段階に分けるとするならば、この調査の場合、「単純形・過去」(すなわち「規則動詞・過去」の場合)その否定は第4段階、疑問は第3段階ということになる。

- 第1段階 (1～5位) 「単純形・過去」肯定
- 第2段階 (6～10位) (「単純形・未来」否定)
- 第3段階 (11～15位) 「単純形・過去」疑問
- 第4段階 (15～17位) 「単純形・過去」否定

Krashen や白畑の調査の詳細は分からないので何とも言えないが、規則過去の全てをひっくめて言っているのなら、この調査からは単純に「規則動詞・過去の習得順序は遅い」とは言い難い。これまでの言語習得研究を再考する必要がある、と考える所以である

3) いわゆる「単純形」は単純ではない

A表で言うと、単純形・未来は全ての形において上位（2位 肯定，6位 否定，7位 疑問）である。単純形・未来がこの項目の中では一番平均して習得が早いと言える。＜無回答も含めた順序＞の4段階で図示すると次のようになる。

- 第1段階（1～5位）「単純形・過去」肯定 「単純形・未来」肯定
- 第2段階（6～10位） 「単純形・未来」否定・疑問
- 第3段階（11～15位）「単純形・過去」疑問 （「単純形・現在」疑問）
- 第4段階（15～17位）「単純形・過去」否定 （「単純形・現在」否定）

しかし既に上で述べたように、被験者数が増えれば、この「単純形・未来」疑問も第3段階に移動するのではないかというのが私たちの仮説である。

それはともかく、この第1～4段階における「単純形」の配列順序を見れば、「単純形」が決して単純ではないことがよく分かるのではないだろうか。「単純形・過去」肯定が第1段階に属し、「単純形・現在」否定が一番最後に来ることは上記の図からも明らかであろう。

ところで「三単現」の習得が遅いことについて白畑の論文に面白い記述がある（白畑知彦，小寺茂明『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』第5章）。白畑は自分の研究について次のように述べている。この「否定証拠」の研究を見れば分かるように、教師が生徒の間違いを正しても、三単現は身につけにくいのである。（pp.72-74）。

2006年度の受講生は実質42名であった。筆者のこれまでの経験を基に、大学生がよく誤る項目を、その特徴別に5つ選んだ。それらは、①because（の用法），②recently（の用法），③属格-'s（の用法），④動詞の三人称単数現在形（三単現）の-s，⑤動詞の過去形，の5項目である。（中略）

これらの図表から分かることは、否定証拠を与えると効果がある項目と、あまり効果がない項目が存在することである。否定証拠が効果的だったと考えられる項目は、①becauseと②recentlyであり、ほとんど効果がないと思われるものは、④三単現と⑤動詞の過去形であった。③属格はその中間的な位置づけである。（中略）

表2 否定証拠を与えた前後の5項目の誤り率（被験者数42名）

調査項目	観 察 日		
	2006年4月	2006年7月	2007年2月
because	51.4% (18/53)	10.7% (3/28)	6.5% (2/31)
recently	90.0% (18/20)	8.7% (2/23)	9.7% (3/31)
属格	31.6% (12/38)	21.2% (7/33)	17.8% (5/28)
三単現	40.0% (10/25)	34.8% (16/46)	40.6% (13/32)
動詞過去形	36.6% (30/82)	32.3% (31/96)	32.6% (30/92)

※ 〇は自分がつけたものである。

余談だが、この白畑の論文でKoike（1983）の研究が載せてある(p.68-69)。教科書の文法配列と習得順序が合わないことを述べているところで、(i)文法形態素，(ii)前置詞，(iii)be動詞，(iv)統語構造の4つの表を載せている。(i)文法形態素の表では三単現の習得順序が遅いことを証明しているのだが、(iv)統語構造では主語をIやYouとしたものしかない。ここで三人称単数の主語He, She, Itを使っていれば、(i)の研究の裏付けになったかもしれないし、この統語構造の習得順位自体も変わったかもしれない、と思った。

いずれにしても、肯定とそれ以外の否定・疑問とでは、習得順序が明らかに違っている。肯定は明らかに習得が早く疑問は遅い。しかし英語で会話をするときには、疑問を必ず使わなければならない。にもかかわらずこのような結果だということは、日本人が「英語の会話が苦手だ」と言われる原因がここにあるのかも知れない。

#### 7-4 中間総括—この調査研究を教育にどう生かすか

以下に、この調査研究を通じて明らかになってきたことを記し、それを英語教育にどう生かすかについてメモ風書き留めておきたい。

##### 1) 「高校生だからできる」という間違った認識

この「中学生と高校生のまとめ」を書き始めて、驚いたことがたくさんあった。中学生の結果と高校生の結果を、それぞれにまとめた時には気づかなかつたのであるが、中学生と高校生の結果を並べてみて、「高校生の方がより正しく英語が使える」とか「同じ問題をやらせたら、高校生の方が点数を取れるに決まっている」という自分の中の固定観念が崩れた。

というよりも、高校生になってからの方が学力低下が激しいのではないかと思うようになった。つまり「学力の剥落現象」が起きるわけである。既に何度も述べたことだが、これが会話一辺倒・丸暗記中心の、現在の英語教育にあるとすれば、事態は極めて深刻であると言わざるを得ない。

##### 2) 無回答を含めなかったことについて

今回の中学生と高校生のまとめは、無回答人数を引いている。中学生の方が学力の差が激しく、無回答になる原因が多様である。そのため今回の調査では、無回答を含めない方がどれだけ文法を習得できているのか、という実態が把握しやすくなると思ったからである。

「高校生の方がより正しく英語が使える」とか「同じ問題をやらせたら、高校生の方が点数を取れるに決まっている」という自分の中の固定観念が崩れたのも、この「無回答」を含めないで考査をしたからこそである。

無回答をしてしまう要因を探るということも、英語教師にとっては大切なことで、ここも究明しなければ真に「誰にとっても分かりやすい英語授業」とは成り得ないだろう。そう考えているうちに、やはり「無回答を含めた順序」を考えなければ、真の習得順序も明らかに出来ないことが分かった。

##### 3) 「現在形」の間違った認識

A表では、高校生は動詞に「三単現～s」や「規則動詞過去～ed」を付けたり取ったりすることを忘れがちであること、そしてdo, does, didを用いてしまう間違いが多いことが分かった。中学生は未来形で使うwillがbe going toで書き換えられることを習うために、そのgoingと進行形の「be +ing」を混同していることが分かった。

B表では中学生も高校生も、現在形が苦手であることが分かった。特に高校生の方が誤答数が多く、深刻である。「現在形」の意味と、日本人の学生が持つ「現在形」のイメージは完全に違っている。ALTが複数回答可能であると言った解答ならまだしも、そのALTが「決して使えない」と言った解答を生徒が選ぶのである。「現在形」が難しいといわれるゆえんは、ここにもあった。

##### 4) 「幹」を太らせない指導

高校生の方が英語の授業数は多いはずで、さらに難しく詳しい内容について学習しているはずである。しかしこの結果を見ると、学習すればするほど中学生で解ける問題が解けなくなっているのではないか。高等学校での英語授業では、「幹」は太くなるどころか、「枝葉」ばかりが生い茂り、「幹」を細らせてしまっているということなのだろうか。

もちろん高等学校の学習が難しいために、たくさんのinputがまだintakeの状態、正しくoutputできないでいるのかもしれないが、どの状態であっても中学生よりも正答率が低いというのでは、正しいinputであったとは言えないのではないだろうか。



中学生は習ったばかりの文法で記憶に新しいためにできたのかもしれないし、余計な情報がないことが幸いでいた（習っている絶対量が違うために語彙や文法を正しく使える範囲も限られているために、意外とできてしまった）のかもしれない。

いずれの要因にせよ、この結果からは「高校生の方が英語をより習得できている」とは言えないのである。何度も言うが「学力の剥落現象が起きるような教育」、「ザルに水を入れるような教育」は、どこかでストップをかけなければならない。

### 5) 会話する力

また習得順序で言えば肯定文がいちばん良く定着していて、単純形・進行形・完了形のどの項目であっても習得が早い。全ての項目の疑問文・否定文は習得が遅い。日本の学生にとっては文法の項目よりも、否定文や疑問文の力をつけなければならないことが分かる。

英語で会話をするには、疑問文を使う。中学生の教科書に、会話などでは文章の語尾を上げて発音すれば疑問文のように相手にたずねることができる文章になると教えている部分がある。確かにネイティブもこの手段をたまにとっている。

しかし基礎基本を身につけさせたい中学校や高等学校ではこの手段ばかりでなく、正しく疑問文で発話できるようにもさせたい。「英語ができる日本人」にするためには、否定文・疑問文を正しく身につけさせなければならない。

とはいえ、肯定文が正しく書いていけば、単純形以外は「左半丸」の後にNOTを置けば否定文になるし、「左半丸」を文頭に出せば疑問文になる。このことが定着していないからこそ否定や疑問に誤答が絶えなくなる。「記号づけ」という教育技術の有り難さを改めて認識させられる。

### おわりに— 研究のまとめと今後の課題

寺島隆吉『英語にとって文法とは何か』p.164の「時相転換表」で中学生や高校生に調査をしてみ、教員としての15年間で気づけなかったこと、曖昧だったことがはっきりし、おおくの発見があったし、さまざまな思いを経験することができた。

以下に調査を振り返り、若干のまとめてをしてみようと思う。まず、この研究全体を振り返って、分かったこと発見したことを再度まとめる。

#### 1) 言語習得順序にかかわって

##### (1) 肯定について

「肯定」はどの調査でも結果が良かった。肯定であれば、「完了形・現在・肯定」の方が、「単純形・現在・否定」よりも順位が上なのである。しかしこの調査では「単純形・現在・肯定」の例文(He plays tennis.)が初めから書いてあったので、「単純形・現在・肯定」についての調査結果がない。

言語習得研究によれば、「肯定」は習得が容易でも「三単現のs」は習得が困難であるから、この文も書かせてみたかった。しかしこれが今回の調査の基準となる文章だったために、正しい文章を提示しなければならなかった。この文だけを一番最初に別紙に書かせる（あるいは「彼はテニスをする」という日本語と英語のヒントを最初に与えておく）という方法もあったかもしれない。

Krashen らや白畑の習得順序の文法項目のひとつに、「規則過去」がある。調査で使用した動詞のplayも規則過去の動詞である。動詞playとは別の「不規則動詞」を与えたらどうなったかの調査も、時間があれば、してみたかった。今後の課題である。

##### (2) 否定と疑問について

「否定」は誤答数が高く、単純形の場合は疑問よりも否定の方が書けない。「単純形・現在・否定」(He doesn't play tennis.)は、中学校1年生の1学期に習う文法であるが、高校生のおよそ3人に1人(33%)が正しく書けない。その間違いを見てみると、notをどこにつけていいのかがきちんと

理解できていないということが分かる。

「疑問」ではbe動詞が文頭にくるのか、Do (Does, Did) やHave (Has) が文頭に來るのかが理解できていないことがわかる。文頭にくる語の理解を高める必要があるようだ。ここで記号研方式による教育技術(「左半丸」「右半丸」という「記号づけ」)の有り難みが改めて認識された。

会話は常に疑問文とその答えの連続からなる。肯定文の語尾を上げて発音すれば疑問文のようになり、その場の会話は成立する。確かにネイティブもこの手段をたまにとっている。しかし基礎基本を身につけさせたい中学校や高等学校ではこれだけでなく、正しく疑問文を作ることができるようにもさせたい。

近年の中学校の教科書は会話文が多く取り入れられている。また高校でもオーラルコミュニケーションの授業があり、それ以前の英語教育に比べれば「話す」表現力を高めることができても当然であると思う。しかしこの結果を見る限りでは、その効果を実感できるとは言い難い。

では中学校の授業ではどのように否定や疑問を教えているかという点、パタンプラクティスのような練習が多い。限られた時間の中での活動のため、生徒が自由に会話文を作成するなどの実践的な練習をする時間はほとんどない。教師に与えられた短い文章ならばその場ではスラスラと読むことができるようになるので、教師はそれで生徒が理解できたものと満足してしまう。これでは決して本当の学力がつくとは思えない。

また否定や疑問を作るときにはそれぞれ一定の規則があることから、教師にとって否定や疑問文がさほど難しく思えないのではないだろうか。このような「簡単であるはず」という教師側の思い込みが、授業での手抜きに繋がっているのかもしれない。また、会話一辺倒・丸暗記中心の英語教育が「学力の剥落現象」を生み出しているとも考えられる。

この否定と疑問の苦手をなくす方法として有効なのが、先に述べた「記号研方式」ではないだろうか。否定の場合、NOTをどこにつけるのかが分からない生徒には、「左半丸」と「右半丸」の間に置くように指示すれば簡単に問題が解決する。記号が頭を整理してくれるのである。

また疑問の場合でも、文頭に何を持ってくれば良いのかが分からない生徒に、「左半丸」を文頭に持ってくるよう指示すれば簡単に問題が解決する。このように、文章に記号をつけることで、今まで見えなかった文法構造を浮き彫りにできる。この方法なら生徒に基本を徹底させることができる。

### (3) 現在について

中学生も高校生も、否定分や疑問文では「現在」の方が「過去」よりも苦手であることが分かった。また高校生の方が誤答数が多いというのは問題である。「学力の劣化現象」が問題になる所以である。

この「現在」の一番の問題点は、英語における「現在形」の意味と、日本人の学生が持つ「現在」の意味が完全に違っていることである。「現在」が難しいといわれるゆえんは、この曖昧な現在の認識にあった。B表の調査結果をまとめるときに、複数回答が可能であるものもあったが、自分の勤務校常駐のALTにいろいろと質問をして分かったことは、副詞NOWが絶対に現在形では使えないということだった。

次の大きな問題は、いわゆる「三単現s」である。全体的に「三単現」は定着が遅いことについては、Krashenらや白畑も習得順序で示している。ネイティブにもみられる間違いであるのだから、習得が遅くてもおかしくはない。

出発点となる文章がHe plays tennis. で、主語がIではない。もしIやYOUを使っていたならば、このような誤答は検証できなかっただろう。Heを主語とすることによって三単現がいかに定着しにくいかがよく分かった。ただ先にも述べたように不規則動詞を例文に選んだ場合はどうだったかの検証が課題として残された。

またこの調査で面白いと思ったのは、中学生だけでなく高校生にも主語をheではなくてyouにする間違いが見られたことである。授業や読み物(本文など)でyouを主語にしたinputが多いために、



このような間違いにつながったのではないだろうか。

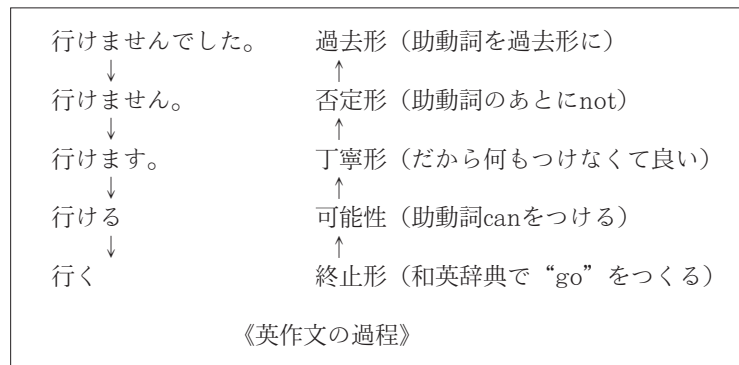
先日小学校の英語の研究授業があり、授業を参観した。小学校ではIとyouしか使わない。he, she, it, は使わない。三単現のSを避けているのだと思われるが、会話中心の授業では、このような弊害も出てくる。英語教育を根本的に再検討しなければならない所以である。

### （5）未来について

「単純形・未来」は平均して一番間違いが少ないので、習得が早いと言える。しかし進行形・完了形・完了進行形での未来は間違いが多い。単純形以外に未来を用いて表現することが少なく、教科書などに載っている量も少ない。日常（通常授業）で、未来文に接する頻度の違いが、この数値に表れているのではないだろうか。

しかし、もう一つ別の要因も考えられる。それは「未来」の文をつくるときは、「現在」や「過去」と比べて、手順が複雑になるということである。たとえば寺島隆吉『英語にとって学力とは何か』第1章で、頭の中でどのようなプロセスで英文を作っていくのかが説明されている。

このプロセスが多ければ多いほど複雑になる。そこで間違いが増えていくと考える。次に「英作文の過程」の引用（pp.22-23）を載せる。



単純形で否定文をつくるためには、新しく「左半丸」をつくりだした上で、その後にnotをつけなければならなかったり、疑問文をつくるために文頭に「左半丸」を移動しなければならなかったりすると、その分プロセスが多くなる。

しかし「単純形・未来」の文は、最初から公式として「助動詞WILL+動詞原形」が与えられているので、新たに「左半丸」をつくりだす必要がない。つまり、「単純形・未来」では、上記のような余計な手順が少ないので、間違いも少なくなったのだと考えられる。

## 2）現場の指導にかかわって

### （1）進行形について

B表では、間違いが多いのはいつも進行形（現在進行形・過去進行形の両方とも）であった。進行形は肯定であれば定着が良いことが分かっているにもかかわらず、He is playing tennis.にnowを、He was playing tennis.にthenをつけることができないのである。

この問題が一番正解率の低いものであるということは驚くべき事実であった。「be+～ing」という形は分かっているても、副詞をつけることはまた別の意味であるらしい。つまり「形式」はつくれるようになって、その「形式」が持つ「意味」が理解されていないのである。

進行形という「相」の認識（進行形は、「未完了の動作を表す」という認識）が生徒にとって把握が難しいのではないだろうか。教科書でも進行形を扱う際に、副詞句をつけた例文が少ないことも原因かもしれないが、それ以前に、教師に「時制」「相」の区別が明確に認識されていないことが一番の問題ではないか。

また未来の文では、playにingをつけた誤答が目立つ。未来を表現するのにwillではなくbe going

to という表現を使うこともあるため、そのgoingと進行形の～ingを混同しているものと考えられる。特に中学生にこの傾向が強い。これを防ぐためには、なぜ進行形「be going (to～)」が未来を表現することになるのかを教師がまず説明できなければならないだろう。

## (2) いわゆる「ザル水効果」の指導

誰でも英語の力は高校生の方が上であると思っているだろう。確かに英語の知識は高校生の方がたくさんあるに違いないが、基礎を正しく運用するという力とはまた別であることが分かったのである。

自分の調査からは中学生と高校生の結果を並べてみると、高校生の方が出来ていない問題が多く、「高校生の方がより正しく英語が使える」とか「同じ問題をやらせたら、高校生の方が点数を取れるに決まっている」という自分の中の固定観念が崩壊した。

中学校よりも高等学校は英語の授業数は多いはずで、さらに難しく詳しい内容について学習しているはずであるが、調査の結果を見ると、長く英語を学習すればするほど基礎的な問題が解けなくなっている。

ということは高等学校での英語授業では、「幹」は太くなるどころか、「枝葉」ばかりが生い茂り、逆に「幹」を細らせてしまっている結果になっているのではないか。寺島教授の言葉では、これを「ザル水効果」という。「ザル」にどれだけ水を入れても水は溜まらないからである。

高等学校の学習の内容は難しく、たくさんのinputがまだintakeの状態、正しくoutputできないのかもしれないが、たとえどの過程であっても中学生よりも正答率が低いというのは、正しいinputであったと言えるのだろうか。先に何度も言っているように、「学力の剥落現象」を生むような指導は即刻、改められなければならない。

中学生にとっては習ったばかりの文法であるから、記憶に新しいためにできたのかもしれないし、余計な情報がない（枝葉の部分が少ない）ことが幸いしていたのかもしれない。いずれの要因にせよ、調査結果からは「高校生の方が英語をより習得できている」とは言えないのである。

## (3) 文法の「かたち」と同時に「なかみ」を

この調査（A表とB表どちらとも）を自分が教えている中学校で行い、その後解説をしながら答え合わせをする場面を想定すると、A表よりもB表のほうが説明をするのが難しい。なぜならばA表は文法の「かたち」だけを教えればよいが、B表は文法の「なかみ」を教えなければならないからである。

文法項目の「なかみ」を教えるためには、教師がまず、その文法用語がどのような状況の中で使われるものなのかを設定することのできる能力が必要である。つまり頭の中でストーリーを描かなければならない。そしてそのストーリーや状況を生徒と共有した上ではじめて説明をすることができるのである。

前後の文章が無い、「形式」だけを教える授業ではなく、それぞれの文法項目が使われる状況・設定を、生徒にきちんと説明できる授業でなければならない。大抵の英語教師が進行形や完了形を説明するとき、黒板とチョークで時間の流れを表す線を書き、その線や線上にとった点（現在・過去・未来）で、分らせようとする。

しかしすべての生徒がその説明の仕方理解できるのだろうか。場面を理解させることができたとしても、中学生に（例えば）現在と現在進行形との違いを説明するには、かなりかみ砕いて、さらに難しい文法用語を避けなければならない。こうして単なる答え合わせではなくて、それぞれの文の使われ方をきちんと把握させるには、とても労力が必要である。

文法を教えるときは語順や動詞の形だけに気を取られがちで、そこが正しく書けさえすれば、それで教師は満足してしまう。しかし文法を教えるときの文章に副詞句や副詞節も付け加えて提示しなければ、生徒は本来その文法が持つ意味を正しく使いこなすことが出来るようにはならないのである。B表の調査はそのことを教えてくれた。

もちろん「かたち」が正しく理解できたり作れたり出来ることが、「なかみ」「意味」に進むための土台・前提条件なのだが、それだけでは英語を使えるようにはならない。副詞句や副詞節も付け加えて、生徒に「時制」「相」をスムーズに理解させることができるかどうか、英語教師としての腕の見せ所となるのかもしれないと思った。

もし英語教師が「日本語に訳してみても、おかしいと思えばその答えは違っているのだ」と授業中に教えているとしたら、これはかなり良くない教え方ではないだろうか。このB表の結果を見ていると、そんな気がしてならない。

誤答にあたる語を入れて全文を訳してみると、日本語ならば意味合いが全くおかしくないものがたくさんある。ある語を入れて日本語に訳したとき、その意味が通じなければ間違っていると理解できる。しかし日本語に訳してみてもおかしくないのに、「英語の世界ではそのような語は入らない」と教えるだけでは、生徒は納得がいかないであろう。

例えば進行形・過去で、「彼は毎日テニスをしていました。」という訳からは、生徒はそれが間違いだとは思えないはずである。だから進行形というもの、何を表現するときに使うものなのかということから教えることはとても肝心なことなのである。進行形・過去をwas(were)+～ingだと教えているだけでは、真に進行形・過去を教えたことにはならないのである。

このように日本語で説明する場合でも、文法の「なかみ」を生徒に納得できる形で説明することは難しい。ところが新高等学校学習指導要領では「英語の授業は英語で」を非常に大きな柱にしている。これではますます「学力の剥落現象」が深く広く進行するのではないだろうか。

#### （４）調査・研究の方法について

自分が意図している調査を行うには、調査用紙の作成から慎重にならなければならない。中学生から高校生までのそれぞれが解答しやすいように工夫をしなければならない。

この調査では何度か調査用紙を試作してみた。しかし結局『英語にとって文法とは何か』にあるようなシンプルな形式に戻った。そして、ヒントの載せ方や大きさや位置などにも教授にアドバイスをいただいて作成した。

しかし東濃高等学校に持っていった調査用紙のヒントに間違いがあったために、正しく数値を見ることが出来なくなってしまった。またB表には「ヒントから1つ選びなさい」という指示を載せていなかったことや、yetというどの答えにもあてはまらないものをヒントに入れてあったので、これらも数値に多少は響いていると思われる。

自分が求めているデータを効果的に得られるようにするために、どのような問題をどのように出題するのかだけでなく、もうひとつ大切だと思ったことがある。それは集計のしやすい調査用紙にするということである。今回の高校生用A表は35の回答欄があった。その回答欄のそれぞれに小さく番号をふっておけばよかったのだが、番号をふっていなかったために集計するときどの項目のものか瞬時に分からなくて時間がかかってしまった。調査後のことも考えて慎重に作成しなければならないことがよくわかった。

調査後集計するときに、無回答をどう扱うか悩んだ。当然最初から無回答が出ることは分かっていたのだが、調査前は無回答を少しでも出さないように調査用紙に工夫をしようと思っていただけであったため、集計後に無回答の人数を間違いに入れるか否かまでは決めていなかった。そこで「中学生と高校生のまとめ」のときだけ、無回答人数を引いたデータも作成してみた。無回答人数を含んでいない方がどれだけ文法を習得できているのか、という実態が把握しやすくなると思ったからである。

また無回答には、そうなる原因が多様で、学力が低くて書くことができないのか、落ち着いて用紙に向かえない性格や学級の雰囲気なのか、無気力なのかなど、特定することは出来ない。もしかすると「間違いを書くくらいなら、書かない方がましだ」と思っていたとも考えられる。しかし最大の要因は手順が複雑だから放棄したと考えた方が良くないと思われ、最終的には、この無回答もデータに含めて

「習得順序」の表をつくった。結果としては、無回答を含めた方が、TENSE・ASPECTに関わる言語習得順序を巧く説明できるように思われた。

というのは、「無回答を含めない表」では「単純形・複合形」「現在・未来・過去」「肯定・否定・疑問」の関係が複雑にからみあって順序に整合性を見出すことが出来なかったが、「無回答を含めた表」では、次のような合理的順序が自然に現れてきたからである。

- 第1段階 (1～5位) 「単純形・過去」肯定 「単純形・未来」肯定
- 第2段階 (6～10位) 「単純形・未来」否定・疑問
- 第3段階 (11～15位) 「単純形・過去」疑問 (「単純形・現在」疑問)
- 第4段階 (15～17位) 「単純形・過去」否定 (「単純形・現在」否定)

もし被験者数・母集団を大きくすれば、第2段階に現れている「単純形・未来」疑問が、第3段階に移動して、第2段階は「否定」のみ、第3段階は「疑問」のもとなって、非常に美しい表が得られるのではないかと考えている。

つまりTENSE・ASPECTの言語習得順序に、「単純形」→「複合形」→「単純形」, 「肯定」→「否定」→「疑問」→「否定」という一貫した法則性を見出すことができるのではないかと考えているのである。この仮説が正しいかどうかは、今後の追試・検証に待つかない。

いずれにしても、今回の調査で残された課題は多い。もし自分に十分な時間があるのならば、残された課題に挑戦してみたいと思った。このような自分にとって未知の世界に足を踏み入れて究明することが「誰にとっても分かりやすい英語授業」への道のひとつだと思うからである。

#### (5) 今後ひとりの英語教師として

まとめを書く前に、もう一度、寺島隆吉『英語にとって文法とは何か』の第4章と第5章を読み直した。そして、自分が書いてきた論文が、実はこの2つの章のほんの一部分を実証したに過ぎないと感じた。

そもそもこの調査は、文法指導そのものについて考え始める第一歩として行ったものである。この調査結果が出て初めて、文法指導の本当のスタート地点に立たされたように思えた。論文の最後にしてようやく新しいスタートに立っている自分を感じた。

この論文の「研究の動機」ですでに、『英語にとって文法とは何か』が読み返す度に新しい発見があることを述べたが、こうしてまたひとつの調査を終えて読み返してみると、実にひとつひとつの言葉に奥深さを感じるのである。自分にとってはこの調査で新鮮に思えたことが、既にいくつか書いてあった。

これまでも何度か読んだはずのところなのに、記憶に残っていなかったのである。苦勞してはじめて、書かれていたことの意味が身にしみてがやっと理解できたのだろうと思った。第4章・第5章を読み返すと、この論文で「自分の調査から分かったこと」として発表するのが恥ずかしい。「調査を通して、この本の裏づけをできたこと」と題したいくらいである。

自分がこれからひとりの英語教師として教壇に立つとき、この調査・研究を土台にしながら「何を教えるべきか」「どう教えるべきか」に自信を持って臨みたい。なお、この修論発表会で拙論を紹介したところ、それを元に朝日大学で新しい追試がおこなわれ、その結果が「TENSE・ASPECT・VOICEの認識と指導」『岐阜大学教育学部研究紀要：人文科学』第58巻1号(2009:103-146)として論文化されている。これも現場にすぐ生かして使える研究報告であり、これにも学びながら教師として大きく前進したい。

寺島教授やその著書、そして記号研方式との出会いから、自分はひとりの英語教師として大きく成長できたように思う。「記号づけ」という確かな理論は頼りがいがある、文法導入時の困難や迷いや不安などを吹き飛ばしてくれている。そして記号研方式は、私たち教師だけでなく生徒にも外国語の習得が楽しみながら持続できる「易行道」として(『センとマルとセンで英語が好き！に変わる本』



p.14), 成功への道を示してくれている。今では『英語にとって文法とは何か』は自分にとって聖書(バイブル)である。

## 参考文献

- 大津由起雄 (2007)『英語学習7つの誤解』NHK出版.
- 金谷憲 (1995)『英語リーディング論』桐原書店.
- 金谷憲 (2004)『和訳先渡し授業の試み』三省堂.
- 小寺茂明 (2008)『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』松柏社.
- 寺島隆吉 (1985)『大きなかぶ』三友社出版.
- 寺島隆吉 (1986)『英語にとって学力とは何か』三友社出版.
- 寺島隆吉 (1987)『ジャックの建てた家』三友社出版.
- 寺島隆吉 (1991)『英語記号づけ入門』三友社出版.
- 寺島隆吉 (1993)『Singing Out』Vol. 1. 三友社出版.
- 寺島隆吉 (1993)『Singing Out』Vol. 2. 三友社出版.
- 寺島隆吉 (1993)『Singing Out』Vol. 3. 三友社出版.
- 寺島隆吉 (2000)『国際理解の歩き方』あすなろ社.
- 寺島隆吉 (2000)『英語にとって文法とは何か』あすなろ社.
- 寺島隆吉 (2000)『英語にとって音声とは何か』あすなろ社.
- 寺島隆吉 (2002)『英語にとって評価とは何か』あすなろ社.
- 寺島隆吉 (2002)『英語にとって教師とは何か』あすなろ社.
- 寺島隆吉 (2007)『英語教育原論』明石書店.
- 寺島隆吉 (2008)『学習指導要領を読む視点』白澤社.
- 寺島隆吉・寺島美紀子 (2001)『魔法の英語』あすなろ社.
- 寺島隆吉・寺島美紀子 (2004)『センとマルとセンで英語が好きに変わる本』中経出版.
- 寺島隆吉・寺島美紀子 (2009)「TENSE・ASPECT・VOICEの認識・指導」『岐阜大学教育学部研究紀要：人文科学』第58号：103-146.
- 寺島美紀子 (1985)「記号づけによる準動詞の指導」『金沢大学教育学部教育工学研究』第11号：29-41.
- 寺島美紀子 (1987)『英語学力への挑戦』三友社出版.
- 寺島美紀子 (1990)『英語授業への挑戦』三友社出版.
- 寺島美紀子 (1991)『STORY OF A SONGの授業』三友社出版.
- 寺島美紀子 (2002)『英語直読直解への挑戦』あすなろ社.
- 白畑知彦 (2004)『英語習得の「常識」「非常識」』大修館書店.
- 福田誠治 (2006)『競争やめたら学力世界一』朝日新聞社.
- デュレイ, バート&クラッシュン (1984)『第2言語の習得』弓書房
- 村野井仁 (2006)『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店.
- 山岡俊比古 (1997)『第2言語習得研究』桐原ユニ
- ラーゼン=フリーマン&ロング (1995)『第2言語習得への招待』鷹書房弓プレス
- ロッド・エリス (1997)『第2言語習得理論のメカニズム』ちくま学芸文庫.
- Chomsky, Noam interviewed by George Mc Leod (2007) *Beware of State power* Bangkok Post
- Dulay, H. C. and M. K. Burt (1973) Should we teach children syntax? *Language Learning* 23: 245-258.
- Dulay, H. C. and M. K. Burt (1974) Natural sequences in child second language acquisition. *Language Learning* 24:37-53
- Ellis, Rod (1997) *Second Language Acquisition* Oxford.
- Hakuta, K. (1974) A preliminary report on the development of grammatical morphemes in a Japanese girl learning English as second language. *Working Papers on Bilingualism* 3: 18-42. Reprinted in E.M. Hatch (ed).(1978) *Second Language Acquisition: A Book of Readings*. Rowley, MA: Newbury House.

- Hofmann, Th. R. (1986) *10 Voyages in the Realms of Meaning* Kuroshio.
- Koike, Ikuo (1983) *Acquisition of Grammatical Structures and Relevant Verbal Strategies in a Second Language*. Tokyo: Taishukan Publishing Company.
- Krashen, S. D. and H. W. Seliger (1976) The role of formal and informal environments in second language learning: a pilot study. *International Journal of Psycholinguistics* 3: 15-21.
- Larsen-Freeman, D. E. (1975) The acquisition of grammatical morphemes by adult ESL students. *TESOL Quarterly* 9: 409-419.
- Makino, T. (1981) *Acquisition Order of English Morphemes by Japanese Adolescents*. Tokyo: Shinozaki Shoten.
- Porter, J. H. (1977) A cross-sectional study of morpheme acquisition in first language learning. *Language Learning* 27: 47-61.
- Schumann, J. H. (1979) The acquisition of English negation by speakers of Spanish: a review of the literature. In R.W. Andersen (ed.), *The Acquisition and Use of Spanish and English as First and Second Languages*. Washington, DC: TESOL.
- Shirahata, T. (1988) The learning order of English grammatical morphemes by Japanese high school students. *JACET Bulletin* 19: 83-102.
- Taylor, I. (1976) A natural approach to second language acquisition and learning. *Modern Language Journal* 61: 325-337.
- Tomita, Y. (1989) *Acquisition Order of English Grammatical Morphemes by Japanese Senior High School Students in an Instruction-Only Environment*. Master thesis, Joetsu University of Education.